

畫製作所)をいふ。

プロテスト (英 Protest) 抗議書。

プロバガンダ (英 proproganda) 宣傳。

プロフィール (佛 profile) 横顔の意味。

プロレット・カルト (英 prolet-cult) プロレタリア教育、プロレタリア教化のこと。

プロフィンテルン (Profintern) 赤色労働組合インターナショナルの略稱。参照。

プロボース (Propose) 申込む、提議する。

プロレタリア (Proletarian) 無産者。賃銀労働者等の意

プロモーター (Promoter) 増進者、助長者、振興者、賛成者等の意。

プロセス (Process) 通過した道程、過程。

プロマイド (Promide) 不変色素面の寫眞。轉じて俳優、風景等の端書形寫眞。

雰囲気 その周囲の空氣、情緒、氣分等をいふ。

文化 進化した學術文化の全相、人間生活の全過程をいふ。

文筆労働者 文筆を業とする無産者。

文藝批評 文藝上の作品または作家に對する批評。

ヘゲモニー (英 Hegemony) 指導權。

ペシニズム (英 pessimism) 悲觀主義。

ベスト (Best) 最善、全力、等の意。

ベター・ハーフ (英 better-half) 愛妻。

ペダンテイック (英 pedantic) 街學的の意味。

へたりこみ 労働争議の一戦術ですはり込みに同じ。

別途積立金 銀行、會社等が利益金の中から或る目的のため保留して置く積立金の一種。

ペナント (英 pennant) 應援團の用ひる小旗。

ペレン・ケラー 米人で盲啞の婦人教育家。

ペンクラブ (Pen club) 一九二一年に創立した(萬國ペン・クラブ)のことで、本部はロンドンにあり文筆家を會員とする文化的使命を強調するクラブである。

ペン・ネーム (英 pen name) 筆名。變名。

變態心理 健全でない狂的及び病的の心理状態。

變質者 先天的に精神及び肉體的又は病的の心理状態をいふ。

辯證法 (獨 Dialektik) なる語は元來論辯によつて事物を

社會・思想・常識

社會・思想・常識

社會・思想・常識

社會・思想・常識

社會・思想・常識

社會・思想・常識

社會・思想・常識

社會・思想・常識

社會・思想・常識

社會・思想・常識

社會・思想・常識

社會・思想・常識

社會・思想・常識

社會・思想・常識

社會・思想・常識

社會・思想・常識

社會・思想・常識

社會・思想・常識

社會・思想・常識

社會・思想・常識

社會・思想・常識

社會・思想・常識

社會・思想・常識

社會・思想・常識

社會・思想・常識

社會・思想・常識

社會・思想・常識

社會・思想・常識

分及運動 分裂反對運動。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

分及運動 分裂反對運動。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

分及運動 分裂反對運動。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

分及運動 分裂反對運動。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲル學派 (英 Davement) 鋪道。鋪石、アスファルト

セメント、石材、木煉瓦その他の材料で表面を強固にした

道路。

ページエント (英 pageant) 野外劇。野外で演ずる大仕

掛な芝居。

ヘーゲ

ポーズ (Pose) 姿勢、姿態等の意。
ボーナス (Bonus) 賞與金、慰勞金。
ホープ (Hope) 望、希望等の意。
ホームシック (Home-sick) 懷郷病、自分の家が戀しがること。
ホームスパン (Homespan) アイルランドやスコットランド地方に最も多く産する毛織物で、綿羊毛を手紡ぎにした太毛糸を用ひて手織にしたもので地質は粗くて、一種の趣があり、冬服及びオーバー地等によく用ひられる。
ホール (Hall) 廣間。講堂。
ホース・パワー (Horse-power) 馬力。
方法論 物事を研究する場合、研究に先立ちて豫めどういふやり方で研究するかといふことを決めておかなければ研究の結果がどんな方向に逸れてしまはないとも限らない。この研究の仕方が科學研究の方法であり、この方法を論じるものが方法論である。
報告文學 通信文學。ルポタージュ参照。
亡命 政治犯人が故國を遁れ他國に隱棲すること。
ホイッスル (Whistle) 警笛。

ボイコット (Boycott) 不買同盟、非賣同盟。
ポイント (Point) 要點、眼目、主意。
報徳主義 二宮尊徳翁の教訓に基き、勤勉力行、自力更生以て國恩に報ぜんとする主義である。尊徳翁の偉大なる精神は今日に於ても尙其の眞價を發揮しつゝある。
豐作飢饉 必ずしも飢饉は凶作にのみ限られない。近年は豐作でも飢饉を招來するに至つた。此の意味は非常な豐作には米價が暴落し、これが爲米を商品として賣つて生活する農民は著しく收入の減少を來す。これを豐作飢饉と呼んでゐる。昭和五年の豐作時代からの用語である。斯る現象の起るに至つたのは、自給自足を原則としてゐる農村に、資本主義が、漸次に浸入し、米作が商品生産化すると共に農家も必需品を現金で買ふやうになつた結果であつて、豐作で米價が下落すれば却つて困るといふ現象を呈するに至つたのである。これは農村の資本主義化の一例證でもある。故に最近では米穀の高底價格の決定を見るに至つた。
ポエツト (Poet) 詩人。
ボクシング (Boxing) 拳闘のこと。
ポケット・マネー (Pocket-money) 小遣錢。持金等意。

母權制度 原始社會では、女子が生産的任務を持つてゐて、従つて權力が強く、全村落を支配してゐた時代を母權制度の時代といふ。
保護色 生存の必要上動物が其體色を棲息場所の色に類似せしむること。女學生隠語で度々着物を取りかへること。
保護觀察所 思想犯の保護觀察を行ふ獨立の官廳である。
ボズ (Bos) 親方。政黨の領袖や、各種の親分等の意。
ポスター (Poster) 宣傳用の美しい色刷の印刷ビラをいふ。
ポテンシャル (Potential) 潜勢力ある。
ホネムーン (Honeymoon) 新婚旅行。
ボヘミアン (Bohemian) 放浪兒。
泡沫會社 基礎が薄弱で泡の如く吹けば飛ぶ様な朦朧會社奉仕。國家の爲にする國家奉仕、社會の爲に務める社會奉仕等。
ポピュラー (Popular) 通俗的、平易の流行的。
ホル ホルシエヴィズムの略、過激主義、共產主義のこと。
ホルモン (Hormone) 血液や淋巴液に混つて體中の種々の榮養其他の作用を助ける働きを爲すもので、ホルモンを出す器官を内分泌腺といふ、ホルモンの種類は腦下垂體ホ

ルモン、甲状腺ホルモン、胸腺ホルモン、副腎ホルモン等の數種があり各々其の作用を異にしてゐる、例へば甲状腺ホルモンは新陳代謝を盛にする作用をなし若し之が少ないと小人となる、腦下垂體ホルモンは成長を促し、多過ぎると巨人症となる等ホルモンによつて其の作用を異にするものである。一般にはホルモンは榮養劑、競争劑等に解されてゐる。
ボルシエヴィーキ (Bolshevik) 現在のロシア共產黨。「多數派」の意味。それは一九〇六年の第三回露國社會民主労働黨大會の際アレハノフ派とレーニン派とに分裂し、レーニンを頭目とする過激分子が、多數を占めたので、此の派の者を多數派即ちボルシエヴィーキと呼ぶに至つた。
ポリカルト ポリチカル・カルチュアの略、政治教育。
ホワイト・ハウス (White house) 白聖館、ワシントンの米大統領の官邸のこと。
本能 生物が生れつきもつて居る性質をいふ。
マ、ミ、ム、メ、モ之部

マーカントリズム (英 Mercantilism) 重商主義。貿易を第一とする國策論。

マーケット (Market) 市場、日用品を賣る市場。

マーク (Mark) 記號、商標、目標、附札等の意。

マーブル (英 marble) 大理石。

マーチ (英 march) 行進。

マイクروفオン (Microphone) ラヂオの送話器。

マガジン (英 magazine) 雜誌。

マカロニ (佛 macaroni) 西洋うどん。

マキシマム (英 maximum) 最大限度。

マキアベリズム 伊太利のマキアベリの政治思想で、國家的利己主義。國家發展のためには目的手段を選ばずとする主義。

マキシマリスト (英 Maximarist) 極端主義者。

マスター (Master) 主人、旦那、首長、先生等の意。

マスコット (英 mascot) 縁起物。

マソヒズム (英 masochism) 被虐性性慾現象。異性から虐待されることによつて性的興奮、快感を得るもの。

マチネー (伊 matinee) 晝間興行。

末梢的 重要でないものに、意味を見出すことを指して末梢的といふ。

マドモアゼル (佛 mademoiselle) お嬢さん。

マドロス (蘭 madros) 下級船員。

マニキュア (英 manicure) 美爪術。

マニア (英 mania) 氣狂。熱狂等の意。

マネキン・ガール (英 mannequin girl) 百貨店などの陳列臺やショウウインドに立つて流行の衣裳や装身具を付けて、顧客の注目をひき、購買心をそゝり、商品の宣傳をとめる婦人の職業。

マネジャー (Manager) 支配人、管理人、經營者、取締役、監督者等の意。

マツス (英 Mass) 大衆。

マヌバー (英 Manoeuver) 動員。訓練。

マフラー (Muffler) 衿巻のこと。

マルクス主義 プロレタリアートの革命及實踐についての理論で、科學的社會主義又は共產主義。

マルサスの人口論 人間は食物が必要である、而して人口の増加率は食物の増加率を超える。即ち人間の性慾は將來

も現状を維持するであらうし、然りとすれば人口の増加は免かれない、しかも人口の増加は二十五年を一期として二から四・四から八・八から一六といふ風に等比級数的に増加するに對し、生活物資はその期間に二から四・四から六・六から八といふ風に等差級数的にしか増加しない。故人類中誰かが貧困に苦しまねばならぬといふのである。

マンモニズム (英 Mamonism) 金力萬能主義。

マンネリズム (Mannerism) 平板調、同一様式等の意、千遍一律。

マンホール (Manhole) 人孔掃掃口。

ミス (Miss) 嬢、未婚の婦人。

ミステリー・ドラマ (英 mystery-drama) 神祕劇。

水先人 水先法により一定の試験を経て特に官廳の許可を得たる船舶の水路航行嚮導者。

ミゼラブル (英 miserable) 悲惨な。不幸な。

未組織大衆 組合或は黨に入らない、まだ組織されない一般大衆。

未知數 數學上より轉じて一般の前途の知り難きものをいふ。

ミッション・スクール (英 mission school) キリスト教の宗敎學校。

南十字星 星座の名で、南極の天にある星・クルツクスともいふ、四つの星が十字形に竝んであるので此の名がある、方向を見定めるに利用される星である。

ミニユエツト (佛 minuet) 人形。

身分 法律によつて與へられた社會上の地位資格。

身分保障法 文官分限令のこと。

三宅坂 俗に陸軍のことをいふ。

ミリタリズム (英 militarism) 軍國主義。

民族意識 同一民族に共通せる思想感情。

民生主義 三民主義の一つ。三民主義を見よ。

民衆化 民衆本位とすること。

民本主義 平等の思想に基く思想形態で人民の輿論を聽いて政治を行ひ人民の幸福を増進せんとする主義。

ミント・パー (Mint-par) 外國爲替上の語で、法定平價のこと。

ムード (Mood) 氣分、或は情緒。

ムーブメント (英 Movement) 運動。

無軌道主義 あたりばつたり主義。方針なき運動方法。
無保證新聞 時事問題を掲載しない新聞。
無産政黨 無産階級や中産階級を代表して生れる政黨。
無産者 財産なくして肉體的或は頭腦的に働いて生活する人々。

無新 無産者新聞の略。
無政府主義 アナーキズムの譯語。個人の絶對的自由と政治權力の否定の上に立つ一種の社會主義理論。
無機物 生活機能なきもの、土、石、水の如し。
無抵抗主義 暴壓に對し抵抗しない主義、トルストイ、ガンヂー等之を説く。

無産階級獨裁 プロレタリア獨裁を見よ。
無産者藝術 無産者意識を表現した作品、社會的不合理に對し改造的熱情の現はれた作品。
ムジーク (露) 農民、百姓。
夢遊病 精神病の一種で夜中に無意識に起き出で種々の動作をする病氣。

メイデー (英 May-day) 五月一日の労働祭。
メイキャップ (英 make-up) 扮装。お化粧。

メイド・イン・ジャパン (英 made in Japan) 和製。
メイン・ストリート (英 main street) 大通り。
メインカレント (英 Main current) 主流。幹流。
命題 ある判断を言葉で表したもの。「人は動物なり」も一の命題である。

迷宮 一度入れれば容易に出られぬ宮殿。轉じて事件の真相の判明せざること、又は犯人の目星のつかぬこと。
メカニズム (英 mechanism) 宇宙機械觀。一切の宇宙現象を因果的必然の機械的法則又は作用によつて説明しやうとする主義。

メガホン (Megaphone) 擴聲ラッパ、擴聲器。
メツチエン (獨 Mädchen) 愛人。
メツセージ (英 Message) 挨拶書。通牒。教書。
滅私奉公 私を滅ぼし公に奉ずるの意。
メストコム (露 Mestkom) 地方委員會。
メトロポリタン (英 metropolitan) 大都會。首都、首府。
メニュー (佛 menu) 獻立表。
メフィストフェレス (獨 Mephistopheles) ファストが靈魂を賣つたと傳へられる悪魔。

メモ (Memo) 備忘、備忘録、控え、覚え。

メランコリー (英 melancholy) 憂鬱。

メリー・ゴー・ラウンド (英 merry-go-round) 回轉木馬

メロディー (英 melody) 旋律。ふし。

メロドラマ (英 melodrama) 俗劇。

メンタル・テスト (英 mental-test) 精神考査。口頭試問。

メンバー (英 Member) 會員。組合員。

面子 (支那語) 日本でいふ體面とか面目に同じで、支那人は盛んに面子を重んじて、金持は高いと知りつつも高い品物を買つて、たとへ同じ品物でも價の安い方を買はぬ。といふやうに利害のみでは動かぬ一面がある。

モーション (Motion) 動作、舉動等の意。

モード (Mode) 流行型。流儀。

モーラル・サポート (Moral support) 徳義上の援助、精神的援助。

モーパッサン (Maupassant, Guy de) フランスの小説家。傑作に「女の一生」「美貌の友」等がある。

妄想 道徳に戻るやうな考へ、妄らな思ひに耽けること。
目的意識 労働者の自然成長的組合主義意識に對して、資

本主義社會の内的矛盾を認識し、政治闘争によつて、労働者階級を資本の軛から解放し、新なる社會を建設せんとする意識のこと。

モダン (Modern) 現代的、近代的、新奇な。

モデル (Model) 模型、模範等の意味もあるが、多く作品の手本、材料となる人間。

モダニズム (英 modernism) 近代主義。

モツプル (MOPL) 國際赤色救援會。

モツト (英 Motto) 標語。金言。

モツブ (英 Mob) 暴民。一撥。

モニュメンタル (英 monumental) 特筆すべき。

モーメント (獨 Moment) 機會。契機。

モルガン (英 Morgan) アメリカの大金融資本家、及びその財閥。

モン・アミ (佛 non ami) 「吾が愛人」といふ意。

モンsoon (英 monsoon) アフリカや南洋方面に吹く季節風。

モンスター (英 monster) 怪物。

モンタージュ (英 Montage) 映畫製作過程上の術語で、

編輯構成。

モンロー主義 米國第五代の大統領モンローが、南北アメリカ大陸につき歐洲諸國の干渉を許さないと同時に合衆國は歐洲諸國の内政に不干渉の旨の宣言をした、之をいふ。今日でもこの主義にて進んでゐるが、實際は米國への干渉は排撃するが、自からは諸外國に向つて干渉しつゝある。

ヤ、ユ、ヨ 之 部

八百長 双方密かに妥協し表面を装つて勝負などをすること。

野外劇 青天井の下で天然を背景して演ずる劇。

大和魂 我が國には古來より國民に(大和魂と云ふ外國人には見られない精神的強さを持つ民族である。即ち大和民族固有の精神で、忠君愛國の獻身的な精神を核心とするもので忠勇義烈な武士道的精神は代表的表現である。

山鯨 (ヤマクジラ) 猪のこと。猪は山の鯨に相當するといふ意味。

香具師 (ヤシ) 縁日、祭日などで言葉巧みに粗悪品を賣る人、見世物興行師。

山川イヌム 一時我が國の左翼運動に對して指導力をもつてゐた山川均の理論。

やまとなてしこ (大和撫子) 海外出稼日本婦人の異名。

山伏 山野に起伏して修行する僧侶。

暗氣配 (ヤミキハヒ) 取引所休日中の相場の形勢。

ヤンキー (Yankee) 米國北都のニューイングランドの住民に付けた綽名、南部諸國の人民が區別して北部諸國の米國人を呼ぶ稱であつたが今は一般に米國人全體の綽名となつた。

ユーゼニツクス (Euteneics) 人類を改良せんとする學問、優生學。

ユー・エス・エス・アール (U. S. S. R) 社會主義ソヴェート共和國聯邦の略。(Union of Socialist Soviet Republics) の頭字をとつたもの。

ユートピア (英 utopia) 理想郷。夢幻郷。

ユートピアン・ソシアリズム (utopian socialism) 空想社會主義。

ユーモア (humour) 滑稽。諧謔。

友愛結婚 (英 companionate marriage) 友愛結婚とは、

法律化された産兒制限と、子供の無い場合に於ける相互承諾による離婚の権利とを含む合法的結婚。

有神論 神の實在を主張する主義、信仰主義。

有閑階級 恒産あつて生活に餘裕あり労働する必要もなく閑に任せて遊び暮す階級の人々。

有機體 生物の如く、各部分が一定の必然的關係によつて全體的に統一されてゐる自然體。

唯心論 世界の本體は精神又は觀念或は心であつて、物質や現象の如きはこの觀念の顯れであるとの主張。

唯物史觀 社會の構成及びその變革過程を體系づけたプロレタリアートの革命的理論で、マルクスとエンゲルスとに依つて唱導されたものである。彼等に依れば、社會の眞の基礎は經濟的構造であり、國家乃至は法律の政治過程は上層建築で、宗教、道徳、藝術、學藝等の諸觀念も亦生産過程に相當する上層建築に他ならずと解し、この見解に基いて一切の社會の實相を把握するものとなし、從來の哲學上の理念は人類生活の本質的なものではなく、凡べて經濟的關係が原因となつて生じたもので、これを通じてのみ説明し得られるのだと主張するものを謂ふ。

唯物論 物質が本源的なもので、精神は高度に發展せる物質の機能にすぎないと見る見解。

ユモレスク (佛 humoresque) 狂想曲。諧謔調。

ユニオン (Union) 併合、聯合、同盟、組合、協會。

輸血法 血液を他人の血管に注入すること。

輸入管理 無制限な輸入を制限し國際貸借上有利の結果を得んとする政策で統制經濟政策の一である。

ユダヤ人 世界各國に散在し約一千万人と稱せられ非常に理財に長じ、住む國の財政上の支配的地位に立つこと多く世界の金融界に君臨し居ると稱され、民主主義を奉し居るを以つてドイツ、イタリは之を排斥し英米は之を擁護せんとしてゐる。

要因 重要な原因といふ意味。

輿論政治 國民一般の要望に應じて行ふ施政状態をいふ。

養燕家 有閑婦人が年下の綺麗な青年の情夫を手なづけること。

豫約出版 まだ本を發行しない先に客と豫約し代金の一部を前納させて出版すること、故に嚴重な取締を受く。

揚棄 獨逸語のアウトフヘーベンの譯である。普通「止揚」

と譯してゐるが、福本和夫は「揚げる(高める)」といふ方をすてる(止める)といふより第一次的に主要的に考へる方が辯證法的だと考へる」とて之を「揚棄と譯した。アウフヘーベンの項参照。

要視察人 官憲からふだんにその行動の視察を必要とされてゐる人。

ラ、リ、ル、レ、ロ、ワ之部

ライナー (Liner) 野球用語、直球のこと。

禮讚 尊敬して讚美すること。

ライブラリー (Library) 図書室、圖書館、藏書等の意。

ラヴ・アフエア (Love affair) 戀愛事件。

樂天主義 人生世界を最善快樂なりとする人生觀。

ラシヨナリズム (Rationalism) 合理主義。

ラジオ・ドラマ (Radio drama) ラヂオ劇。

洋妾 (ラシヤメン) 外人相手の淫賣婦。

ラスト・ヘビー (Last heavy) 最後の努力。

ラツガー (Rugger) ラグビー・フットボールをやる人

ラツキー・セブンス (Lucky seventh) 幸福の七回目。

ラツプ・タイム (Lap time) 運動用語、競走を幾等分して其れに用した時間をいふ。

喇嘛教 (ラマケウ) 西藏を中心に蒙古一帯に行はれて居る佛教の一派をいふ。

ラツシュ・アワー (Rush hour) 雑踏時間。朝夕の通勤時間。

ラディカリスト (Radicalist) 急進主義者。

ランデヴー (Rendezvous) あひびき、密會。

ランチ (Lunch) 晝食の意 (Lanch) 小汽艇。

ランニング (Running) 徒歩競争。

リーダー (Leader) 指導者。首領。

リーグ戦 リーグは同盟、聯盟等の意、我國では早、慶、明、法、立、帝の六大學野球リーグ戦が特に有名である。

リーフレット (Leaflet) 一枚刷の宣傳用文書。

リード (Lead) 導く、指導する、牛耳る、率先する。

リーベ (Liebe) 愛人。

リアリズム・リアリズム (Realism) 現實主義。

リアリスト (Realist) 現實主義者。

梨園 (Lien) 芝居の社會。劇團。

利己主義 自己の利便のみを計つて他人の迷惑を顧みない主義。

理性 智のみが中心となつて理論的に判断、思考する能力のこと。

理想主義 人の智識、修養、經驗から想像して築き上げ全能力を以つて何時か實現し得る可能性ありとして追求主張する主義。

リスト (List) 一覽表。

リズム (Rhythm) 音律、律度。

リフレンダム (Referendum) 一般投票。

リプロダクション (Reproduction) 再生産。

リベラリズム (Liberalism) 自由主義。

リポート (Report) 報告、通信、判決録等の意。

リクイダートル (Liquidator) 解黨派。清黨派。

リュツクサツク (Rucksack) 登山家やハイカーが用品を入れ背負ふ防水布で作つた大型の袋。

リニツク (Lyrical) 抒情詩。

リンチ (Lynch) 私刑。

隣保事業 細民目當てに善隣事業を営むこと。

理研 理化學研究所を略稱したるものである。即ち我が國の産業向上發展を目的として、其の基礎をなす、物理、化學、及び其の應用方面を研究する所を東京市本郷に設けられたのを謂ふ。工場をも有し、機械の製作、藥品、食料品等の研究、發明をなし、販賣をもなしてゐる。

流言蜚語 右は正確なる意味に於ては無稽の事實を他言し社會に悪影響を及すものを言ふ。然し實際上の取締の對象となるものは、其の内容眞實なると否とを問はず世人をして疑惑の念を起さしむることに因つて社會不安を惹起する虞れある言動を防遏せんとするに在る。例へば今次事變の現地に於ける出來事を無責任なる現認者より傳へられたる事實を他言したる者も反國家的或は反社會的言動は流言蜚語として取締つゝあり、其の影響の及ぶ所にして人心を惑亂せしむるものは其の對象として取締るべきは當然なりとす。

ルージュ (Rouge) 化粧用の棒紅。

ルーズ (Loose) 粗雑なる、だらしないなどといふ意味。

ルーフ・オヴ・ザ・ワールド (Roof of the world) 世界。

界の屋根の意味で、ヒマラヤ山脈。

累卵 つみかさねた卵、あぶないこと。

ルネツサンス (英 Renaissance) 文藝復興期。

ルバシユカ (露 rubashka) ロシア風の上衣。

ルポタージュ (Reportage) 報告文學或は新聞記者などの

長い報告記事の如きものを云ふ。

ルンペンインテリゲンチヤ (獨 unpenintellignetsia) 浮

浪知識階級。

ルンペン (英 Lumpen) 浮浪者。

レーステト・ファツシヨン (英 latest fashion) 最新流行

型。

靈感 靈の神秘的な作用によつて表れる感覺。

黎明期 國民全體が自覺しさらに文化の新生活に進まんと

する時期を云ふ。

レーゾンデートル (佛 Raison d'être) 存在理由。

レース (Race) 競走、例へばボート・レース等の如し。

レーヨン (Rayon) 人造絹絲。

レヴィジヨニズム (英 revisionism) 修正派社會主義。

レヴオリューシヨン (英 revolution) 革命。

レヴュー (Review) 愉快なナンセンス物語をダンスや唄

などで次から次々と急テンポに運んで行く劇。

歴史的使命 或る階級が歴史的に背負はされた使命。

レギュラー (英 regular) 正則の。

レガツタ (Regatta) 競漕のこと即ちボートレース。

レパートリー (英 repertory) 目録。

レフト (英 Left) 左翼のこと。

レポ レポリューシヨンの略。革命。

レポート (英 report) 情報。

レポーター (英 report) 報導者、連絡者。

レコード (Record) 記録、蓄音機の圓板。

連記投票 選挙人が定数の被選挙人を全部列記する投票、

貴族院伯子男爵互選議員選挙に此制を用ふ。

連帯債務 債務者間に連帯關係ある債務、

レジスター (Registes) 金銭計算器。

レストラン (Restaurant) 西洋の料理屋のこと。

レセプション (Reception) 迎接會、招待會、歡待會。

レスリング (Wrestling) 西洋角力のこと。

レディ・メイド (Ready-made) 既製品、出来合品。

レベル (Level) 水平線、水準、標準。

レフェリー (Referee) 審判官、主審。

ローカル・カラー (英 local colour) 地方色。田舎的。

ローズ物 きつ物。

ローズング (獨 Losung) スローガンの獨逸語。

ロイテル通信 世界通信界に覇を唱へてゐるロイテル通信

社(イギリス)の通信をいふ。

勞藝 勞農藝術家聯盟の略稱。

勞働價值論 商品の價值はその生産の爲に要した勞働の量

に依つて決定されるといふマルクスの經濟學說。

勞働力 勞働者の人格の中に存在する勞働遂行の能力。

勞働者管理 勞働者の手で工場を經營管理すること。

勞働貴族 勞働者の上層にある熟練工、勞働監督、役付職

工、共済保險組合等の幹部等を指す。

勞働ブローカー 勞働者のストライキに際し勞資相互の間

を巧みに泳ぎ廻り勞働者の利益を資本家に賣つて私腹を肥

やす人達。

ロジカル (Logical) 論理的な筋道のとほつた。

ロック・アウト (Lock-out) 工場閉鎖。

ロマンス (Romance) 波瀾に富んだ物語りの意。

ロマンチック (Romantic) 空想的・小説的、傳奇的。

ロンドン條約 昭和五年四月ロンドンに於て締結せられた

日英米の海軍軍縮條約であるが現在にては何等權威なくな

つた。

ロボット (英 robot) 人造人間。

ロケーション (英 location) 地方出張撮影。

ワールド・シリーズ (World series) 米國に於ける職業野

球團の世界選手權試合を云ふ。

ワークショップ (英 Work-shop) 職場。

ワーシップ (Worship) 崇拜。

Y・M・C・A キリスト教青年會。

Y・W・C・A キリスト教婦人會。

倭寇 南北朝頃より足利時代に亘りて我國の邊民相黨して

しばしば支那朝鮮の沿海を掠めたり、彼の國人これを倭寇

と呼ぶ。

和衷協同 ところを合せてなすこと。

惑星 遊星、轉じて社會の注視的になつてゐる疑問の人

ワット (英 watt) 一ツオルトの電壓で、アンペアの電流

を通じて生ずる電力。
ワシントン會議 米國大統領ハーディングの招請によつて一九二二年十一月より一九二二年二月にワシントンで開かれた海軍軍備縮少會議。主力艦の制限會議。
ワルツ (獨 *waltz*) 圓舞曲。快活な舞踏曲。
ワンピツグパーティー (英 *One big party*) 一大政黨主義。
ワン・サイド・ゲーム (*One sided game*) 競技その他試合に兩者の技倆が餘りに相違して一方的の試合となり面白くないこと。
ワン・ピース (*One piece*) 上衣とスカートが一枚で出来てゐる婦人洋服のこと。

社會思想常識 終

國漢常識

ア之部

綠門(アーチ) 杉などの葉でかざつた門。
曖昧 はつきりせぬこと、あやふや、怪しい。
藍より出て、藍より青し 弟子が師より優ること。即ち青は藍より取るが藍より一層青いといふ意。
哀訴 事情を打明けてねがふこと、哀願も同じ。(哀訴歎願等いふ如し)
生憎 折あしく都合悪く等の意。
阿衡(アカウ) 宰相のこと(阿衡の任)とか(阿衡の争ひ)等に用ふ。
阿彌陀 佛の名號で・無量壽命・又は無量光明と譯す梵論
閻伽迦(アカダナ) 神佛に水を供へるたな
胡坐(アグラ) 足をくんですはること。
蹶蹶(アクサク) さよひなる事にしきりに心配する。こせつくこと。
缺掌(アウシヤウ) せはしくたち働くこと。又せはしく立

國漢・常識

ち働きて容儀をつくるふに暇のないこと。

秋の七草 (萩)(尾花)(葛)(撫子)(女郎花)(藤袴)(桔梗)の七種。昔は桔梗の代りに朝顔を入れてあるが、今いふ朝顔

のことではない様である。
網代木(アシロギ) 古くより行はれた漁獲法で、竹や木の枝を網のやうに組んで川の中に柵を作り、魚を誘ひ入れて

捕獲する仕組を謂ふ。主として冬期行なはる。
軋轢(アツレキ) せりあひ、もめること、相争ふこと。
呆氣 驚きあきれること。

四阿(アツマヤ) 庭園などに設けた小亭。
天晴(アツバレ) ほめたたへることば。りつば、けなげ。

幹旋 とりもち、せわ、周旋。
壓制 むりにおさへつける、壓迫、強制。

阿附 へつらいつくこと。おべつか等の意。
天津日嗣 天津日繼、天つ日の御代よりつきつき傳へ嗣ぎ

給ふ義にして 天皇の御位をいふ。寶祚。天位。等の意。
甘粕事件 大正十二年九月十六日無政府主義者大杉榮夫妻

を絞殺したる事件。
暗誦 そらよみ。暗記して讀むこと。

雨を肩して葦(ニラ)を剪る 朋友が來訪したるに對し喜び迎へ親切に取扱ふ意。

暗中飛躍 かげで盛に活躍又は運動すること。

暗殺 やみうち、だましうち。

晏如(アンジヨ) おちついてゐるさま。

晏駕(アンガ) 天子の崩御あそばされること。

暗號 あいことは、あいづ、符牒。

安堵 居住に安んじて住む。安心。

安車蒲輪(アンシャホリン) 老人を優遇すること。老人をいたはる爲の乗用車の車輪に蒲の葉を巻いて動搖を防ぐ様にした車といふ意。

暗黒時代 人の心や道徳の墮落腐敗した時代。

安危 やすいあやふいこと。轉じて重大なる意

安外 思ひの外。意外。

暗礁 海中のかくれ岩。

按察 もみれうじ、又はそれを爲す人。

1 之部

唯々(イイ) 唯ははいと答へること、二字重ると非常に敬

禮の詞。

憂悚(イウシヨウ) 心にうれひわづらつてびく／＼する。

鵠蚌(イツバウ) 漁夫の利と云に同、二者相争つて其の利益を第三者に占めらるゝを云ふ。即ち兩者相争ふ間に他の者にその利を獲らるゝこと。

以夷制夷策 夷は外國の意にて、支那人の常套語で例へば抗日にても、英、米、ソ聯等を利用して日本を壓迫せんとする外交策を云ふ。

一舉兩得 一舉にして二つの利益を得ることの意。

一瀉千里 勢のよいこと、威勢の盛にして速く進むこと、一時を糊塗す 表面を一時的に繕ふこと、

一掬の水 兩手にてすく程度の水、少ないこと、

一蓮托生(イチレンタクシヤウ) 極樂浄土で諸共に蓮臺に生れることを欲するといふ意、即ち共に極樂に往生を遂げ死後までも相離れまいといふこと、轉じて・内閣等が同一行動に出で總辭職する時等に用ふ、總てが同一行動に出ることをいふ。

一視同仁 一樣に視なし、同様にいつくしむ義で、天下の人を親疎の差別なく同じ様に愛すること。

ウ之部

烏兔(ウト) 日と月との異稱。

烏有に歸す 火事のために家財全部を焼失すること。

有爲轉變、此の世の變化の極まりなきをいふ。即ち生・住・異・滅の四相が極りなく來るといふ意。

獨活(ウド) 植物の名。

右近の橋 平安内裡紫宸殿の南階の右にある橋をいふ。左

近の櫻と共に有名である。

宇内(ウナイ) 天下と同じ、世界の意。

羽翼(ウヨク) ある人を助けて相談相手となる人々をいふ

馬進まず 謙遜して己が功を誇らぬこと。

賣込む、刑事又は警察官に他人の不正行爲を密告すること。

迂愚(ウグ) おろか者のこと。愚者の意。

鬱憤(ウツブン) 長い間腹の中に止めて置いた憤りをいふ

迂遠(ウエン) まはり遠いこと。

盂蘭盆(ウラボン) 佛語、陰曆七月十三日から十五日まで祖先の靈を祭ること。

裏南洋 日本委任統治の南洋諸島をいふ。

一炊之夢(イツスキノユメ) 邯鄲之夢に同じ、一度飯を炊く間に見る夢の意で、人生のたのみ難く盛衰のはかないさまを形容したものである。

一切經 大藏經ともいふ。佛教の經文全部をまとめたもので、約九千卷あり、日本では漢文に譯したものを用ひてゐたが、最近は國文に譯したものも出來た。

移木の信(イボクノシン) 信用出來ること。

威嚇(イカク) おどす、おどかす。

威風堂々 威嚴あり且つ威勢の盛なる有様をいふ。

意馬心猿(イバシンエン) 放從なる卑しき心の動きの意。

殷鑒遠からず(インカントオ) 他人の失敗を見て自己の戒とせよの意。

允文允武(インブンインブ) 天子に文武の徳が備つてゐること

とをほめたたへた語。

隱忍自重 ぢつと耐へ忍んで落付いて居ること。

因循姑息(インジュンコソク) 公正ならざること、徹底せぬこと。

因襲打破 昔しからのならはしを改ためること。

蘊奧(ウンオウ) 學問や技藝など底奥まで極めること
 蘊蓄(ウンチク) 素養の深いこと。
 雲蒸龍變(ウンジョウリウヘン) 有爲の士が機會を得て世にあらはれること。出世すること。

エ・エ之部

觀聖文武 天子の知徳すぐれて事理に明るく文武のすぐれさせ給ふこと。
 易簣(エキサク) 人の死を云ふ。
 會釋 合點のゆくこと、挨拶すること、斟酌すること。
 會者定離(エシヤジウリ) 會ふものは必ず離れるといふこと。盛者必衰、會者定離等と云ふて、世の無常を説いた語である。
 回向 佛語で、自己修徳の功徳により自他共に佛果を成就しようとする期すること。讀經又は布施等をなし亡靈の菩提を念じ追善なすこと。
 猿猴月を取る 慾の爲めに命を捨つるを言ふ。猿が井水に映じた月を取らんとして死んだといふ意味。
 掩護(エンゴ) おほひまもること。

淵源 みなもと、物事の根元。
 圓轉滑脫(エンテンカツダツ) 言葉上手で角が取れた如才のないこと。
 婉曲(エンキョク) 遠まはしに如才なく物ごとを言ふこと
 冤罪(エンザイ) 無實の罪、ぬれぎぬ。
 沿革(エンカク) 今までの経過、又は歴史といふ意。

ヲ・オ之部

懊惱(オウノウ) なやみもだへること。
 謳歌(ヲウカ) うたい喜ぶ、めではやすこと。
 橫溢(ヲウイツ) 一ぱいにあふれ漂ふこと、盛かんなさま
 嗚咽(ヲエツ) すり泣き、悲しみの餘りすり泣くこと
 臆測(オクソク) はかり知る、推測、おしはかること、揣
 摩臆測等といふ。
 大内山 皇居のこと、宮城といふに同じ。
 大御稜威(オホミイツ) 天子の御威光をいふ。
 表南洋 佛領印度支那、タイ國、馬來聯邦、フィリッピン
 英領ボルネオ、蘭領東印度諸島をいふ。
 踊る 拘摸仲間の隠語。犯罪行爲を發見せられて、他人に

騒がることをいふ。

溫故知新(オンコチシン) 古きをたづねて新しきを知ること。
 溫厚篤實(オンコウトクジツ) 溫和で徳の高きこと。

カ之部

改過遷善 過失を改め善行に遷ること。
 介意 氣にかける、心配。
 怪異 あやしい、ばけもの。
 概括 すべくする。引くるめる。
 懷疑 疑をいだく、うたぐり。
 解纜(カイラン) 船のともづなを解くこと、出帆すること
 慨歎(ガイタン) なげくことかなしむこと。
 骸骨を乞ふ(ガイコツ) 官職を辭すること。
 快刀亂麻を斷つ(カイトウランマ) 物事の處理が適切敏速なること。
 諧謔(カイギヤク) おどけ、しやれ、滑稽、しやれ言。
 解禁 禁止をとくこと。
 概況 あらましのようす。

畫餅に歸す 無駄になること、徒勞に終ること。
 渦中に投ず 或る事柄に關係すること。
 邂逅(カイゴウ) 思はずでつくはす、不意に出逢ふ、めぐり逢ふこと。
 外牒 外國の牒報機關の略で、我國の軍事上、外交上、其他機密事項を秘密裡に探索して之を外國に牒報する機關を云ふ、所謂スパイの類。
 江湖(カウコ) 支那の江南地方を稱したもの、轉じて、世の中、世間一般の意。
 綱紀(カウキ) 人倫の大道、國家の法度にたとふ。
 狡猾(カウカツ) ずるい、こすい、卑しい心根。
 嚆矢(カウシ) 事の始まりを云ふ。
 宏遠 ひろくして遠く深いこと。
 案山子 かがし。
 廓清(カクセイ) 悪いこと汚れたことを改善すること。
 攪拌(カクハン) かきまはすこと、かきまぜること。
 確執 互に意見の對立すること、争ひごと。
 罌鏡(カクシヤク) 老ひて尙身體の丈夫なることをいふ。
 核心に觸る(カクシン) 問題の中心を知ること。

寡言篤行(カゲントクカウ) 口數少くして行ひの正しきこと。

我を折る 強硬なる意見を捨て讓歩すること。

肩を持つ ひいきする、かばふこと。

隔靴搔痒(カクカサウヤウ) 趣意の徹底せざること。ものたりないこと。

欄筆 ふでをおきて書きやむこと。終りの意。

覺醒 さとしさます。目ざめること。

蔭辨慶 人の居ない所で威張ること。

籠抜け 詐欺の一種。犯人が騙取後逃走の手段として利用する型なり。空家、官廳、會社、病院等を利用し、表支關又は入口に待たせ、裏口より逃げ出す。貴金屬、證券、時計、呉服、飲食物、釣錢を奥に入つて渡す様を爲し金品を持逃げするものなり。

賢所 内侍所とも稱し、宮中豊明殿の内にありて神鏡を奉安し祭られる所。

鹿島立(カシマダチ) 首途、旅立つこと。

稼穡(カシヨク) 穀物をつくり收めること、農作のこと。

牙城(ガジヨウ) 本據、中心。

環境(カンキョウ) 周達の有様、身邊の模様、境遇。

感銘 其の事を深く心に止めること。

簡潔 かんたんにしてはつきりしてゐること。

旱魃(カンバツ) 雨が降らず日でり續きのこと。

感傷的 事物に感じ易きこと。

肝膽相照 双方意志の合致。互ひに胸中を吐露して交り結ぶこと。

間髪を容れず きはどいこと、非常に急ふなこと、間斷と同時に續くこと。

海峽植民地 イギリスの直轄植民地で、シンガポールを首府とする同島、ビナン島、その他附近の諸島を含む地にして一名英領マレー群島とも言はれてゐる地方を言ふ。支那事變以來排日運動の激烈を極め注目せられる地である。

花押(カヲウ) 書判ともいひ、諱又は名の文字をくづし書きにして署名の代りにしたもの。初め支那に起つたもので平安時代に我が國に入り、鎌倉時代、書體が武家風と公家風とに分れた。現在でも用ひてゐる人もある。

狩野派 狩野正信を祖とする日本畫の一派でその子孫は代々畫で名高く、第二世元信以後は土佐派と共に朝廷の繪所

苛政虎よりも猛し 苛酷なる政治は人民に及す害は虎の害よりも猛烈であるといふこと。

葛藤(カトウ) いきさつ、あらそい、ごたごた。

勝て兜の緒を締る 戦に勝つても尙ほ油斷せぬこと。

語るに落ちる かくそうとすることが、話して居るうちに知らず識らず言ふて仕舞ふこと。

果斷 思ひ切つて事をきめること。

千支(カンシ) えと。十千と十二支のこと。

干城 國家の楯となり、城となりて守ること。軍人のこと。

關心 興味、或ることに對し心のひかること。

管轄 權限で支配する範圍のこと。

閉却 うちすておく、なほざりにする。輕ずること。

感激 ひどく感ずること。

寬嚴 ゆるやかなと嚴しいこと。

間隙 すきま。ひま、仲たがひ。

奸策 いつはり、わるだくみ。

頑迷 世の中にうといこと、世事になれてゐないこと。世事を知らないこと。

寬恕(カンヂョ) ゆるすこと。寬大に見て許すこと。

預となり、分家も亦江戸幕府の御繪師となつて大いに榮えた。中でも有名なのは元信・永徳・山樂・探幽等で、多くは江戸に住み、後に宗家を「中橋狩野」といふた。

冠木門(カブキモン) 二本の門柱の上に横木を架渡され兩端が柱に差込(冠木)である門を謂ふ。多くは扉戸を附してゐる。

華胄界(カチウカイ) 貴族社會のこと。華胄とは貴族の子弟の意である。

勸進帳 1 寺や神社等を建てる爲の寄附金を募るといふ趣意を書いて人々に廻す巻物。勸進状ともいふ。

2 謡曲の「安宅」に本づき、種種の謡ひ物や芝居などに作られてゐるが、中でも名高いのは江戸長唄とその舞踊、歌舞伎十八番の中の勸進帳は有名である。

神無月 陰曆十月の別名であるが、今は太陽曆の十月にも用ふ。日本全體の神々が出雲の大社に集つて留守になるのでこの名があるといふ俗説もある。(かみなし月)ともいふ。

キ之部

牛耳を執る 首領となること・或る團體を左右してゐること

と。

義捐(ギエン) ほどこし。寄附。

九星 一種の占なひで、一白・二黒・三碧・四緑・五黄六白・七赤・八白・九紫の九つの星を本とし、之を人の生れ年にあてはめ、更に木・火・土・金・水の五行にあてはめて、人の性質・運命、その他方位の吉凶等を判断するに古來より用られたるを云ふ。

騎虎の勢 事をやり出た以上中途で止めんとしても止める事のいきぬさま、盛かんさま。

規矩准繩 (キクジュンジョウ) 法則の意。綱領等の意。

棄却 すて、取上ぬこと。

機構 組織の意味だ。

冀察政權 支那事變前に北支安定の爲め新政權を樹立し宋哲元を委員長とする日滿支の調整、防共及地方開發を目的として河北チヤハル兩省の政治を行ふたもの。

疑心暗鬼(ギシンアンキ) 心に何か疑ひをさしはさまみ種々の妄想をひきおこし心のやすらかならざること。

機宜の措置 時に適した宜しきを得たやり方のこと。

機先を制す 人の出鼻を挫く、一足先んじて人を制するこ

虚心坦懐 (キヨシントカンカイ) わだかまりなきこと。

毀譽褒貶(キヨホウヘン) ほめること、そしること。

狹隘(キヨウアイ) せまいこと。

漁夫の利 第三者に利益を占められること。

僥倖(ギョウカウ) 仕合せ、思はぬ幸ひ。

踟躕(キヨクセキ) 非常に恐れて身の置き處のないこと。

共鳴 賛成すること、成程と感心すること。

鄉黨尙齒(キヤウトウシヨウシ) 生地又は村里に於ては年齢の高い人を尊び敬ふと言ふこと。

拮据經營(キツキヨケイエイ) 事業をいとむに種々苦心すること。

疑惑(ギワク) うたがひ。うたがうこと。

欽定(キンテイ) 天皇のお定めになること。

金蘭の契(キンランノチギリ) 極めて親しきまじはり。二人

人心を同じくして交るときは、成し難きことも爲し遂げ得るといふこと。

緊縮 かくひきしめること。

緊張 ひきしめること。

金城鐵壁 堅固で安全な居所。

と。

機を見るに敏 時期や機會を見るにさといふこと。

危惧の念(キグ) 恐れ危ぶむ心。

木遣 木遣歌又は木遣音頭ともいふ。(民謡)の一種で、もとは樹木や大石などを運ぶ時等に多くの人が聲をそろへて歌つたが、後には家を建てる時の地固めや、その他の祝事葬式等にも歌はれるやうになつた。

木に縁りて魚を求む 望んでも到底得られざること。

犠牲 いけにへ。目的の爲に投げ棄てるもの。

信屈贅牙(キツクツガウカ) 難澁で讀むに堪へないこと。

北一輝 二・二六事件の思想的バックとして檢舉せられた者左翼より轉向し大正八年上海で書いた日本改造法案(發禁)は其の思想の根本をなして居り多分に左翼理論を抱持して居る。

冀東政權 支那事變前に段汝耕を首班とする滿支國境即ち塘沽停戰協定に依り支那軍の侵入することを禁止せられたる區域の獨立を目的として樹立せられたるもの。

休戚 喜びと悲しみ。

窮措大(キユウツダイ) 貧乏書生をいふ。まづしき書生。

金科玉條(キンクワギョクデウ) 法律をいふ。又た模範とすべき文書の條章。

錦上添花を添ゆる 立派な上に尙飾ること。

杞憂 むだな心配、とりこし苦勞。

恭險 わが言行を慎しむこと、ひかへ目にする。

金城湯池 極めて堅固な城を意味すること。

均霽 平等にうるほふこと、公平なること。

供託 債權を消滅せしむる目的を以て法律又は裁判所の命令によつて指定の供託所に辨濟の目的物を寄託すること。

共同海損 船舶及び積荷の共同の危險を救ふ爲め人爲を以つて共同海損たる損害額を平等に算當し利害關係人分擔す

狹義(キヨウギ) せまき意味、廣義の反對である。

狂句 俳句と同じやうに十七文字から成る一種の滑稽な歌

で、もとは(川柳)のことであつたが、後には詠みぶりが卑

しくなり駄洒落や輕口などが多くなつたので、之等を川柳

と區別して狂句といふやうになり、今も狂句といへば主に

この意味に用ひられてゐる。

鬼門 北東(丑寅)の方角をいふ。この方角に向つて事をす

ると必ず禍があるとして、移轉・建築・旅行又は便所・塵箱等を置くことを忌み嫌ふ迷信が昔より言ひ傳へられてゐる。之を鬼門と謂ふ。

曲水の宴 昔、文武天皇の御代頃より朝廷で三月三日に行はれた風流な御宴會。その日、御苑内の池の畔に溝を掘り清水を引き盆を水に浮かせてそれが自分の前に流れてくるまでに詩歌を詠じたものを謂ふ。其後も貴族間は盛に行はれた。

ギンブラリスト 和製英語、銀座を散歩する者。

銀幕 映寫幕、轉じて映畫のことをいふ。

金輪再禁止 昭和五年一月民政黨内閣で金解禁を行ひ景氣建直策を講じたが不景氣は依然として正貨流出甚しく昭和六年十二月政友會内閣出現と共に金輸出禁止を行つた。**禁慾主義** 精神的肉體的の一切の欲望を禁ずる主義。

ク之部

細戈千足(クハシボコチタル) よい兵器の數多いこと、萬事に不足のないことで、上古時代に日本をかく美稱したる言葉。

具體的 抽象的に對し事物の實形にあらはれること。

緩衝國 一に緩衝地帯といひ衝突を緩和する地帯の意。

緩急 ゆるやか、いそぐこと、の字義なるも多く急を要する時、有事の際戦争などの意に用ひらる。

薰陶(クアントウ) 教育すること、よく教へ込むこと。

群盲 多くのあき盲、ものごとの解らない大衆の意。

ケ之部

計畫經濟 自由主義經濟の無秩序なる自由競争を廢止し國家が意識的に計畫的に經濟を指導し管理する制度を云ふ、即ち國家主義的統制經濟をも云ふことあり。

啓蒙(ケイモウ) 愚者を教へ導くこと。**鷄鳴狗盜**(ケイメイクトウ) 賤劣な人物をいふ。

桂冠 職を辭すること。**逕庭**(クイテイ) 大なる差異のこと。

聾啞 せきばらい、其の人の音聲、又は面會の意味に使用す。**警蹕**(ケイヒツ) さきばらい。

經世濟民 世をさめ民をすくふ。政治のこと。

瞻爰(クワイシヤ) いひはやすこと。**皇猷**(クワウイウ) 天皇の御はかりごと。

具現 具體的に現すこと。

苦楚(クツ) 心身のつかれせつないこと。

傀儡(クワイライ) あやつり人形のこと。あやつられること。(ロボットの事)

臥薪嘗膽(グワシンシヨウタン) 報復の志を抱き常に忘れず苦辛をなす意。

禾黍(クワシヨ) うるはしく成長する貌。

蝸角の争(クワカクノアラソヒ) 極めて小さな争ひのこと

管鮑の交(クワンボウノマジハリ) 親密なる交際のこと。

廣義(クワウギ) 廣き意味といふこと。

過度的便法 既に舊態を脱してゐながらも未だ新態を成さぬ途中に在つては事を處理する上に一定不變の法則を以て

すること能はず因つて一時的の便利な方法に據らねばならぬ、斯る法則を云ふ。

愚鈍(グドン) おろか者の意。のろま。

驅除 とりのける、かりのけること、おいたてること。

具眼之士 識者物のしり、先見者等の意。

輕佻薄 輕々しくて人の心がうき／＼して居ること。

夏至(ゲシ) 一年中で晝の最も長い時、毎年六月二十一、二日頃にあたる。

月下氷人 男女の縁を取持つ神、結婚媒介人。

月旦(ゲツタン) 人物評論のこと。

矯正 ためなほす、ためたす。

逆旅(ゲキリヨ) 旅館の意、やどやの意。

下剋上(クワコクジウ) 下の者が上の者に勝つ意、引いて君主より臣下の者の勢力のまさつてゐることを云ふ。

下馬評 門外漢の批評、素人の批評。

肩摩敵擊(ケンマコクゲキ) 群衆の往來のはげしきをいふ

拳拳服膺(ケンケンフクヨウ) 心にかけてよく守る事。

犬馬の勞 骨身を惜まず盡すこと。

犬猿も畜ならず 仲の悪いこと。

謙讓(ケンジョウ) けんそんしてへりくだりゆづること。

倦怠(ケンタイ) うみつかれること、なまけること。

顯彰 隠れた功を明かに世に現す。

玄猪(ゲンイ) いの兒、亥の子。

軒輊(ケンチ) 高低、優劣、へだりの大きなこと。

幻想 迷妄な思想、妄想。
乾坤(ケンコン) 天と地。世界の意。
研鑽 物事の理をみがききめめる。
獻策 はかりごとを奉ること。

コ之部

苟且(コウシヨ) なほざりにすること、一時の間に合せにすること。
硬水・軟水 カルシウム、マグネシウム等の鹽分を多く含む水を硬水といふ。硬水は石鹼が溶け難くい、之を煮沸すると鹽分は沈澱して軟水となる。
好漢 善良なる人間のこと。
抱泥(コウヂイ) 或事柄に事更にかまはること。
口耳の學 自分には役にたつぬ學問のこと。
剛直 氣象が剛強で正直であること。
巧言令色 言葉たくみにし顔色をよくすること、こびへつらふ意。
勾配 傾く度合。
吳越同舟 支那より來た熟語である吳と越とは敵同志であ

つたが、たま／＼同じ舟に乗り合せたことより起りたるもので、反對黨の者とたま／＼仲よく同席する等のことに用ひられる言葉である。
肯綮に中る(コウケイニアタル) 事物の急處を言ひあてる突きあてること。
估券(コケン) 人間としてのねうちのこと、地位等の意。
後顧の憂(コウコノウレイ) 後々の心配の意。
黃白の慾(コウハクノヨク) 金錢上の慾望の意。
孤城落日(コジョウラクジツ) 淋しい哀れなるさま。
刻苦勉勵 非常に辛苦をしつゝつとめはげむこと。
五輪旗 オリンピックの旗。
國策 一國のはかりごと。國の政策。
酷似 よく似る、相似。
國是 國政の根本方針。
糊口(コウコウ) やつと生を送ること、くちすぎ。
御神火自殺 一九三三年二月女學生松本貴代子大島三原山の御神火中に投身自殺してより之に倣ふもの多く三原山は宛然自殺者のエルサレムの觀を呈した、世に之を御神火自殺といふ。

誤謬(ゴビウ) あやまり、考へちがい。

鼓腹(コフク) 腹づみ、安樂な生活の意。

黑潮 赤道附近に起る暖流が臺灣より九州・本州・沿岸から北米の方へ流れる潮流を謂ふ。

個人主義 社會は獨立の個人の自由と幸福の爲の手段であると説く哲學思想、従つてブルジョア社會のイデオロギ―で、現代の自由主義及無政府主義は此の流れである。

枯渴 かれる。水がなくなる。轉じて物の不足。

姑息 一時のまにあはせ、一寸のがれやりかた。

故買 贓物(盗品)たることを知つて買受。

牛蒡(ゴボウ) 野菜の一種。

込米(コミマイ) 差米ともいふ。地主が小作米を受取るとき習慣として名目より多く腐敗を豫想して受取る差額米。

固定資本、流動資本 生産資本中、一回の生産過程を通過することに依りて其の價値の全部を生産物の上に轉化するものを流動資本と云ひ、何回もの生産に役立ち其價値の一部分宛を生産物に轉化するものを固定資本と云ふ、例へば原料の如きは流動資本で、工場機械等は固定資本である。
五戒 世俗の人の持すべき五つの戒。1 不殺生戒。生物

を殺すを禁ずること。2 不偷盜戒。他人の財物を盗むを禁ずること。3 不邪淫戒。自妻の外餘の淫事を禁ずること。4 不妄語戒。虚言を禁ずること。5 不飲酒戒。飲酒を禁ずること。此五戒を持せば人趣の果報を得るといはれ、又は之を仁義禮智信の五常に配することもある。
言語同斷 言葉でのべてなんともいふことの出きない不都合なことを以ての外のこと。
渾然融和 多くの物の差別なく一つになつてとけあふこと
渾身 からだ全體。
混淆(コンコウ) まぜこぜのこと、まじり合ふこと。

サ之部

齋戒(サイカイ) 身心を清淨にすること。
塞翁が馬(サイヨウガウマ) 思ふ様にならぬこと。
猜疑心(サイギシン) ひがみうたがふ心。
彩雲一抹 種々に色彩られた美しき空の雲の景色をいふ。
桑梓(サウシ) 桑とあづさの木、轉じて故郷といふ意。
桑蓬の志(サウポウノココロザシ) 男子の四方に遠遊する志。

月代(サカイケ) 昔冠や烏帽子を冠つた時に額の髪を隠す爲に額際の髪を剃つた、尙室町時代には額から頭の中央に廣く剃り上げる様になつた。これを謂ふ。今は髪を剃ること。

桑門(サウモン) 僧侶・坊主。

相尅(サウコク) 互にかち合ふこと。對立すること。

策動 策を廻らして活動すること。

錯覺(サクカク) ある對象を誤り知覺すること。

錯綜(サクサウ) 入り交ること。

刷新 汚を刷つて新にすること。

雜然 いろいろだれるさま。

榮螺(サッエ) 貝の名。

策應 政策に順應すること。

左袒(サタン) 味方する・加勢する・助ける。賛成する。

左遷(サセン) 良い地位から悪い地位に落されること。

錯誤 認識と事實の一致せざること、法律行爲の要素に錯誤ある時は意志表示は無効となる。

鯖讀(サバヨミ) 數を誤魔化すこと。

差別待遇 差別ある取扱、人種的差別待遇の如し、

斬新奇抜(ザンシンキバツ) ごく新しくてきみように變つてゐること。

三綱五常(サンカウゴジョウ) 人たる者の常に身に備ふべき大事な道。三綱は君臣、父子、夫婦の間柄のこと。五常は仁、義、禮、智、信なり。

三軍(サングン) 大軍のことの意。

三伏(サンブク) 夏の最も暑き日の意。

蠶食(サンシヨク) 他人の權益を漸次にわがものにしてしまふこと。

里見八犬傳 詳しくは「南總里見八犬傳」といふ。江戸時代の小説家瀧澤馬琴が二八年間の苦心を経て著した長篇小説で、安房の領主里見義實の娘伏姫と、その愛犬八房の靈をうけて生れた八犬士(苗字に犬の字のある八人の勇士)が、協力一致して里見家を與すといふ筋を書いたもの。

三十六歌仙 浮世繪名。埼玉縣川越市東北にある喜多院の南隣に東照宮があるこゝに浮世繪の元祖岩佐又兵衛の描いた三十六歌仙があり、國寶として指定せられてゐる。又喜多院には有名な狩野元信の職人繪屏風あり共に珍品とされ

てゐる。

自覺 自我の働きによつて或行爲を内省認識する意識状態

自我意識。

自家撞著(ジカドウチャク) みづから言ふ事の前後がつきははざるを云ふ、辻つまのあはぬこと。

嗜好 たしなむ、たしなみ。好むこと。

尸位素餐(シキソサン) その位に居りながらその職責を盡さずして祿を食むを云ふ、祿ぬす人の意。

枉尺直尋(シヤクヤマゲテジンヲナホクス) 大を成す爲には小を犠牲にしても構はぬ意。

蒐集(シウシフ) 一所にあつめ寄する。

資源局 國家の物質の根源を調査する役所。

首肯 うなづく。もつともと思ふこと。

私淑(シシユク) 直接教を受けなくとも内々その人を慕ひ敬ふこと。

十善(ジフゼン) 殺生、偷盜、邪淫、妄語、兩舌、惡口、綺語、貪慾、瞋恚、邪見の十種の罪惡を犯さざるをいふ。

十善の徳あるものは來世天子に生れかはるといふ故に天子を十善の天子といふ。

指南 學藝を教導すること。

山海關事件 昭和六年元旦、支那、滿洲の國境萬里の長城の東端山海關で日支兩軍衝突し日本軍之を占據したる事件
六中全會 支那の第四次第六中央執行委員全體會議を云ふ此の會議に於て、内政、外交、國防、其他主要政策を議する會議なり、汪精衛氏は方向轉換を宣言した。
纂奪(サンダツ) 君主の位又は政權等をうばふこと。
三番里 猿樂や能樂の舞にも三番叟といふのがあるが、普通には芝居の三番叟をいふ。即ち歌舞伎芝居の幕開に祝儀として舞ふ舞で、烏帽子・素襖姿で、扇を持ち、鈴を振りなどして舞ふ。

シ之部

時効 法定期間の經過により權利を取得し又は之を消滅せしめる方法。

時効中斷 時効期間の進行中法定の原因により既に經過した時期の利益を消滅せしむること。

齒牙にかけぬ 何んとも問題にしない、とりあはぬ、顧みないこと。

愁眉を開く 心配してゐたことが去つて安心すること。

獅子吼 大雄辯を振ふこと。
祝融(シユクユウ) 火災のこと。
指呼 ゆびさし呼ぶことにて近き間。
子午線 地球の兩極を通ずる南北線、經線ともいふ。
四面楚歌(シメンソカ) 四方みな敵に圍まれたるをいふ。
 轉じて世評の悪るきことをいふ。
守株 舊風を守り變通の見識がないこと、時代遅れのこと
獅子身中の蟲 獅子の身中に依存してゐる危害を與へる寄生虫の意で佛弟子が佛法を破り受恩者が恩人を裏切るもの使賊 けしかけること。
實踐躬行(ジツセンキユウ) 身を以つて實地にふみ行ふこと。
時代相 一時代の思想傾向。
稷神(シヨクシン) 五穀の神。
狄狄(ジユウテキ) 西方の蠻人に北方の蠻人。
春秋之筆法 謹嚴なる道德的態度の書きぶり。
春秋に富む 前途有望なること。
衆口金を鑿す(シユウコウキンヲトカス) 讒言の恐るべきことをいふ。

周章狼狽 あはてうろたへること。
需要供給 物を求めることと。之に送給すること。
揣摩臆測(シマオクソク) 斯くやあらんと想像すること、推量すること。
社稷(シヤシヨク) 國家の意又は社會。
杓子定木 強ひて他の者を律しようとする事。
收拾 ひろいあつめること。
須臾(シユユ) しばらく、少しの間。
夙夜(シユクヤ) あげくれ。
夙死(シユクシ) 早死する、若死すること。
猖獗(シヨウケツ) わるづよいこと。
常套語 常用の言葉。
從容自若(シヨウヨウジヤク) 平然として落付いて動じないこと。
焦眉之急 非常に切迫した事・非常に急を要すること。
時代錯誤 時代にそはぬこと。
社會の木鐸(シヤクワイノモクタク) 社會の指導者、手本
疾風迅雷(シツプウジンライ) 非常に速いこと、敏捷なること。

小康を保つ 少しく安心出来る状態をいふ。
霄壤の懸隔(シヨウジヨウノケンカク) 天地の差、非常なへだたりのこと。
成就 成し遂げること。立派に作りあげること。
職能代表 地域を母體とする選舉に對して職能團體、例へば農民組合、労働團體、醫師會辯護士會、等を選舉母體する代表制を云ふ。
蜀魂 ほととぎすの別名。
首鼠兩端(シユソリヨウタン) 鼠は性、疑の深きを以て穴を出でて周圍を觀望し、進退すること容易に決せぬものである故に兩端を持する者に喩ふ。
四書五經 四書とは、大學・中庸・論語・孟子、の四種の書物を言ひ、五經とは易經、書經、詩經、春秋、禮記の五種の經書をいふ。以上は何れも支那聖人の著したもので修養上の聖典とされてゐる。
十六夜日記 鎌倉時代に(阿佛尼)が作った書物で阿佛尼が訴事で京都から鎌倉に下る途中の見聞した感想録である。出立の日が建治三年十一月十六日であつた故に書名を斯く名付けたものゝ如し。

師走(シワス) 十二月の別名で、極月ともいふ。又十二月の二十日以後をもいひ、一年中の仕事の始末、取引の決算歳暮の贈答、正月の仕度等と心も身體も大そういそがしい時をいふ。
倉言(シヨクゲン) 言明したることに反した行動をする事と、偽はること。
捷徑(シヨウケイ) ちかみち、得策等の意。
障礙(シヨウガイ) 障害する、邪魔者。
惹起(ジヤツキ) ひきおこす、問題等をひき起すこと。
失脚(シツキヤク) 失敗して再び立つ能はざる如きこと。
宿志(シユクシ) 年來の志、永い間のこころざしのこと。
宿論(シユクロン) 長い間の主張のこと。
宸襟(シンキン) 陛下の大御心。
神色自若 顔色をかへずにおちつと落付いてゐること。
新陳代謝(シンチンタイシヤ) 新と古とが入りかはること
心機 心のはたらき「一轉」。
靈氣權 かげろうのこと。
俊髦(シユンパウ) 才智德行の衆人よりすぐれ秀でたる者
荏苒(ジンゼン) 事物の次第に進み行くこと、又はのび／＼

になること。
 奮動(シユンドウ) 力もなくして騒ぎ立てること。
 浚深(シユンセツ) 井戸、堀、河川等の水底の泥をさらつて深くすること。
 伸張 のびひろめること。
 斟酌 手加減すること。
 神出鬼没 出たりひつこんだりすることの早いこと。
 深思熟慮(シンシジユクリヨ) よく念を入れて考へること
 唇齒輔車(シンシホシヤ) 互に相依り相助けること。
 神佛混淆(シンブツコンコウ) 奈良朝時代に神と佛は同體であるとの説より出たるもの。

ス之部

翠雲(スイウン) みどりいろのくも。
 瑞祥(ズイショウ) めでたきしるし。
 水魚の交 交情の極めて深かきこと。
 醉眼朦朧(スイガンモウロウ) 酔ばらつて眼光がぼんやりしてゐること。
 醉歩蹒跚(スイホマンサク) 酔ふてよろめきながら歩くこと。

制限外發行 日本銀行が保證準備以上の額に紙幣を發行すること。

精進 精をこめて事に進むこと。一心につとめること。
 正鵠(セイコウ) 主眼點、要點、正確。
 掣肘(セイテウ) 側から牽制して自由行動を妨げること。
 納鑿相容(ゼイサクアヒイレズ) 物が適合しないこと、物事が喰違つて合はぬこと。
 精悍(セイカン) すばしこく強いこと。
 贅言(ゼイゲン) 餘けいな無駄口無用な言葉。
 清淨無垢(セイジヨウムク) 清く汚れなきこと。
 世界觀 人生、社會をも含めて、世界全體に對する見方考へ方をいふ。
 碩學(セキガク) 大學者、學問の深き人。
 寂寞(セキバク) 淋しきこと。
 宵衣旰食(シウイカンシヨク) 天子が政治に勤勞あらせらるること。
 蕭牆之憂(セウシャウノウレヘ) 内より起る憂をいふ、内
 部より起る憂、内亂等の意。
 切瑳琢磨(セツサタクマ) 學業を勵み、徳を磨くこと。

と。
 推薦 人をすすめあげること。
 垂涎(スイゼン) よだれを流すこと、物をほしがること。
 何か熱望すること。
 衰頹(スイタイ) おとろへすたれること。
 粹人(スイジン) 世間の人情を穿つた如才なき人。
 推舉 推薦する、推し擧ること。
 推考 思ひやる。おしはかること。
 數奇 ふしあはせ、不運、曲折ある運命。
 樞機 物事の肝要な所。
 樞要(スウヤウ) かんじんかなめなこと。
 趨勢(スウセイ) なりゆき、おもむき、世間一般の狀況。

セ之部

誠 支那哲學の用語で、世界の哲學の根本思想である。誠とは在るが儘の心であつて純一にして完全なるものである。又た専らなる心とも解す。
 清楚(セイソ) きよくあざやか、さつぱりしてゐること。
 征矢 戰場で用ひる矢。

逼迫(セツパク) さしせまる、行づまること。
 拙速(セツソク) 仕事は下手でも早いこと、時としては之が貴ばれることがある。
 絶倫(ゼツリン) 極めて盛なること、旺盛なること。
 絶壁(ゼツベキ) 険はしきがけのこと。
 洗滌(センデウ) あらうこと。すすぎあらうこと。
 戰慄(センリツ) ふるへ恐れること。
 踐祚(センソ) 天皇の御位につき給ふこと。
 戰々競々 ふるへおのゝきて落付かぬさま。
 先見の明 先を見る目のあること。
 宣誓(センセイ) ちかひ、やくそく、ちかひをたてる。
 先哲(センテツ) 既に故人となりたる先覺者、大學者。
 宣言 個人、組合、國家、團體、聯盟などの時に應じ自己の態度方針を外部に表明すること。
 宣揚 のべあらはす、弘く示すこと。
 前緒(ゼンチヨ) 亡父の實行又は計畫した事業。
 煽動(センドウ) あほり、おだてること。
 羨望(センボウ) うらやましきこと。
 僭越(センエツ) 差出が間敷こと。失禮等の意。

先入主(センニウシユ) 先の智、考への主となること。
 先覺者 一般より先に目覺めた人、識者のこと。
 尖端 頂點、他に先じて行く、魁け、先走り。
 銓衡(センコウ) はかる、しらべはかる。えらぶ。

ソ之部

宋襄之仁(ソウジヤウノジン) つまらないなさけをいふ。
 造詣(ゾウケイ) 學藝の道など深くきわめてあること。
 聰明叡智(ソウメイエイチ) 聞見の敏く智能の深遠なること。
 象牙の塔 現代物質文明の乾燥無味の生活を免れ自己のみ別天地に寂しく自我生活をなさんとせる人の美郷、隱家。
 素志(ソシ) もともとからのこころざし。
 仄聞(ソクブン) ほのかに聞くこと。
 憎惡(ゾウウ) にくみ嫌ふこと。
 惶惶(ソウカウ) 忙しさうにあはてふためくこと。
 足々匪躬の節(ソクソクヒキユウノセツ) 臣が君に對する滿身の忠節の意。
 草莽の臣(ソウモウノシン) 愚かなる臣の意。

龍鱗(ソゴ) くひちがい、ゆきちがいの意。
 卒先垂範(ソツセンスイハン) 衆に先じて模範を垂るといふ意。
 祖道(ソドウ) 送別會の意。
 素讀(ソドク) 大ざつばな讀み方。
 素封家(ソホウカ) 金満家。かねもち。財産家。
 忖度(ソントク) 思ひはかること。

タ之部

頑廢(タイハイ) デカタンを見よ。おとろえすたれること。
 第八藝術 映畫劇。
 醍醐味(ダイゴミ) 眞理に徹した法悅。
 大逆事件 明治四十三年五月檢舉された幸徳秋水事件、及び難波大助事件等をいふ。
 泰山鳴動(タイザンメイドウ) 大げさなさはぎをすること。
 泰斗(タイト) 人に仰ぎ尊ばれる人、大家、名人、權威者等の意。
 大義名分 人の是非とも守るべき重大なる義理と分限のこと。大義は人の君國に對して守るべき義理をいひ、名分と持廻ること。

は名を正して分を守る義にて人倫の本分をいふ。
 大厦高樓(タイカコウロウ) 宏壯雄大なる建築物。
 意業 サボタージユを見よ。仕事をなまけること。
 體驗 實際の經驗。
 擡頭(タイトウ) 頭をもちあげる。次第に勢のつくこと。
 蛇蝎視す(ダカッシ) 蛇や蝎のやうに嫌ふこと。いやがること。
 妥協(ダケフ) 互に讓歩して意見を一致せしむること。
 妥當 適切で當を得たること。
 唾棄(ダキ) つばをはきかけて棄てるやうな卑しいこと。
 他山の石 他人のふりを見て自分を慎しむこと。
 達觀(タツクワン) すつかり見透がつき俗事小事に拘泥せぬこと。
 情氣滿々 緊張をかくこと、なまけること。
 竹の園生 皇族、親王の別稱として用ひらる。
 高御座(タカミクラ) 天皇の玉座。
 蠟螂の斧(タウラウノノ) 自分の力をはからずに大敵にあたること、無謀なること。

多寡(タカ) 多いと少ないこと、多少、又は數量。
 盟廻し(タイマハシ) 甲から乙へ乙から丙へ丙から丁へと持廻ること。
 タタキ 強盜のこと(隱語)
 山車(ダシ) 祭り等に造るもの。
 蛇足(ダソク) 無益の物の加はること。
 蛸つり 格子窓などから竹竿の先に釣をつけたものを差入れ屋内の衣類其他を引出す賊。
 單刀直入 直接に或は直に本問題に入ること。
 彈劾(ダンガイ) 排斥攻撃すること。
 斷崖(ダンガイ) けはしいがけ・はげしいがけ。
 端緒(タンチヨ) 糸口、知れはしめ。
 斷腸の思 非常に辛い苦しき思ひ。
 端午(タンゴ) 五月五日を云ふ。
 耽溺(タンデキ) ふけりおぼれること。
 彈壓 官憲の壓迫、攻撃的彈壓等いふ。
 端的 事理明白に手ツ取り早くの意。
 斷然 力を籠めて言ひ切る語、嶄然の意味にも近頃用ひ出した。「斷然頭角を露はした」など。

斷層(ダンソウ) 地殻の收縮により地層の喰違ひ面をいひ、地震を伴ふ。

チ・ツ之部

中原之鹿(チュウゲンノシカ) 群雄王位を争ふにたとへたと。今は轉じて選舉戦のこと。
誅求苛察(チュウキウカサツ) 監督・取締、政治等のきびし過ぎて不可なること。

着想 藝術の製作に先立ち胸裡に浮ぶ考へをいふ。
逐鹿戦(チクロクセン) 地位や選舉をあらそふこと。
逐條審議 箇條をおふて一條毎に審査協議すること。
竹帛の功(チクハクノコウ) 書物の上に勳功を残し止むること。

遲疑逡巡(チギシユンジュン) うたがひ恐れて決斷のつかずうろたへること。

入魂(ヂツコン) 特に親しく交はる間柄。

鳥瞰圖 上から見下ろした如く書いた圖。或は事情の概括的な記録。

熟慮斷行 よく考へた上に思ひ切つて行ふこと。

躊躇逡巡(チュウチュウシユンジュン) ためらひまごまごすること。

直情徑行 性質が直くよこしまならぬ行ひのこと。

チャンク 支那の帆船。

徐目 官職に任命すること。

頂相(チャウソウ) 禪僧の肖像畫。

沈思默考 ちつと靜かに考へること。

陳腐(チンプ) ありふれた古めかしいこと。

鎮宅屯縣城 支那の地名には大場鎮とか、鎮といふ字がついてゐる。鎮とは日本の村に相當し、李家宅とか張家屯とある宅とか屯とかの文字は、日本の字(アザ)に相當する。その何々官屯はその土地を治めた人が官命を受けてやつたところで、何々家宅とはも何々の一家がそこに居住して繁榮したから名づけたのである。

なほ縣は日本の縣と同じ意味で、何々縣城とあれば、そこに縣の城があることを意味する。

通人 或事柄につきよく知つてゐる人。

痛痒(ツウヨウ) いたいことかゆさのこと、(痛痒を感じずとは)いたくもかゆくもない何んにも感じないこと。

痛罵(ツウバ) ひどくのムしりしすること。

通信網 全國又は世界に細胞組織的に通信機關を備へてユースの蒐集に務むる新聞社等の設備。

杜撰(ツサン) 誤り多く信用出来難きこと。

津々浦々 國の端から端まで、全般のこと。

美人局(ツツモタセ) 夫婦喋し合せて妻に或醜行を爲さしむること。

燕號(ツバメゴウ) 海道線東京神戸間の超特急列車の名、昭和五年十月一日から實施。

艶種(ツヤダネ) 戀愛に關する新聞材料。

剩錢詐僞 物品購入に名を藉り代金を支拂ふ時百圓札又は二十圓札なので剩錢を要すると稱しそれを受取つて代金を支拂はず又物品までも騙取するやり方。

テ之部

庭訓 家庭のおしへ、家庭の教訓。

提携 共同して事を行ふこと。

鑿造(テウテウ) はじめてつくること。

掉尾(テウビ) 最後に於て一段の勢力を發揮すること。

鑿國(テウコク) くにのはじめ。

朝三暮四(テウサンボン) 詐術を用ひて人を愚弄すること

剔抉(テキケツ) ほりくじる。あばくこと。

朝暉(テウキ) 朝日の光り。

徹頭徹尾 頭から尾まで貫くこと、徹底すること。

手前味噌 自畫自讚。自分で自分をほめること。

天壤無窮 天地と共に窮まりがなく永久のこと。

顛末(テンマツ) 始から終まで。

天真爛漫(テンシンランマン) 飾り氣のないありのまま、さつぱりとして美しきこと。

天佑(テンイウ) さいはい、天の助。

天網恢恢疎にして漏さず 天の網はあらい様でも悪事は必ず何時か其の網にかゝるといふこと。

ト之部

當爲(トウイ) 當を得たること、理想的なること。

偷安(トウアン) 一時の安さをむさぼること。

偷安姑息(トウアンコソク) 一時的な安逸をむさぼりなまけること。

洞察(ドウサツ) よくうかがいしること。
 陶汰(トウダ) 悪しきを除くこと。
 陶冶(トウヤ) よくする意。
 撞著(ドウチャク) 前後一致せぬこと、矛盾の意。
 踏襲(トウシユウ) 以前のことをつぎ行ふこと。
 登龍門(トウリウモン) 人の榮達すること。
 頭角を見す(トウカクヲアラハス) 衆人を擯んでたるをいふ。

當路者 其の局に當る者。
 統治權 國を治むる最高の權力。
 刀圭家(トウケイカ) 醫師のこと。

東道の主 主人となつて來客の世話をする人、道案内。
 特赦 特定の場合特定の犯人に刑罰の執行を赦免する事。
 髑髏(ドクロ) 死人の頭蓋骨のこと。

徳孤必隣(ドクコヒツリン) 徳あるものは孤立することはなく必ず類を以つてあつまるといふこと。
 徒爾(トジ) むだごと、なんのやくにもたぬこと。

怒濤(ドトウ) 大きな波。
 怒髮天を衝く(ドハツテンヲツク) 毛髪を逆立てて非常に

怒ること。
 吐瀉(トシヤ) 口より吐き出すこと。

度外視す 問題にしない、必要以外に見ること。
 都鄙(トヒ) 都會と田舎のこと。

獨斷專行 相談せずに獨りで勝手に事を行ふこと。
 得失相償ふ 損得差引同じ位のこと。

塗炭の苦(トタンノクルシミ) 非常に苦辛すること。
 舍人(トネリ) 1昔・天皇や皇子の御側に侍して雑用を勤め又は行幸等の際に御供申し上げた者をいふ。

2昔牛飼又は馬の口取をいつたこともある。
 吞舟の魚 舟を吞むほどの大魚のこと、大ものゝ意。

ナ・ニ・ヌ・ネ・ノ 之部

内侍所(ナイジトコロ) 宮中豐明殿の別名。

内帑(ナイド) 宮中の倉庫。轉じて帝室の御費用のことをいふ。

内訌(ナイコウ) うちわもめ、内部の亂れること。

内憂(ナイユウ) 國家等の内部のうれい。

囊中の錐(ナウチュウノキリ) 賢才は錐の袋の中に在るが如

く忽ちにその才能をあらはすといふこと。

梨のつぶて 音沙汰ないこと。行ききりのこと。

納所(ナツシヨ) お寺の臺所・會計係。

海鼠 なまこのこと。魚類の名。

奈落 梵語で地獄のこと。

南無妙 南無阿彌陀佛、南無妙法蓮華經と其佛又は法に對して歸依信賴を表する意である。又、度我、救我の意あつて、佛に向つて我を濟度し給へ、救濟し給へと請求する意であるといふ。

軟貨 紙幣のこと。

何萬屋(ナンマンヤ) 大きなことをいひ歩く山師のこと。

南船北馬・あちこちと忙しく駆け廻ること。

納得(ナットク) のみこむこと、得心すること。

納屋(ナヤ) 物置小屋。

肉袒(ニクタン) はだをぬいで身體をあらはすこと。

二兎を追ふ 二道かけて事をする事。満足に出来ないといふこと。

贋札(ニセサツ) 偽造の紙幣。

入寂(ニユウジャク) 僧侶の死ぬこと。

入寇(ニユウコウ) 攻め入ること。

忍容(しのびゆるすこと)。

認識不足 その事柄に對して十充なる見極めのついてゐないこと。

濡場(ヌレバ) 芝居で男女の戀愛にふける場面。

奴婢(ヌヒ) 下男、下女のこと、めしつかひ。

寧日なし 忙しくて楽しくやすむ日のないこと。

倭姦・倭奸(ネイカン) 心がねじけてわるいこと。

捏造(ネツゾウ) いつはりこしらへること。

寢耳に水 突然で非常に驚くこと、意外とすること。

念慮(ネンリヨ) おもんばかり、かんがへること。

捻出 無理算段して出すこと。ひねり出すこと。

捻挫(ネンザ) ひねりくぢくこと。

濃厚(ノウコウ) こつてりとしたとこと、こゆいこと。

財斗(ノシ) 贈物等に添へるもの。

長閑(ノキカ) 日和がおだやか、落付きてしづかのこと。

祝詞(ノリト) 神前でよみあげる詞。ゆはひごとば。

狼烟(ノロシ) 警戒の合圖に打上る煙火。

ハ之部

微菌 ばいきん。細菌。
 廢類(ハイタイ) すたれくづれること。
 胚胎(ハイタイ) 物の始めのこと、はらむこと。
 俳諧 一首の和歌を二つに分けた、式形の句を、數人して幾十句・幾百句と續けて作った(連歌)が、室町時代には、軽い滑稽味をも含んで、かつ作り方も自由なものとなつて之を俳諧連歌と云ひ、略して俳諧といつた。
 餞(ハナムケ) 餞別のこと。
 莫逆之友(バクギヤクノトモ) 相さからうことのない親密なる友のこと。
 伯仲之間 優劣の差の無いこと、似たり寄つたりのこと。
 白眉(ハクビ) 群衆中にひとりすぐれたる者。
 白玉樓中の人となる 人の死ること。
 駁論(バクロン) 自己の意見を主張・他人の議論を攻撃すること。
 蕪然 まつしぐら。進むいきほのすさまじささま。
 派生的 幹に對する枝葉の如く原則的なものに對し部分的

なもの。
 抛擲 なげうつ、なげやりにすること。
 褒貶(ハウヘン) ほめたりけなしたりすること。
 爬羅剔抉(ハラテキケツ) 他人の悪事を發き出すこと、又は廣く人材を探り出して採用すること。
 彷徨(ハウクワウ) ふらふらさまよい歩くこと。
 抱負 自己の心に抱いて居るかんがへ。
 抱腹絶倒(ハウゼツタウ) 腹を抱へる程おかしきこと。
 霸氣(ハキ) 人を壓する様な元氣々概のこと。
 端境期(ハザカイキ) 米・生絲などで米ならば新米が古米に代つて市場に出廻る頃。
 破邪顯正(ハジャケンセイ) 邪しさを破つて正しさをあらはすこと。
 跋扈(バッコ) はびこる、のさばること。
 花より團子 花より實を探る、理想よりは現實のこと。
 破産 商人が總財産で自己の債務を辨濟する能はず支拂停止に陥りたること。
 馬耳東風(バジトウフウ) 物事を聞くも感じないこと。
 潑刺(ハツラツ) 勢力の盛んなさま、生々として勢力のよ

いこと。

法度(ハット) 規則。おきて等の意。
 破綻(ハタン) 破れほころびること。
 破天荒 前例にない程の大きなこと、又は變つたこと。
 破廉恥 正道に外れたる不正なる行ひのこと。
 波瀾重疊(ハランヂウヂョウ) 屈折・問題の多きこと。
 版圖 國の領土をいふ。
 反撥(ハンバツ) 反動ではね返す力のこと。
 氾濫(ハンラン) 水にあふれること。
 盤根錯節(バンコンサクセツ) わだかまりたる根と入り組みたる木等のこと、世事の艱難に喩ふ。
 悲喜交々至る 喜び悲みが次ぎ次ぎに来るさまをいふ。
 悲憤慷慨(ヒフンコウガイ) 大になげいきどうること。
 腴肉の歎(ヒニクノタン) 功名の立てがたきを歎くこと。
 尾大掉はず(ビダイフレハズ) 制御することの出来ないこと。
 匹夫の勇 眞の勇に非らず蠻勇のこと。

ヒ・フ之部

氷炭相容れず 和合することの出来ないこと。差異等の意。
 涸轍(ヒボウ) 失敗又は缺點をとりつくりうること。
 標語 主義・主張乃至主旨を簡単に表はした言葉。
 剽窃(ヒョウセツ) 他人の書いたものを自分の説の如く装ふて發表すること。
 微恙(ビヤウ) すこしの病氣。かるい病氣。
 貴臨(ヒリン) 他人の我に来ることの敬稱。
 諷刺(フウシ) 皮肉、あてこすり、それとなく遠まはしに注意する若くは非難する。
 風樹の歎 父母を喪ひて、孝養の出来ないを歎くこと
 風雲急なり 今にも問題なり事件が起りそうな形勢をいふ
 覆水盆に歸らず(フクスイボンニカヘラズ) くつがやした水は再び盆に取ることは出来ぬこと、轉じて取りかへしのつかぬこと。
 不俱戴天之敵(フグタイテンノテキ) 最も悪むべき敵をいふ。
 不退轉(フクタイテン) 心を他に散さず一心になること。
 服膺(フクヨウ) 記憶して忘れないこと。
 復辟(フクヘキ) 天子の再度王位に即き給ふ意。

福祉(フクシ) さいわい、幸福。
 伏魔殿 悪魔の伏在する殿堂。
 俯仰天地に恥ぢず 身分に何等やましきことのないこと。
 腹心の者 最も關係深く親密なるもの。
 物情騒然 世中の様子がさわがしいこと。
 浮華放縱(フクワホウジュウ) 上調子でまじめをかぐこと
 普天之下率土之濱 普天之下は、あまねく覆ふ大空の下、
 率土之濱は、連續する陸地のはてし。即ち、月日の照す限
 りの土地、あめがしたの意。
 舟に刻して剣を求む 時代おくれの愚人をいふこと。
 敷衍(フエン) のべひろげること、しのぶこと。
 扶翼(フヨク) たすげること。
 分裂 わかれさげること。分離すること。
 粉骨碎身(フンコツサイシン) 骨身を粉にして大に働くこ
 と。
 紛糾 もつれること。ごた／＼すること。
 紛然 いらみだれるさま。みだれさはがしきこと。

へ・ホ之部

弊衣(ヘイイ) 悪い衣服の意。
 睥睨(ヘイゲイ) ならみつける、見まはして威を示すさま
 弊害 わるいこと、害になること。
 蔑視(ベツシ) さげしみ見ること。
 霹靂(ヘキレキ) 大きな音、雷鳴等の大きな音をいふ。
 へたりこみ 坐り込みと同じ。
 鞭撻(ベンタツ) むちうちをいふこと。
 偏見 かたよつた見方のこと。
 偏頗(ヘンパ) 一方に片寄つて公平を缺くこと。
 變態性慾(ヘンタイセイヨク) 性的に變つた事をする事
 暴虎馮河の勇(ボウコヘヨウガノユウ) 無謀の冒險の意。
 抱擁(ホウヨウ) だきかかへる意。
 傍若無人 無禮なる振舞をいふ。
 放擲(ホウテキ) なげうつこと、やめること。
 木鐸(ホクタク) 木の舌を有する鈴にて、振りて衆をいま
 しめしより、教を施し一世を指導する人にたとふ。
 望洋の嘆 大海の果しなきが如く手にあまる事業のこと。
 朴訥(ボクトツ) かざり氣なく正直で物堅いこと。
 墨守(ボクシユ) 舊來のことをふみ守ること。

保護色 生存に必要上動物が其體色を棲息場所の色に類似
 せしむること。女學生隱語で度々着物を取りかへること。
 蒲柳の質(ホリウノシツ) 弱き體質の人のこと。
 匍匐(ホフク) はらばひすること。這ふこと。
 凡夫(ボンブ) 凡人のこと、普通の人。
 凡骨(ボンコツ) 並の人、普通の人。
 盆地(ボンチ) 山岳や臺地に圍まれた平坦な地。

マ・ミ・ム・メ・モ之部

枚舉に違なし 數へることも出来ない程多いこと。
 末人 超人の反對、何等獨創なく智情意の活動を缺き醉生
 夢死の生涯を送る人。
 抹殺 ぬりけす、ないものにする事。
 末路 人生の終り、人生の行末。
 眉唾(マユツバ) 眞偽の疑はしきもの。
 幕の内 角力用語では上位力士のこと。又はおにぎりに作
 つた辨當のこともいふ。
 漫然(マンゼン) とりとめのないこと、何氣なく。
 萬能 すべてにきゝめある・萬事に巧みなこと。

瞞着(マンチャク) あざむく、ごまかすこと。
 政所(マンドコロ) すべて政を行ふ所又は後宮の女官の名
 御後威(ミイツ) 天子の御威光のこと。
 巫女(ミコ) いちこ、かんなぎ。
 味覺(ミカク) 舌の味の感じのこと。
 水揚げ 船の貨物を陸へ揚げる事、女の初めて男子と關
 係すること。
 未遑 まだしとげぬこと、成しおわらぬこと。
 未來派 文藝美術上の新運動で、すべて活動と力の表現を
 主義とするもの。
 未曾有 未だかつてないこと。
 彌勒(ミロク) 佛語。未來にあらはれるといふこと。
 冥加(ミヨウガ) 神佛のおまもり、おかけ。
 無涯(ムガイ) がぎりのないこと。はてしのないこと。
 無疆(ムキヨウ) かぎりのないこと。
 無垢(ムク) けがれのないこと。
 無機物 生活機能なきもの、土、石、水の如し。
 無辜の民(ムコノタミ) つみのない民、良民のこと。
 無盡藏 澤山あること、使いつくせぬこと。

無謀 はかりごとがない、かんがへのないこと。
 無聊 (ムリヨウ) たよりない、さびしい、たいくつ。
 無償 他人の行爲に對し給付を要求せぬこと。
 無常 世上の物事の常ないこと。
 矛盾 あとさきの相違すること、つじつまの合はぬこと。
 冥想 (メイソウ) 心を落付けて深く考へること。
 名聲噴々 (メイセイサクサク) 評判のよきこと、有名なこと。
 明眸皓齒 (メイボウコクシ) 綺麗な眼と白い齒、容貌よきこと。
 名狀すべからず 何んとも例へようのないこと。
 冥護 (メイゴ) すぐれた工人、名匠。
 明敏 かしくさといふこと。
 銘肝 (メイカン) 心によくしみこむこと。
 明媚 (メイビ) 景色のうるはしいこと。
 綿密 こまかてくわしきこと。
 免疫 (メンエキ) 再び同じ病にかゝらぬやうになること。
 面を過す 渡りをつけること、又は顔を知つてをくこと。
 盲動 (モウドウ) めくら滅法なことをすること。

網羅 (モウラ) 全部あつめること。
 蒙を啓く (モウヲヒラク) 教へ訓してやること。
 盲從 善惡の分ちなく従ふこと。
 蒙昧 (モウマイ) 知識が開けない、事理にくらいいこと。
 模倣 (モホウ) まねならうこと。
 縹緲 (モウドウ) 戦艦。
 百舌 (モツ) 小鳴の一種。
 萌黃 (モエギ) 黄と青との間の色。
 默禱 (モクトウ) だまつていのる。心でいのること。
 目睫 (モクシヨウ) 間近に迫ること、目とまつ毛の間。
 模造 (モゾウ) にせてつくること。
 門閥 (モンバツ) 家がら、門地。

ヤ・ユ・ヨ之部

躍如 (ヤクジヨ) おどり立つさま、生々として現はれる状態。
 躍進 おどりとつて進むこと。いきほひよく進むこと。
 夜叉 (ヤシヤ) 猛惡な鬼神。
 夜襲 (ヤシユウ) 夜間敵をおそうこと。
 彌次 (ヤジ) 人の後からわけもなく騒ぐこと、彌次馬。

野黨 政府黨にあらざる黨派。

藪蛇 (ヤブヘビ) 餘計なことをして過を買ふこと。
 藪入 (ヤブイリ) 正月と六月の十六日に奉公人の宿下りのこと。
 由緒 (ユイシヨ) いはれ、つたへ來たこと。
 遺言 (ユイゴン) いまはに言ひのこす言葉。
 誘掖 (ユウエキ) みちびきたすけること。
 誘拐 (ユウカイ) かどはかす、だますこと。
 優渥 (ユウアク) なさけ恵みのあつこと。
 友誼 ともだちのよしみ、友情。
 憂國 國事をうれふること。
 雄渾 (ユウコン) 文章、議論等の勢よくよどみないこと。
 幽谷 (ユウコク) 奥深き谷。
 融災 (ユウサイ) 火事のわざはひ、祝融、火災、火難と同じ。
 遊手徒食 なすことなく從らに遊び過すこと。
 憂愁 (ユウシュウ) うれへ、しんばい、憂思。
 油然 雲のように物の盛にわき起ること。
 悠然 (ユウゼン) おちついてゐるさま。

憂憤 うれへいきどほること。
 憂悶 (ユウモン) うれへもだえること。
 雄圖 雄壯なる計畫、をよしきくはだて。
 融和 やはらぐ、とけあふこと。
 有司 國家の公職にある者をいふ。
 憂禱 (ユウウツ) 思ひ煩ひ、沈み勝のこと。
 優柔不斷 (ユウジュユウフダン) ぐづぐづして決斷力なきこと。
 悠々碌々 ぶら／＼して何もせず過すこと。
 勇往邁進 元氣よくおし進むこと。
 要塞 (ヨウサイ) 國防上永久的防禦工事を施して守備する一定地域、その周圍の一定地域を要塞地帯といふ。
 擁擠 (ヨウゲキ) 道にまちぶせてせめうつこと。
 搖籃の地 (ヨウランノチ) 生れ出たところのこと。
 容共 共產主義の容認提携を云ふ。
 容喙 (ヨウカイ) さしでぐち。關係ないところに口出。
 羊頭狗肉の策 羊を賣る如して犬の肉を賣ることにて轉じて、ごまかすことをいふ。
 輿論 最大多數の有力なる社會共通の意見社會的出來事に

對する社會民衆の意識。

抑留(ヨクリユウ) 自由を制し留め置くこと。

容恕(ヨウジヨ) ゆるすこと、寛恕等に同じ。

夜を日につぐ 忙がしく夜まで働くこと。

餘澤(ヨタク) のこつた恵み、おなざけ。

餘慶(ヨケイ) 善行や功德のむくいとして來る吉いこと。

輿望(ヨモギ) 世間の人望のこと。

蓬生(ヨモギ) よもぎ草又は草深い地等の意。

ラ・リ・ル・レ・ロ・ワ之部

磊落(ライラク) さつぱりして小事に拘泥せぬ性質。

來駕(ライガ) 來り訪ふことの敬語。

來賓(ライヒン) 外國から來たりみづぎものを奉ること。

禮讚(ライサン) 或物の功德を感謝しほめたゞえること。

絡繰(ラクエキ) つらなりつゞくこと。

羅列(ラクエキ) つらねならべること。

落寞(ラクハク) ものさびしきこと。

辣腕(ラツワン) すごいうで、うでさき。

落下傘(ラツワン) 航空機から飛降るときの傘。

羅漢様 働かない人、「働かん」の「はた」を取つてラカンとしたもの。

老婆心 親切に過ぐるころ。餘計の心配。

還鷹(ランシヨウ) 物事の始まり。起原の意。

龍眼(リュウガン) 南洋、南支、臺灣等に産する美味の果實のこと。

龍顏(リュウガン) 天子の御尊顔。

領袖(リュウシュ) 衆人の首位になりそのかしらとなる人

良二千石 地方長官の意。昔の大守が二千石であつたことより來たる。

掠奪(リヤクダツ) かすめうばふこと。

離愁(リシウ) 別れの悲しさのこと。

理不盡(リフジン) 理論條理を度外したる亂暴なること。

龍蟠虎搏(リュウパンコハク) 龍と虎と相闘ふやうな激烈なたゞかひのこと。

陸續(リクゾク) ひきつゞくさま。

離合集散 あつまつたりはなれたりすること。

離奇(リョウキ) 奇怪なことをあざること。

臨機應變 その時に應じて手段を施すこと。

輪輿(リンクワン) 建築物の壯大にして美麗なるさまを云ふ。

臨本(リンボン) 大家の筆蹟を模寫した書畫、手本。

輪迴(リンネ) 佛語、因果應報のまはりあはせの意。

綸言汗の如し(リンゲンアセノゴトシ) 貴人の言は口外に出たら引込のつかぬこと。

凌駕(リョウガ) 他をしのごこえること、まさること。

瞭然(リョウゼン) あきらかなること、はつきりしたこと

淋漓(リンリ) あふれ流れるさま。

螺繼(ルイセツ) なはめ、いましめ、なはめにかゝる。

坩堝(ルツボ) 金屬をとかすつぼ、

纏繞(ルル) こま／＼と續くさま。

纏述(ルル) ゆる／＼とま／＼と述べること。

累計(ルイケイ) 合せての計算。

類焼 火事が燃えうつつて焼けること。延焼すること。

黎明(レイメイ) 夜のあけがたのこと。轉じて世の變りはじめのこと。

冷酷(レイコク) 人情のないこと、むごいこと。

靈鬼(レイコン) たましい。

零碎(レイサイ) 極く細かいこと。

例證 前例或は實際によつて證明すること。

靈肉一致 精神と肉體の一致して居ること。

冷然 冷たいこと、その事にかゝはらぬこと。

伶俐(レイリ) さとい、さかしい、かしこいこと。

黎民 天下の萬民、人民。

隳死(レイシ) 車輪にひかれて死すること。

歴然 分明なこと、ありありとはつきりしたこと。

聯想(レンソウ) 引續き他の事を思ひ起すこと。

輦轎(レンコク) 天子の乗輿を申す。轉じて天子の在ます都をいふ。

論語讀み ナマ學者、論語讀の論語知らずのこと。

老廢保險 生命保險の一種、老年に達し又は廢疾となつた時の保險、官營とせる國が多い。

壘斷(ロウダン) 獨占すること。他とのみちをたつこと。

籠城(ロウジョウ) 城にたてこもること。

陋習打破(ロウシヨウダハ) 悪い習慣を打ち破つて改革すること。

鹵簿(ロポ) 天皇の御車の御列のこと。

漏洩(ロウエイ) 秘密なことがもれること。
 老獐(ロウカイ) 悪がしこい、ずるいこと。
 老朽(ロウキョウ) 老年で役に立たぬ。
 狼藉(ロウジキ) らんぼう、とりちらす、非常にとりちらすこと。
 狼狽(ロウバイ) あはてふためく、うろたへること。
 籠絡(ロウラク) 他人を手の中にまめること。
 鹵獲(ロカク) 敵の兵器などをとる、ぶんどり。
 論據(ロンキョ) 議論のよりどころ。議論の根本。
 猥談(ワイタン) 猥褻生活又はエロ氣分に満てる話。
 猥褻(ワイセツ) 人の劣情を挑發するようなこと。
 惑亂(ワクラン) まどはしみだすこと。
 惑溺(ワクデキ) まどいをほれること。
 和氣霽々(ワキアイアイ) 平和で陸じいこと。
 彎月(ワンゲツ) ゆみはりづき弦月のこと。
 彎曲(ワンキョク) ゆみなりにまがること。
 賄賂 まひなひ、そでのした。
 和解 やはらぎとける、なかなかほり。
 和魂漢才(ワコンカンサイ) 菅原道眞の言つたもので、其の意味は我が國固有の精神を根抵とした上に漢土の才學の

秀でゐるところを取り入れること、即ち日本精神を根本とし支那の秀でたところのみを學ぶべきだといふこと。
 和睦(ワボク) やはらぎむつむ、なかなかほり。
 分葱(ワケギ) 野菜の一種。
 組袍(ワンボウ) 粗末な衣物のこと。

歴史常識

ア之部

赤坂城 楠木正成が築いた城。今大阪府南河内郡赤坂村にその址がある。元弘元年(一九九一年)正成は之に據つて北條氏の大軍を防ぎ、後正平年間に正成の第三子正儀も亦屢々賊軍を此所で防いだのである。
 秋津洲 我が國の古名。神武天皇の國見をなされた時、(猶蜻蛉の譬貼せる如し)と仰せられたのによる。(蜻蛉)はとんぼ(譬貼)はとんぼの雌・雄が尾を銜みあつて飛ぶ意味。
 縣主 縣の長官のこと。上古・朝廷の御料地のことを司どつた官名、其後孝徳天皇の御代(二三〇九年)その職は廢止せられたが名目だけは姓として遺された。
 赤間關 山口縣下關の古名で、昔外國人接待の爲この地に臨海館を設け又鎌倉時代は警固所を置いて蒙古の來寇に備へた。文久三年(二五二三年)長州藩の外國船砲擊事件のあつた所である。
 吾妻鑑 書名。五二卷。鎌倉幕府の日記で、治承四年から

文永三年に至る約八十七年間の事を記したもので、作者は幕府の役人が幾人かで記したものであらうといはれ、武家最初の記録である。

熱田神宮 名古屋市熱田に鎮座する官幣大社草薙劍を御神體として、天照大神・日本武尊・素戔鳴尊・宮簀姫・健甕種命を御祀りしてある宮。
 アメリカ獨立戰爭 今より凡そ百六十餘年前アメリカ合衆國が獨立する爲に英本國との間に起つた戰爭をいふ、當時米國は英國の植民地であつたが、英本國政府は財政難の爲に米植民地に重税を課したので、米植民地十三州の移民等は之を拒絶し、西曆一七七六年ワシントンを總帥として米國の獨立を宣言した事により起つたものである。
 阿片戰爭 西曆一八四一年英國と支那は(阿片)の輸送に關して戦端を開いた、これを阿片戰爭といふ、その結果は支那の敗戦となり、香港は英國軍に占領せられ、翌一八四二年南京條約を結んで支那は遂に香港を英國に割譲したのである以來英國は香港を東洋の根據地として發展したものである。
 安政の大獄 徳川幕末、大老井伊直弼專斷を以つて米國と

通商條約を結び次いで將軍の繼嗣問題にて慶喜を排斥し家茂を擁立せんとする等專斷の行爲多く非難せられぬる時朝廷は幕府の失政を責め、殊に水戸藩に攘夷の密使を下し給ふた。之は水戸、越前、尾張の諸藩と直弼に反對の公卿と結託し朝議を動かしたので、幕府は非常手段によつて威嚴を保ち且つ難局を解決しようとし安政五年水戸、尾張、越前の藩主等に塾居を命じ、七年には政策に反對した左大臣近衛忠熙(タダヒロ)右大臣鷹司輔熙(スケヒロ)等の公卿の官を免じ、梅田雲濱、橋本左内、頼三樹三郎、吉田松陰等數十人の志士を捕へて斬流に處し或は禁錮、謹慎を命じた。之を世に安政の大獄といふ。

尼將軍 源頼朝の妻平政子で之の婦人男まさりで、頼朝の業を輔け遂に天下の實權を握らせた。頼朝死後尼となり、實朝殺さるや、京都より藤原頼經を迎へて將軍とし、自ら後見となつて政を執つたので之の名がある。

天野屋利兵衛 大阪の俠客で、赤穂城主淺野長矩の信用を得てゐたが死後、赤穂に赴き義士の一味に加はつて兵器一切の調達を引受け、義學を援けた有名な人である。

淺野長矩 (兵庫縣)播磨國赤穂の城主で、内匠頭と稱し

た。元祿十四年(二二六一年)三月、勅使下向の際、その接待役となつたが、江戸城中の名家吉良義央に辱められたので、怒つて義央を傷つけ、即日死を賜はり領地を取上げられた時に年三五。有名な(赤穂義士)の復讐となつた。

青木昆陽 江戸時代の學者で、名は敦書、通稱文藏。幕府の書物奉行となり、將軍吉宗の命を受け長崎に赴き蘭學を修め、西洋學術研究の緒を開いた。又甘藷の栽培を全國に廣めて有名である。明和八年歿す。時七十二歳。

赤松則村 足利時代の武將。播磨國の人で、圓心と稱した。元弘二年(一九九二年)護良親王の令旨を奉じて義兵を播磨に擧げ、足利尊氏等と京都の六波羅を攻めて北條氏を滅し、後醍醐天皇を船上山から都に迎へ奉つたが、論功行賞の不公平を憤り、尊氏が反した時、之に従つて新田義貞を播磨の白旗城に迎へ戦ひ、後、足利直義に従つて楠木正成を湊川に破つた。正平五年歿。年七四。

安倍貞任 頼時の長子、天喜五年源頼義と戦ふ。河碕柵に據り、鳥海に戦ひ頼義を敗れり。其後康平五年(一二二二年)貞任急に頼義の軍營を襲ひ反つて敗北し、官軍追撃せしに貞任厨川の柵に據りて防ぎしが利あらず死せり。

アドルフ・ヒットラー ドイツの獨裁的政治家。一八八九年生。ファシスト的國粹社會黨の組織者の一人。バヴァリヤのフアツシストの指導者。ミュンヘンに於けるフアシスト反亂の組織に際してルデンドルフの復心として活動し數日にして倒れたミュンヘン・フアシスト政府顧問となる。

フアシスト放逐後捕へられ、五年の禁錮を申し渡さる。然し一九二四年の末には早くも釋放された。現在ドイツ總統

1 之部

院政 白河天皇應徳三年(一七四六年)御位を堀河天皇に譲らせられると同時に院廳を設けて上皇として政を聽かせ給うた。之を院政の始とし、之が例となり十五方により行はれた。何故に天皇の御親政とせず御退位後の上皇にて政治を聽き給ふたかといふに、當時朝廷に在つては特に先例、儀式、典禮家門等が重視せられ繁雜を極め、簡單に政治を行ひ難いばかりでなく人材登庸等につき不便ありし事と、當時藤原氏の專横とその他積年の弊風を革新せられんとし給ふたものである。而して院廳には政務を執る院司を設けまた武士を登用して警衛に當らしめ所謂北面の武士とした

この院廳に於いて院旨を奉じて下知する文書を院宣と稱し最も重ぜられたものである。爲に專横を極めた藤原氏も没落したのである。

維新の三傑 明治維新に功勞特に優れたる、西郷隆盛、木戸孝允、大久保利通を明治維新の三傑と稱す。

井伊直弼 彦根藩主にして掃部頭と稱した、剛毅果斷、所信の斷行力に富たる人物にて、安政五年(二五一年)大老となり夙に開國進取の志を抱き堂々開港の必要を説き、勅許を待たず通商條約に調印し、衆議を排し家茂を將軍に爲す等專斷の行爲多く且つ尊王攘夷派を彈壓し例の安政の大獄を起す等上下の怨を買たるのみならず吉田松陰、頼三樹三郎橋本左内等有爲の志士を數十名投獄したる上に斬・流に處したるは遺憾とするところであつた。されば之等の直弼の專斷に對し最も反對したる水戸藩士佐野竹之助等十七人は遂に薩摩藩士有村治左衛門と共に萬延元年(二五二年)三月三日櫻田門外にて直弼を暗殺した。

石川五右衛門 戰國時代の盗賊として有名なる人。豊臣秀吉の臣、木村常陸介の命を受け桃山城に忍び込み、秀吉を刺さうとして捕へられ、釜茹の極刑に處せられたと云は

れてゐる。

ウ之部

右大臣 皇極天皇の四年に蘇我石川麻呂が始めて之に任ぜられた、大政官に属する官で左大臣の次に位し、天皇を補佐する重責のあるもので現在の宮内官の如きもので、武家時代は名ばかりであつた。明治十八年廢止せられた。

浮世繪 江戸時代に起つた日本畫の一派。寛永の頃（岩佐又兵衛）が始祖である。畫風は風俗習慣を寫し出したもので、明和より寛政の頃が最も盛であつた勝川春章、喜多川歌麿等有名である。現在では挿繪、錦繪として残つてゐる。

ウイリヤム・アダムス 我が國に歸化した最初のイギリス人。初めオランダ船の水先案内となり、慶長五年（二二六〇年）我が國に漂着したが、徳川家康はヤン、ヨーステンと共に之を江戸に召して外交顧問とし、神奈川縣三浦郡に邸や土地を與へた。アダムスは名を三浦安針と改め、後、長崎縣平戸で貿易に従事し、元和六年歿した。

梅田雲漢 小濱藩士にして本名源次郎といひ、幕末の勤王家にて、夙に尊王攘夷を唱へ、憂國の志士と交はり國事に

奔走し、安政大獄の際、捕へられ遂に獄中に病死せる人である。

エ・エ之部

榮華物語 書名で、宇多天皇の御代（一五四七年）より堀河天皇の頃（一七四六年）まで、十五代凡そ二百年間の事柄を記したる一種の歴史物語である。主として藤原氏の榮華を記しあるものにて作者分明でない。

江川太郎左衛門 江戸時代の伊豆菫山の代官、坦庵と號す夙に蘭學を修め、尙ほ長崎の高島秋帆に就き砲術を學び、之に精通し、併せて洋算測量・洋風練兵に通じ、後ち幕府の鐵砲方となり、砲臺を築き、海防に意を注いだ人で有名である。

榎本武揚 初め徳川幕府の旗本で、軍艦奉行となり（戊辰の役）に軍艦八隻を率ゐて函館に遁れ、五稜廓に據つて戦つたが、敗れて官軍に降つた。後、命を奉じてロシアと千島と樺太の交換條約を結び、更に全權公使となつて清國に赴き、又數回國務大臣に任ぜられ、功によつて子爵を授けられた。明治四一年歿、年七二。

オ之部

王政復古 我が國は古來天皇親ら政を執り給うたが、源頼朝が鎌倉に幕府を開いて後約七百年間は、その實權は殆ど武家の手に握られた。然るに、徳川幕府の末に尊王論が盛になり慶應三年（二五二七年）將軍慶喜が大政を奉還するに及んで、再び大權は天皇の御手に歸し、古の政體に復つた之を王政復古又は王政維新といふ。

大津事件 明治二十四年ロシアの皇太子ニコラス（後の皇帝ニコラス二世）が來朝せられた時、滋賀縣大津市で巡查津田三造が之に傷つけた事件。明治天皇には深く御心を惱ませられ、特に京都に行幸あそばされ慰問し給うた。

小田原征伐 豊臣秀吉は、關白となつて殆ど國內を統一したが、關東の北條氏政、氏直親子はまだ之に従はなかつたので、天正十八年（二二五〇年）、徳川家康を先手として、大軍を率て東海東山兩道から攻入り、小田原城を眼下に見下す石垣山に壘を築いて、氣長に包圍して之を攻めたので城は遂に陥り、氏政は自殺し、氏直は降り、國內は全く平いだ。世に之を小田原征伐といふ。

大目附 江戸幕府時代の職名、老中の耳目となり政務の得失訴訟の公平等に關與し、大名、老中以下諸吏を糾察する等今の大監察官の如き職務をなしたるもの。

大阪冬の陣 大阪に起つた豊臣氏と徳川氏の戦争。徳川家康は、關ヶ原の戦の後豊臣氏を滅さうと思つて、（方廣寺の鐘銘事件）を口實にして大阪方を責め、遂に慶長十九年（二七四年）十一月、その子秀忠と共に大阪城を圍んだが、城が固く容易に陥らないのでその年十二月、一旦和睦して事がをさまつた。

大阪夏の陣 大阪に起つた豊臣・徳川兩氏の戦争で、徳川方は（大阪冬の陣）の媾和條約を守らなかつたので、和議が破れ、兩軍は再び戦ふやうになつたが、大阪方が敗れて、眞田幸村・木村重成の名將は戦死し、秀頼母子は自殺して豊臣氏は全く滅びた。時に元和元年（二二七六年）四月で世に之を大阪夏の陣といふ。

王陽明 支那明朝の學者。名は守仁、知行合一の説を唱へた。その學を（陽明學）といひ、我が國でも江戸時代に朱子學と共に行はれ、中江藤樹・熊澤蕃山等の學者を出した。尾形光琳 江戸時代の畫家。京都の人で、繪を狩野常信・

野村宗達等に學び、遂に一家をなした。金泥・銀泥を用ひることが巧みで、之を蒔繪にも應用し、世に光琳蒔繪といはれ、多く名作を残した。享保元年(二三六七年)歿、年五九。

大島圭介 明治時代の政治家。初め徳川幕府に仕へ、維新の際には奥羽戦争・函館戦争等で官軍に抗したが、降参してから政府の役人となり、明治二十七八年戦役には朝鮮公使として功をたて、後樞密顧問官となり、子爵を授けられた。明治四四年歿年七九。

大岡忠相 吏務に練達し公事を裁断するに頗る公明で徳川八代將軍吉宗に拔擢され江戸町奉行となり在職二十年に及んだがその裁判は頗る公平で人情に叶つてゐて所謂名裁判が續出したので世に大岡裁きとして有名である後寺社奉行となり一萬石を賜り諸侯に列し越前守に任せられた故世に大岡越前守といふ。

大久保利通 明治維新の功臣である。鹿兒島の藩士・同藩の西郷隆盛と共に幕末勤王攘夷論の沸騰の間に奔走し、或は公武の調和を謀り、薩長の不和を和解せんと力め、大政奉還後參與に任せられ次いで參議となり、明治四年には岩

倉具視と共に歐米に派遣せられ六年歸朝、征韓論にては西郷等と説を異し相争つた。臺灣事件には全權辦理大使として清國に使い償金を取り等有名である。明治十一年五月十四日參朝の途赤坂紀尾井町に於て刺客島田一郎等に殺さる時四十八歳、功により、朝廷右大臣正二位を贈らる。

大隈重信 佐賀藩士、經書を學び後ち蘭書を修め、尊王に副島種臣と共に脱藩奔走し、維新後は參與・外務・大藏・民部等の要職を経て明治十年大藏卿に進み其後職を辭し同十年改進黨を組織す、同三十年伯爵を授けらる、次いで外務大臣となり條約改正に奔走する等時に暴徒に襲はれ一脚踏を失ふた。明治三十年以後は野にありて憲政會を率ひ一方早稲田大學の創設に力を盡し後ち侯爵を授けらる。

力之部

鎌倉時代 建久三年(一八九三年)源頼朝、平氏を滅して鎌倉に幕府を開いてより元弘三年(一九九三年)北條高時が此地に亡びるまで約百五十年間をいふ。この時より天下の實權は殆ど幕府が握り、所謂(武家政治時代)を作つた。而して鎌倉時代は武士道の盛んな時代にて有名である即ち勤儉

尙武・簡素質實なる生活を獎勵したものである。

鎌倉時代の武士道 (武士道の起源参照)

權原神宮 奈良縣高市郡白檜村に在り、官幣大社である。

神武天皇の營み給ひし權原宮址に建立せられ神武天皇を奉祀しあり。

神奈川條約 (日米和親條約)安政元年(二五一四年)三月徳川幕府が米國と結んだ條約で、先に嘉永六年(二五二三年)に軍艦を率ゐて我が國に來た米使節ペルリは再び軍艦七隻を率ゐて來り、交際・通商を開くことを請うたので、幕府は安政元年一先づ和親條約を結び、伊豆の下田・北海道の函館の二港を開き、薪水・食料等の必需品を給する事等十二ヶ條を約したのをいふ。

金澤文庫 鎌倉時代に北條實時が今の神奈川縣金澤町に設けた書庫で、實時、子の顯時、孫の貞顯の三代に互つて和漢の群書を集めたものである、今は内閣文庫に收められてゐる。

海國兵談 徳川幕末の憂國家林子平の著したものに於て國防の急務を説けり(幕府は之を世人を惑はす者なりとして寛政四年子平を罪せり)然るに子平の言の如くまもなく露

國人は北邊を窺ふに至つた。

關白 (一の所) (一の人)ともいふ。宇多天皇の仁和三年(二五四七年)藤原基經が始めて任ぜられたもので、大臣等の上にあつて、天皇を輔け奉り天下の政を行ふ者をいふ。

徳川幕府の末まであつた。

蒲生君平 (寛政の三奇人参照)

龜山天皇 第九十代の天皇。後嵯峨天皇の第七皇子にましまし、御年十一で即位(二九一九年)せられ、後、皇位を後宇多天皇に譲られ、上皇として院政を聽かれ(弘安の役)には御身を以て國難に代らんことを伊勢神宮に祈りたまうた嘉元三年崩御、御年五七。

賀茂眞淵 本姓を岡部、名は政信といひ眞淵は號で。遠州濱松の賀茂家に入夫したもので弱年にして京都に出で荷田春滿の門に入り國學を修め、後江戸の田安宗武に招かれ之に仕へ眞淵の一生の事業は文學方面より入り我が古道を明かに萬葉集を中心に古典を研究し、萬葉集考、冠辭考、源氏物語新釋等を著し、古道を唱道し國意書を著し且つ和歌もよくした。有名な(もろこしの人)に見せばや三芳野の吉野の山の山櫻花)後ち田安家を辭し、尊王の志厚く力を講

學に専念した。門人には國學を大成した本居宣長、文學を傳へた荒木田久老、攝取魚彦、村田春滿、加藤千蔭等の秀才が輩出した。明和六年七十三歳で歿した。

荷田春滿 伏見稻荷の神官の家に生れ、神道研究に志し復古神道を唱へ、國學者として、國史、律令・古文・古歌及諸家の記録に到る迄通じ、氣概のある人物で、吉良家の繪圖を大高源吾に與へたこともあつた。其の門人には賀茂眞淵・甥の在滿等あつて國學を傳へた。著書に萬葉蒙抄、伊勢物語童子問等がある。元文元年六十九歳で歿した。

河野通有 鎌倉時代對馬守として武將の饒勇を以て名高く特に弘安四年元軍襲來するや之が撃退の命を受け、夜敵船に乘込み、一將を擒にし、船を燒きたる等世人その武勇を賞嘆せり。

川路利良 明治初年の大警視で、我が國警察制度確立の大恩人である。

春日局 徳川家光の乳母。名を阿福といひ、稻葉正成に嫁いで三人の子を生んだが、後、徳川家光の乳母となり、よく家光の爲に忠誠を盡くしたので有名寛永二十年没す。

加賀千代 江戸時代の女俳人で加賀國金澤の表具師福岡彌

八の妻、俳諧をよくし、又繪が上手であつた(朝顔につれらるべとらて貰ひ水)(蜻蛉釣り今日はどこまで行つたやら)等の句は名高い。安永四年七十四歳で没す。

何應欽 (國民政府軍政部長貴州省興義縣の人、一八八九年生。日本陸軍士官學校、陸軍大學を卒業し、歸國後第一第二革命に参加し、蔣介石が黄埔軍官學校を設立するとその教頭に選ばれ、爾後蔣の腹心として重用されてゐる。一九三〇年閩錫山、馮玉祥、汪兆銘の反蔣軍と戦つて功があり軍政部長となつた。その後北平軍事分會委員長となり、一九三五年(昭和十年)わが梅津駐屯軍司令官との間に(梅津何應欽協定)を結んだことは有名である。一昨々年三度軍政部長となり、更に廣東行營主任、軍事委員會常務委員となり、西安事件には討逆總司令となつた。一九三七年華南區總司令の兼任を命ぜられた。

ガンヂー インド獨立運動の指導者。一八六九年に生る。ロンドンに留學、歸國辯護士開業。南阿にあること二十年イギリス帝國主義よりインドを解放せんとして反英運動を起し、その首領となる。一九二四年及び一九三〇年に反英運動のため投獄さる。三一年英印圓卓會議の結果釋放され

アールウィン卿と妥協して騒然たる國情に沈靜を與へたが大衆はかゝる妥協に満足せず、第二回英印圓卓會議は遂に決裂した。大衆のうちには小ブル的指導者として彼に反對する者が次第に多くなり、一九三二年に入つて反英運動は益々盛んとなり、ガンヂー又これに動かされ、三度イギリス政府のために投獄された。不服従主義の主張者。

キ之部

記録所 御三條天皇の延久元年(一二二九年)に始めて大政官に記録所を設けられ上郷辨、寄人を設け莊園券契を調査整理し之が新設を禁じた其後一時廢されたが鳥羽・後白河・後鳥羽天皇の御代にも設けられ、後醍醐天皇の建武中興の際にも之を設けられ、御親らこゝに出御政務をみそなはせられた。

菊一文字 名刀の名(菊の御作)ともいふ。御鳥羽天皇が當時高名なる刀工、則村貞次等を召され(御番鍛冶)として御作になつた刀を謂ふ。其の刀には菊の御紋を表はされてゐるので此の名がある所以である。

銀閣寺 文明十二年(一一四〇年)足利八代將軍義政隱退し

こゝに山莊を營みやがて義滿の金閣其の他の殿舎林泉を造り、書畫骨董、名器珍寶を蒐集し専ら風流韻事に耽つた。其後屢々兵火の災に罹り、義政の風流を偲ふものとして僅かに庭園を存するに止まるはまことに惜しむべきことである。

金閣寺 應永元年(一一五三年)足利義滿京都西園寺公經の別莊を譲り受けこゝに山莊を營み結構を極めた建築にて有名である。

義和團 日清戦後、各國の壓迫激甚なりし故清國の進歩派は自強策を執り國力の挽回を企り、保守派は愈々排外思想を鞏固にしたり。義和團はこの後者に屬する政治的結社で(基督教撲滅、外人の排斥)等を目的として結成せられた。而して明治三十三年義和團の暴徒山東省に蜂起するや在留外人を迫害し鐵道を破壊し、一方清朝の保守派は之を保護せしかば益々勢を得、遂に北京に入り、官兵と親しみ外國公官を襲ふ等亂暴を極めたるを以て茲に於て列國の出兵となり北清事變を惹起するに至つたものである。

北島親房、顯家 共に建武中興の忠臣・顯家は尊氏の叛するや各所に勤王の軍を募り忠節をした、新房は勤王の志厚

く(神皇正統記)を著し、南朝の正統なるを論じた人。
菊地武時 建武中興の忠臣、肥後の人、夙に勤王の志を抱き密に伯耆船上山にましました、後醍醐天皇に奏して錦旗を賜つた、のち鎮西探題北條英時を討たんとしたが直前に事破れ自盡した。

木下順庵 江戸時代の學者で、京都の人、儒學で名を揚げ加賀侯及び江戸幕府に仕へ、新井白石・室鳩巢等多くの名高い弟子を出した。元禄十一年(二三三五年)没、年七八。

ク之部

群書類從 書名。塙保巳一が安永八年から文政二年迄四十餘年間費して作り上げた叢書で、我が國の古書の中未だ發刊されなかつたものを二五部に分け集めたもの其中でも有名な神祇・帝王等の名著がある。

國造 上古、諸國に在つてその土地を治めた長官。孝徳天皇の御時、新に國司、郡司が置かれて、この職は廢された。

熊本城 鹿兒島本線熊本驛の東南約一軒に在る。慶長六年(二二六一年)加藤清正が舊城を築きたるものにて日本の三名城の一たりしものである、その手植の公孫樹あるを以て

一名を銀杏城ともいふ、後細川忠利代つて居り、明治十年西南役の際兵火に罹り今僅に宇土櫓を存するのみである。
藏屋敷 徳川幕府の頃、幕府と諸侯とがその領地から輸送して來た玄米を入れて置く庫のある所。士人の給料や拂下米等を取扱ふのはたいていこゝで行ふ。諸侯は便利のため

に大阪と江戸の深川とに倉庫を置いた。
寛政の三奇人 寛政の頃の尊王論者、林子平、高山彦九郎、蒲生君平の三人を云ふ。林子平は、仙臺人、西洋事情を研究し海防の急務なるを警告し三國通覽、海國兵談等の著書あり。

高山彦九郎は、上野の人、諸國を歴遊して尊王の大義を説き皇室の衰微を憤慨したる人物。

蒲生君平は、下野の人、歴代の山陵を歴訪しその荒廢を慨き山陵誌を著せり。

熊襲 上古・九州地方南部に住んでゐた種族にして、勇敢て屢々地方を亂してゐたが、景行・仲哀兩天皇の御代(八五三年)征伐され、後朝廷に従ふやうになつた。

楠木正成 建武中興の大忠臣、河内の人、元弘の亂の際後醍醐天皇の勅命を奉じて勤王の兵を擧げ、赤坂・千早の兩

城に據り、北條軍を惱し、建武中興の業成るや功により攝津・河内を賜つた。足利尊氏の叛するや之と戦つて湊川に戦死した。今の湊川神社は此の忠臣を祀つてある所。

工藤祐經 伊東祐親の従兄弟で、伊豆國伊東の住人、祐親が自分の留守中に領地を奪つたのを怒り、祐親とその子祐泰が狩獵に出たを家僕に命じて殺した。後ち源頼朝に仕へて勢を得たが、建久四年(二八五三年)(富士の巻狩)に、祐泰の遺子曾我祐成、時致の兄弟に殺さる。

クビライ 蒙古の大祖成吉思汗の孫で、世祖といはれ、我が龜山天皇の御代(一九二〇年)頃、宋を滅して國號を(元)と稱し、今の北平に都を定めて世界空前の大帝國を建て、勢頗る振るひ、その餘勢をもつて我が國に押寄せ、文永(一九三四年)弘安(一九四一年)の兩役を起したが、見事に失敗した。併し、世祖はこの大國を治める爲に廣く内外から人材を登用した、例のマルコ・ポーロその他西洋人も多く仕へ、東西文化の融和上非常に貢献したものである。

クレオパトラ 古代エジプトの女王で、今から凡そ二千年前、弟のプトレマイオスと位を争ひ、美貌と才智を以つてローマのシーザーを味方につけ、その援を得て遂に女王と

なつた、後ちシーザーが暗殺されると再びエジプトを征伐に來たアントニウスを味方にして自分の勢力を維持したが、アントニウスがオクタヴィヤヌスに討たれたので、自分も毒蛇に身を咬ませて自殺した。
クレギー 駐日イギリス大使、昭和十四年五十六歳、昭和十二年九月初旬即ち支那事變が始まつて間もなく赴任しヒューゲッセン駐支英大使の中支で負傷事件、上海海關の接收事件、次に天津事件、日英東京會談及び淺間丸事件等に英國代表として昭和十四年七月十五日より有田外相と數次に涉る會談に於て遂に我三原則を全面的に承認するに至つた等英國有數の外交官である。

ケ之部

現大臣氏名

- 任内閣總理大臣 正三位勳一等功四級海軍大將 米内 光政
- 外務大臣 從三位勳一等 有田 八郎
- 内務大臣 從二位勳一等伯爵 兒玉 秀雄
- 大藏大臣 從三位勳一等 櫻内 幸雄

陸軍大臣 陸軍大將 畑 俊六
 海軍大臣 海軍中將 吉田 善吾
 司法大臣 検事三位勳二等 木村 尙達
 文部大臣 從二位勳一等樞密顧問官 松浦鎮次郎
 農林大臣 從三位勳二等 島田 俊雄
 商工大臣 勳三等 藤原銀次郎
 逓信大臣 正四位勳三等 勝 正憲
 鐵道大臣 正五位勳三等 松野 鶴平
 拓務大臣 正三位勳一等功二級陸軍大將 小磯 國昭
 厚生大臣 從四位勳三等 吉田 茂

檢非違使 嵯峨天皇の弘仁二年(一四七六)より京都及諸國に設けられた制度で、今日の司法及び警察の任務に當る職掌であつた。

憲法發布 明治二十二年二月十一日、紀元の佳節を卜して明治大帝により大日本帝國憲法は欽定、發布せられたものであるこの日、大帝には皇祖皇宗の神靈に御親告あらせられると共に大典を擧げさせ給ふたのである。而して臣民の向ふ所を示させ給ふて今日に及び尙ほ將來不朽の大法典である。

源平盛衰記 書名で四八巻。二條天皇の御時から安徳天皇

の御時まで、源平兩氏の榮えたり衰へたりした跡を假名交り文で書いた軍記物語。作者は明らかでない。

源氏物語 書名で、藤原時代の女流文學者紫式部が作つた小説で、優美な假名文で書かれ、よく當時の上流社會の人情・風俗を寫し出し、古今の名作として世に貴ばれてゐる

檢校 1室町時代に盲人に與へられた最高位の役名。2昔の僧侶の名、3名高い社、寺に於て事務を監督する職名。

元寇 鎌倉時代の初期、支那北部蒙古に成吉思汗なる英雄起り亞細亞の大部及び歐羅巴の東部を征服し、その孫忽必烈は益々強大となり元と稱して、我が後宇多天皇の文永十一年(一九三四年)四萬の軍を以て入寇・壹岐・對馬を襲ひ博多に迫つたがよく之を撃退した(文永の役)次いで弘安四年(一九四一年)前の數倍の軍勢で來襲し神風の加護と北條時宗以下の鎌倉武士の豪勇によつて之を全滅せしめた(弘安の役)尙ほこのとき特記すべきは長くも龜山上皇には御身を以つて國難に代らんとまで御祈念あそばされたことである。

兼光 備前長船の住人刀工。父子四代あり。初代は文永頃、

建武中興 後醍醐天皇北條高時のために、隱岐に蒙塵せらるゝや、勤王の士各地に起り、北條氏遂ひに滅亡せり。元弘三年(一九九三年)六月五日天皇京都に還幸し、二條富小路殿に入御せられたるより、延元元年十二月二十一日花山院より吉野に潛幸されたるまで、凡そ四年間を建武中興時代と云ふ。天皇還幸の後、記録所を開きて萬機を親らし訴訟決斷所を設けて領地に關する訴訟を裁決せしめ、武者所を置きて武士を管せしめる等、治績大に整ふ。翌年年號を建武(一九九四年)と改められしにより、これを建武の中興と稱す。

建武中興に活躍した忠臣 楠木正成、新田義貞、菊地武時名和長年、北畠親房、顯家、藤原藤房、土居通増等尙ほ足利尊氏、赤松則村等も建武中興には功ありしも後間もなく叛旗をひるがへした。

源平時代 平安時代の末、後白河天皇の保元年(一八一六年)から安徳天皇の壽永年間まで約三〇年間をいふ。この間、源平兩氏は互に勢を争ひ、殊に平氏は保元・平治の兩亂で勢を得てから、一族皆心が傲つて藤原氏の榮華をまなび、遂に壇浦の戦で源氏の爲にもろくも敗れて亡びた。

二代は嘉元頃、三代は延文の頃で、いづれも名工で、中に二代目は相州正宗の門に入りて其技を練り、同門長義と共に備前に在りて一異彩を放てり。殊に双味の古今に傑出せるを以て武人最も賞讃し、新古刀を通じて今に第一流のものとせらる。世に大兼光と稱するは此二代目を謂ふ。

月照 京都清水寺の僧。江戸幕府の末頃、諸藩の志士と往來して、大いに尊王攘夷の論を唱へた。(安政の大獄)が起るに及んで幕府の役人に追はれて薩摩國に逃れたが、到底逃れられないのを知つて、親友西郷隆盛と共に薩摩瀧に身を投げ、隆盛は救はれ月照は死んだ。時に安政五年、年四六。

ゲーテ 獨逸に生まれ。少年時代から文才に秀でて居り、十歳の頃既に立派な詩を作つたといはれてゐる。十七歳の頃ライプチヒ大學に入り、父の希望によつて法律を學んだが、常に文藝方面に心を寄せてゐた。かうして二十五歳の時(エルテルの悲み)を著はしてその文名を全世界に轟かした文豪である。

皇室と國民

我が國は建國の初めより、諸外國と異り、皇室を中心として日本民族共存共榮の國柄を成すものにして神聖なる天皇の下に國家を成立し、即ち天照大神の御神勅に則り、而も皇室と國民との關係は、義に於ては君臣なるも情に於ては親子の如く、歴代の皇室の民を思ひ給ふこと常に子の如く又臣民の皇室を仰ぐこと親の如くこゝに他國に比類なき我が國體の精華は存す。例へば仁徳天皇が高臺に登り百姓の窮乏を察し給ふたが如き、龜山上皇が弘安の役に際し身を以て國難に當られんことを御祈り給ひしが如き、明治大帝が（すゝむ世を見るにつけても思ふかなわが國民のうへはいかにと）と仰せられたが如き、御歴代の皇室の國民を慈しみ給ふこと總て斯くの如く、臣民亦皇室に對しては身命を鴻毛の輕きに比し奉公申上げる。

五箇條の御誓文 明治元年（慶應四年）（二五二八年）三月十五日 明治天皇は紫宸殿に出御、親王、公卿、諸侯、百官を率ゐて天神地祇を祭り、明治維新に於ける國是の大方針として、五箇條の御誓文を御親告遊ばされると共に之を國民に示し給へり即ち。

一、廣く會議ヲ與シ萬機公論ニ決スヘシ

一、上下心ヲ一ニシテ盛ニ經論ヲ行フヘシ
一、官民一途庶民ニ至ル迄其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシメン事ヲ要ス

一、舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ
一、智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ
我國未曾有ノ變革ヲ爲ントシ朕躬ヲ以テ衆ニ先ンシ天地神明ニ誓ヒ大ニ斯國是ヲ定國民保全ノ道ヲ立ントス衆亦此旨趣ニ基キ協力努力セヨ。と宣せられたり。

五大老 豊臣秀吉が政治を相談する爲に設けた最高の職で當時徳川家康、前田利家、毛利輝元、宇喜多秀家、小早川隆景を之に任じた。

御朱印船 豊臣秀吉の頃から江戸幕府の初頃までは、海外貿易を奨励し、外國との通商を願ひ出た者には、朱印を押した免許狀を與へて許したので、その朱印狀を持つた大きい貿易船を世に御朱印船と稱した。

弘道館 水戸藩主徳川齊昭が立てた藩の學校。藤田東湖等の指導の下に、所謂（水戸學）の中心となつて、江戸幕府の末に尊王攘夷の論を唱へた勤王の志士を多く出した。今水戸市にその建物が遺つてゐる。

古事記 書名。我が國最古の歴史の書で、元明天皇の御時代、太安曆が稗田阿禮の述べた口傳を書き集めて作つたもので三卷よりなり、神代から推古天皇までの事柄を記してある
五攝家 昔、攝政、關白に任せらるゝことになつてゐた五家をいふ。即ち藤原氏から出た近衛、九條、二條、一條、鷹司の五家を云ふ。

古今集 古今和歌集を略していふ。醍醐天皇の延喜五年に紀貫之等四人の歌人が古（萬葉集にもれた歌）から今（集めた當時）迄の和歌凡そ一千百種を選び集めて奉つた歌集で（勅選和歌集）の最初のものである。

金色堂 岩手縣平泉町中尊寺にある御堂にして外部は漆塗り金箔を押ししてある、崇徳天皇の大治元年（七一八六年）に藤原清衡が造つたもので其の裝飾は藤原時代の美術の粹を集めたものといはれ、今は特別保護建造物となつてゐる。

古來日支關係の概略 1 上古、紀元六七百年の頃より九州地方の豪族中には支那と往來し、後漢の光武帝から印綬を受けた者もあつたが、その後も應神、雄略天皇の頃には支那人の我が國に歸化する者多く、従つて彼の文物を輸入する様になつた。而して國家として兩國の國交は推古天皇の

御時にして（紀元一二六七年）小野妹子を支那（當時隋）に遣隋使として遣はされ始めて國交を開き、次いで舒明天皇は當時隋が亡び唐の世となるに及び之に（紀元一二九〇年）遣唐使及び留學生、僧侶等を派遣され支那文化の我が國に傳へらるゝことが多くなつた。

2 中古、遣唐使の開始以來、奈良朝時代を中心として支那との交通は益々盛んであつたが、平安朝宇多天皇の寛平六年（紀元一五五四年）に遣唐使を廢止せられ、以後日支國交は一時中絶せられた。その後唐が亡び宋が起るや平清盛は之と通商を開始した。

3 近古、其後鎌倉時代まで宋との交通は盛んに行はれ多くの僧侶は入宋して禪宗を輸入する等ありしたが、宋亡びて元起るや例の一九三四年と一九四一年（文永、弘安の役）が起り再び交通は中絶した。然し吉野朝時代より室町時代に互り倭寇は盛に支那沿岸を荒してゐた、次いで足利義正は當時の明と國交を回復し貿易を奨励する等豊臣秀吉の朝鮮征伐に至るまでは又日支交通は復活したのであつた。

4 近世、徳川時代に入り寛政十六年（二二九九年）鎖國令ありしも支那人・オランダ人は長崎で通商を許されてゐた斯

くして幕末開港時代に及び、明治三年清國と修好關係につき使節を送り明治四年修好、通商條約を締結した。然し明治七年臺灣征伐により對立したるも英國の調停にて解決、次いで明治十五年十七年には朝鮮事變に關し兩國勢力の衝突を見た、天津條約等により解決せんとしたが遂に明治二十七年の(日清戰爭)となつた。而して下關條約となり、次いで明治三十三年(北清事變)が起つた。次いで三十七八年日露戰役以來我が國は東亞の眞の平和を招來すべく日支間の親睦、調整に努力し來つたが、支那は歐米諸列國に頼り排日政策を強化せしを以て昭和七年九月滿洲事變となり滿洲の獨立となつた。然るに支那の排日抗日は益々旺盛を極め我が權益の侵犯甚しく遂に昭和十二年七月現事變の勃發を見たるものである。斯して來たるべく新政權は眞に我が國の久しく期待せし東亞新建設の一翼として日、滿、支和協、親善を第一義としたる國家の出現を見んとしてある

國家安康事件 天正十四年豊臣秀吉が方廣寺を建立せしが慶長元年の大地震にて破壊され、同十三年徳川家康が豊臣秀頼にその再建を勧め同十七年完成した。其後大佛及寺鐘も出來上り供養の最中、家康は寺鐘に(國家安康)とあるを

人であつた、明治三十七年に五十五歳で歿す。

サ之部

三種の神器と由来 三種の神器は天孫降臨の際天祖の賜りたる八咫鏡、天叢雲劍、八咫瓊勾玉を謂ふ。天日嗣の御璽として傳へ給ふ所である。而して八咫鏡は大神の天岩窟に隠れ給ひし時、石凝姥命に命じ作らしめたる御鏡にして大神の常に御愛ありしものと拜察される、されば(此の鏡を視ること吾れを視るが如くせよ)と宣ひたり。八咫瓊勾玉は岩屋戸の變に、王祖命の作れる所にして、常に宮中に御守として安置し給ふ。天叢雲劍は素戔鳴尊が出雲にて八岐の大蛇の體中より得て天照大神に獻し給ひし所なり。而して八咫鏡は伊勢大神宮に天叢雲劍(草薙劍とも申す)は熱田神宮に祀らせ給ふ。

左近の櫻 紫宸殿の南階段の東側にある櫻を謂ふ。右近の橋と相對して植えてある、以前は梅であつたのを、仁明天皇の御時櫻と植えかへられたものと言はれてゐる。

左大臣 官職名。孝徳天皇の大化元年に始めて阿倍倉梯麿を任せられたもので、太政官の長官、太政大臣の次で右大

發見之は自分を上下に切り離せるなりと大に怒り供養の中止を迫まつた、これが原因となり慶長十九年家康と秀頼と戦ひとなる之れ即ち大阪冬の陣と稱せらる。翌元和元年再び開戦となり秀頼及母は自殺し、初めて天下は徳川に歸した之を大阪の夏の陣と稱する。

兒島高德 岡山縣備前の人、元弘二年(一九九二年)後醍醐天皇が北條高時等の爲に隱岐に遷されようとした時、一族と共に御道筋に待受け、御乗物を奪ひ奉つて義兵を擧げんとして果さず、一夜院庄の行在所に忍び入り、櫻に(天、勾踐を空しうする勿れ、時に茫蝨無きにしも非ず)と詩を記して天皇の御心を安んじ奉つた有名なる人。

弘法大師 空海上人ともいふ。桓武天皇の延暦二十三年(一四六四年)に勅を奉じて入唐、留學三年にして眞言宗を學び、歸朝之を傳へ、高野山に金剛峯寺を建てた有名僧である。又書をよくし三筆の一人と稱せられ承和二年寂す時六十三歳。

小泉八雲 英國人で、明治二十三年に我が國に渡來し、小泉氏の女を娶り歸化した人を云ふ。深く我が國の、歴史、風俗を愛し多くの書を著し我が國の美點を外國に紹介した

臣の上位の政務を司る官名である。

西南の役 征韓論に敗れた西郷隆盛は、郷里鹿兒島に歸り私學校を設立し多くの子弟を教育してゐたが、その學生等は時の政府に不満を懷き、政府に問ふ所ありとして、隆盛を擁立して兵を擧げ、明治十年二月一萬五千の兵を以て鹿兒島を出發、熊本城を包圍した、故に朝廷にては有栖川宮熾仁親王を征討總督として之を討しめられた、田原坂、植木等で大いに戦ひ之に勝ち遂に鹿兒島の城山に追込み、隆盛等が自殺した事件をいふ。

參勤交代 江戸幕府が諸大名を取締る爲に定めたる政策にして、最初は諸大名の妻子を江戸に置き、各大名は一年がかりに江戸に住まはせた。その後家茂將軍の時より改め時期を三年目毎とし妻子を國に歸した。この制度は幕府の威權を知らしむると同時に諸大名の財政を消費せしめ其の力をそぐ目的に出でたる政策であつた。

櫻田門外の變 先に井伊直弼大老は、安政の大獄外交等により、天下の怒を買ひ、萬延元年(二五二〇年)三月三日江戸城の櫻田門外で水戸浪士佐野竹之助等十七名及び薩摩藩士有村治左衛門等の爲に襲撃を受け殺された事件をいふ。

三國干渉 我が國は日清戦争の結果として遼東半島を領有することになつた、然るに露國はそれが自國の極東政策上不利なる爲、東洋の平和の爲なりとの口實の下に佛國、獨逸と結んで之を清國に還付することを我が國に勧めたから我が政府は、内外の情勢に鑑みて涙をのんでその勧告を容れ、その代りとして償金三千萬兩を収めた。世に之を三國干渉といふ。

坂上田村麿 應神天皇の御代支那より歸化したる阿知使主の後裔と稱されてゐる、資性勇武にして且つ愛情に富み、桓武天皇の御代(一四六一年)征夷大將軍を拜し東北の蝦夷を鎮定して武功を立て、官は大納言に進みたるものにして後世武人の崇拜する所である。

西行 佐藤義清の法名である。今より七百五、六十前の人で藤原秀衡の子孫で武道、和歌に長じ、鳥羽上皇に仕へ北面の武士となり信任厚かりし、後檢非違使に任ぜられたが同族の横死に遭ひ、深く世をはかんで二十三歳で出家し自然を友として四方に遊び心のおもくまゝに歌を讀みたり有名作多數あり、七十三歳で死す。

坂本龍馬 土佐藩士にして明治維新の志士で、夙に尊王攘夷を唱へて國事に奔走し、薩長和合を計り、三條、岩倉等と往復し、又は山内容堂を説いて將軍慶喜に大政奉還を勧誘せしむる等維新に協力したる志士であつたが、幕府黨に憎まれ、刺客に殺さる。

西園寺公望 公卿徳大寺公純の二男にて嘉永二年、西園寺家を嗣ぐ、明治維新の際、山陰鎮撫使、奥羽征討、越後總督等として轉戦す。明治三年佛國留學滞在十年、後歸朝同十四年松田正久、中江兆民等と共に(東洋自由新聞)を發行。翌十五年伊藤博文と共に歐洲各國を遍歴して憲法取調を爲す。十七年侯爵。十八年全權公使埃國駐在、獨逸に轉じ、二十六年貴族院副議長、二十七年樞密顧問官、二十八年第三次伊藤内閣に文部大臣、二十九年外務大臣を兼攝。三十一年第四次伊藤内閣に再び文部大臣、次いで樞密院議長、同三十六年伊藤公の政友會總裁辭任後、政友會總裁。三十九年一月第一次西園寺西園寺内閣を組織し外務大臣兼任。同四十一年六月辭職。大正三年政友會總裁を辭し原敬に讓る。これより元老となる。大正八年春巴里講和會議に、帝國首席全權、同年八月歸朝。大勳位、九年公爵に陞さる明治以來の重臣である。

シ之部

聖德太子 用明天皇の皇子厩戸皇子と申し奉る。推古天皇の御代(二二五三年)より攝政たること二十九年間、我が固有の制度、習慣を基とし支那文化の長を採り、新政を行はされた。即ち官位を十二階に制定せられ上下の別を明にせられ、又有名なる十七條の憲法を制定せられ官吏の心得を示し給ひ、或は曆を天下に頒たれ、國史を編纂し給ひ、支那との國交を開かれ、佛敎の興隆に努め給ふ等大いに政力を致され其の御功績の大なるものがあつた。

聖德太子の憲法十七條 推古天皇十二年(二二六四年)聖德太子親から始めて憲法十七條を制定し給ひて、國民道德の基準を示し給ふと共に政治の根本方針を成文に依り示されたる法典である、即ち、協和、敬神、禮義、信義、公論、忠實、忠節、質素、憐民等に關する十七箇條を御示になりたり、而して當時は氏族制度の幣割極度に達し閥族互に反目相争、伴造、國造等各地に割據し土地人民を私有し互に強大を競ふ状態なりしを以て之等閥族跋扈を打破し君臣の大義を明徴にし天下の土地人民を統一悉く公地公民とし中

中央集權の實を擧げんと企て給ひしものである。

氏族制度 我が國上古の社會組織にして、即ち同一祖先より出でたる血族團體を單位として組織せるもので其の特色は1氏は夫々土地人民を私有し、氏上が之を統治し朝廷に奉仕すること2天皇は氏上と皇室直屬の土地人民を統治し給ふこと各氏は各世襲の職を有つてゐたこと等を擧げ得る**聚樂第** 京都にあつた豊臣秀吉の邸で、昔の大内裏の跡。天正十五年(二二四七年)に大阪から移したものである。翌十六年には後陽成帝が行幸せられた。その規模の豪華華麗は秀吉の氣持を映じてゐたといふ。

神皇正統記 書名。六卷ありて、北畠親房が常陸の小田城及關城に居た時に著したもので神代から後村上天皇の御踐祚の時に至るまでの御歴代の御事蹟を述べて、皇位の承け傳へられた御道筋を明らかにした有名な歴史書である。**島原の亂** 將軍徳川家光は、キリスト敎を禁ずると共に、その取締を嚴重にしたので、之に不平をいだいてゐた島原・天草島の信徒等は、明正天皇の寛永十四年(二二九七年)遂に亂を起し、益田時貞といふ少年を首領に押立て、島原半島の原場に立籠つた。よつて幕府は板倉重昌を遣はして

之を討たしめたが老幼男女合せて三萬に餘る信徒の團結は頗る固く、城は容易に陥ちないので、更に老中松平信綱を遣はし、二箇月の包圍の後、城中の兵糧漸く盡きて落城したことをいふ。

攘夷論 江戸時代の末頃に起つた、外國人を排斥すべしといふ論。先に幕府は、固く鎖國政策をとつて、外國から通商を請ふ船が來ても嚴重に之を拒んだ。仁孝天皇の文政八年幕府は我が海岸に近づく外國船は一切之を撃攘ふべしといふ法令を出すに至つた。従つて諸國の大名中にも海防・攘夷に力を盡すものが多く、殊に水戸の徳川齊昭は、率先して攘夷論を唱へ、薩摩の島津齊彬、佐賀の鍋島直正等も大いに海防に努めたのであつた。

少納言 大寶令で定められた官職名。大政官に屬し、詔勅を宣べ傳へ、官印の取締を司どる重要な職であつた。常に宮中に入出入するので、必ず侍從職を兼ねてゐた。

昌平校 徳川幕府の學校、其趾東京本郷湯島にあり、初め徳川家光、林信勝に賜ひたる講學所にして、もと上野忍ヶ岡にありしが、尾張侯徳川義直學を好みて其邸に孔子の廟を建つ、元祿四年(二三五一年)に至り將軍綱吉、其地の狹

く且其社院に近きを以て之を本郷湯島臺に卜して之に聖堂を建築し、親から大成殿の三字を扁額に書して官祀となし祭田を置きて春秋二回の釋奠に供し、其傍に昌平學舎を建て、林信篤等をして幕士及び諸藩主に教授せしめ號して昌平齋と云ふ。寛政中始めて官學となし學問所と稱し、官田を附し大に學制を更む。明治元年王師江戸を收めて後之れを復興し二年之を大學校と改む。

紫宸殿 昔は(ししいでん)とも稱へた。昔の大内裏の正殿で、もとは元日の朝賀や政治を行はれる所であつたが、後には即位式等の重要儀式も行はれるやうになり、明治以後も即位式は必ず京都の紫宸殿で御擧げになる定めである。その正面の向つて右側には橋、左側には櫻が植ゑてあり、之を「右近の橋左近の櫻」と名づけ、その由緒が深い。

七卿落 文久三年(二五二三年)當時禁衛をなした長藩士の議により大和に幸し、神武天皇の御陵を拜し親征せんとするや京都の守護松平容保、其間にありて朝議を變せしめよつて朝儀俄に長藩士を京都より去らしめ、三條實美等長藩に黨する者を屏居せしめた。故に長藩主乃ち入りて事を奏せんとせしが、遂に許されず。是に於て長藩主國に就き

文久三年八月十八日三條實美、三條西季知、四條隆訶、東

久世通禧、壬生基修、錦小路頼徳、澤宜嘉の七卿が、長門の藩士と共に京都を去りて長州に走る。是を七卿落と云ふ新撰組 江戸時代の末頃京都守護職の下に組織された佐幕派の團體で、有名なる近藤勇を團長し、大いに勤王の志士を惱ましたものであるが、幕府の倒れると共に解散したものである。

彰義隊 明治元年、舊江戸幕府の幕臣中、將軍徳川慶喜の大政奉還謹慎を喜ばぬ者は、輪王寺宮公現法親王(後の北白川宮能久親王)を奉じて上野寛永寺に據り、官軍に手向つたのをいふ。その數三千餘人に及んだが直に官軍に包圍され敗れたのである。

神風連 明治の初頃熊本に起つた政治團體で敬神黨ともいつた、大田黒伴雄事大野鐵平等が主となり、神道を崇び、我が國上代の政を理想として明治政府に反對し明治九年(熊本の亂)を起したが熊本鎮臺の兵に平げられた事件。

神功皇后 御十四代仲哀天皇の皇后、御諱は鳥長足姫尊。開化天皇の五世の孫にして、氣長宿禰王の女なり仲哀天皇二年皇后と爲る。九年仲哀天皇の崩御後、三韓を征して之

を降す。應神天皇を生むに及び后、朝に臨んで政を聽くと六十九年にして崩御あり。御年百歳。

成吉思汗(ジンギスカン) 蒙古の始祖で、名を鐵木真といひ、西曆一六二二年、黒龍江の上流なる外蒙古の地に生れた。父は蒙古族の酋長であつたが、鐵木真が未だ幼い頃、タタール族の爲に討滅されたので、母と共に種々と難儀をして成長し、長ずるに及んで先づ仇のタタール族を滅し、次いで附近の諸部落を併せ、遂に大汗(大君主)の位に即き名を成吉思汗と號した。

朱舜水 支那の明時代の學者。徳川光圀に招かれて我が國に來り、光圀の師となつて大いに我が國の文教をたすけた。元和二年(二二七六年)歿、年八三。光圀が建てた湊川の楠公の碑文は舜水が撰したものとして名高い。

蔣介石 (國民政府軍事委員長、行政院長、國民黨總裁) 字は中正、浙江省奉化縣の人、一八八八年生。保定軍官學校を出で、一九〇七年我が國に留學、陸軍士官學校を卒業し高田騎兵聯隊に見羽士官として在隊中、第一革命起るや歸國し孫文の廣東軍政府に入つた。第二革命に失敗するや上海に潜居して孫文の祕書となり、黨費の調達に努めた。一

九二三年廣東に於て大本營の參謀長となり、孫文の代表としてロシアに赴き赤衛軍の組織及び訓練法を研究し、一四二四年歸國して黄埔軍官學校を設立し、自ら校長となつて革命軍人の養成に努力した。孫文の歿後間もなくクーデターを斷行して左翼を一掃し、一九二七年上海、南京を占領し、國民政府及び國民黨部を南京に置いた。斯くて彼は浙江財閥と結んで軍費の方面を固め、十年間にわたつて鞏固なる基礎をつくり、全支を統一した觀があつたが、西安事變のために張學良によつて監禁され一時失脚を傳へられたが再び要職に就いた。日支事變勃發するや共產黨と合作して、抗日戦に躍起となつたが、遂に南京を逃れて風前の燈火に似た存在を續けながら、依然として長期抗日を豪語してゐる。

周恩来 支那共產黨の最高首領である。

朱德 支那共產黨の最高指揮者。

ジエンナー 英國の醫者。ロンドンで醫學を學び、外科醫を開いてゐる中に天然痘の豫防法を發見して、先づ自分の子に實驗して良い結果を得たので、西曆一七九六年初めて之を行ひ、以來全世界の天然痘豫防の恩人として知られてゐる。

ある。

ス之部

杉田玄白 徳川末世の名醫なり。名は翼、字は子鳳、九幸と號し。家世々小濱藩の醫員なり。出でて江戸に住す、長じて幕府醫官西支哲に外科を學び、次いで前野良澤と共に蘭館を訪ひ、蘭醫バブル及び譯司西吉雄等に親交し益々オランダ醫學の精緻なるを知る、良澤と相謀り解體新書を刊行し、世人をして始めてオランダ醫學の真相を知らしめたり。文化十四年四月歿す。年八十五。

スチムソン アメリカの政治家、前の國務長官。一八六七年にニュー・ヨークに生れ、エール及びハーバード兩大學を卒業共和黨に屬し、ニューヨーク州顧問辯護士を経てタフトの下に陸軍卿となる。後アメリカ軍に従ひ渡佛、二七年ニカラガア紛争解決に功あり。二八年フイリッピン總督に任命二九年フーヴァーの下に國務長官となり其職に在つた。三〇年ロンドン海軍會議に米國首席代表として活躍、三一年歐洲の經濟的政治不安を緩和すべく、ドイツ賠償問題に就て斡旋せしこともあつた。

スバルタ 昔、ギリシヤにあつた國で、常にアテネと對立して、今のギリシヤ半島の南端に勢を振つて一時ギリシヤ半島を統一したこともあつたが西曆三七一一年テーベに破られ、後マケドニヤに降り、遂にローマに征服せられた。併しその國民は幼時から頗る嚴格な武士的教育を受け、死を輕んじて名を重んじ、常に祖國の爲に一命を捨ててゐることを以てこの上もない名譽とした國民性を有した。

スターリン ソ聯邦の獨裁者で、昭和十四年六十歳、十七歳の時より社會主義運動に投じたものでレーニンの後を襲つて現在に至つた。

セ之部

征夷大將軍 奈良朝時代頃蝦夷を征する爲に設けた臨時の官で、元正天皇の御時(一三三五年)に始り、その後蝦夷が叛く毎に置かれ、愼戦天皇の御時、蝦夷が全く平定し、鎮守府が之を治めるやうになつてから暫く絶えたが安徳天皇の御時に、源義仲が自ら征夷大將軍と稱してから、再びその名が起つた。併しその内容が全く變つて、兵馬の權を握つた者と呼ぶ稱號となつた。

清少納言 平安時代の女流作家。清原元輔の女で、一條天皇の皇后に仕へ、學問が深く才氣があり、皇后の御寵愛を受けた。その著書(枕草子)は紫式部の源氏物語と共に國文の模範と稱へられてゐる。

戰國時代 室町時代中、(二二二七年)應仁の亂から後凡そ百餘年をいふ。この時代には將軍の權威が甚だしく衰へて地方の守護や豪族等が相争つても、之を抑へることが出来ず英雄が諸所に競ひ起つて、戦争は止むことがなかつた。中でも伊豆の北條早雲、甲斐の武田信玄、越後の上杉謙信、周防の毛利元就等は最も勢を振るつてゐたが、永祿年間、尾張に織田信長が出るに及んで、天下は漸く統一されるやうになつた。

正倉院 奈良にありて天平時代の(一三三九〇年)美術工藝品約三千點を藏しあり、其の大部分は聖武天皇の御手澤品にして精巧なるもの多し、建築は約一千百五十年前のものにして古代美術の保存上重要なものである。

ソ之部

莊園 王朝時代の頃より權臣、豪族、社寺等にして土地を

私有し租税を納めざるものが出来た、斯る私有地を莊園と稱した。即ち莊園は荒蕪地を開墾して私有したるもの、又は朝廷より賜りし賜田、功田、勅旨田、を其のまゝ私有したるもの、或は人民より神社、佛閣に寄進したる土地等であつた。藤原氏の全盛時代は特に地方政治亂れ、莊園増加し朝廷の収入減少を來したるを以つて之が禁止を行ひし事屢々ありし、次で武家政治となるに及びては莊園の多は武人の占有するところとなつて漸次廢絶するに至つたものである。

尊王論の勃興 我が國は萬世一系の天皇の親ら統治し給ふところなるに、源頼朝以來、政權は武門に移り武家政治の久しきに亘るや人々之に馴れ、我が國體の由來と皇室の尊き所以を忘るゝ者あるに至りたる所、徳川時代になるに及び、學問の獎勵と共に國史、古文の研究盛となるに従ひ、國體の特徵皇室の尊嚴な所以が自ら明らかとなりたる結果有識の士は大義名分を辨へ尊王論の勃興するに至つた。

即ち、徳川光圀の大日本史の大義名分論、山崎闇齋の君臣の義、竹内式部の尊王の大義、山縣大貳の皇室尊嚴を論じ、高山彦九郎、蒲生君平、林子平、頼山陽、荷田春滿、

賀茂真淵、本居宣長、平田篤胤等何れも大義名分を明かにし國體の尊嚴、尊王の大義を高唱せる有名の士で爲に次第に國民の間に浸潤し以て王政復古の大業を完成するに至つたのである。

僧契冲 兵庫縣尼ガ崎の人、幼にして出家となり高野山に入り快賢につき學び、特に日本書紀以下の國文學を研究し、國史、古典に對し先人未發の卓見が多く萬葉代匠記、其他古典の註釋や、和字正濫抄等の名著あり、當時の國學勃興の基礎を作つた。又和歌等をよくした。元祿十四年六十二歳で歿した。

孫科 (國民政府要人) 廣東省中山縣の人一八八九年生。孫文の長子、ハワイ、ホノルルで教育を受け、カリフォルニア大學コロンビア大學に學び、一九一七年歸國して父孫文に従つて革命運動に盡瘁し、蔣介石、宋子文等とは反對の立場にあつたが、一九三二年南京政府成るや妥協してその行政院長になつた。その後辭して上海にあつたが、再び政府に入つて立法院長になつた日支事件起るや歐米に特使として赴き、各國の援助を受くべく奔走してゐた。

宋子文 (中國銀行董長) 江蘇省上海縣の人、一九八〇年

生、上海聖約翰大學を出で、アメリカのハーバート大學に學んで經濟學銀行學を研究し卒業後ニューヨークの銀行にあつたが、歸國後は、廣東交易所、中央銀行その他にあつて實業界に活躍し、後に國民政府財政部長、行政院副院長をも兼ねて、浙江財閥及び政府、黨部との連絡を保つて財政の神様といはれてゐた。現に國民黨執行委員、中國銀行董事長である。

宋慶齡 (孫文未亡人) 江蘇省上海縣の人、一八九〇年生。宋子文、宋美齡の姉、アメリカのウヰルズレイ大學を出で孫文の夫人となつた。孫文の歿後三民主義の宣傳に努め、國民黨極左派を率ゐて活躍し、一九二九年陳友仁とドイツソ聯に入り一九二九年歸國後も共產黨と提携して抗日運動に狂奔してゐる。

宋美齡 (蔣介石夫人) 江蘇省上海縣の人、一九〇一年生、宋子文の妹、一九二七年蔣介石と結婚した。蔣の愛妻であると同時に、抗日運動の闘士として狂奔したる。

タ之部

平重盛 平清盛の子にて文武兩道に秀で、忠誠の念に富み

保元(二八一九年)平治(二八一九年)に功あり内大臣となる父清盛大政大臣の專横を憂ひ特に後白河法皇を幽し奉らんとするや、重盛人倫を説き之を諫め思ひ止らしめた其時有名なる(忠ならんと欲すれば孝ならず孝ならんと欲すれば忠ならず、重盛の進退谷まされり、生きて此の苦を見よりは死するに如かず、大人今日の擧を爲さんとせば先づ重盛の頸をはねよ)とて泣いて父の專横を諫しめたものである。

大化の改新の由來 大化の改新は(日本歴史上の三大改新と其の概要参照)孝徳天皇大化年間(二三〇五年)頃より皇太子中大兄皇子が中臣鎌足其他諸臣と共に斷行せられた。政治、社會上の大改革で其の由來するところは、支那文化の影響により諸般の制度の改革の機運の動き來つたと。上古以來の社會制度たりし氏族政治の弊害續出し土地人民を私有し朝命の徹底せざること等の原因あると共に世運漸く進歩し上古の如き簡朴なる地方分散的政治を改め規模大にして中央集權的なる政治機構を必要とするに至つたからである。

大寶律令 文武天皇の大寶元年(一三六一年)に定められたる今の刑法、行政法の如きものをいふ。即ち天皇は忍壁親

王、藤原不比等に命じて法令を改められたものである。中央政府には神祇官、大政官を置き、神祇官は祭祀を掌り、大政官には左大臣、右大臣等があつて、中務、式部、治部、民部、兵部、刑部、大藏、宮内の八省を置き地方には國司郡司を置き、徴兵令、學制、税法(租、庸、調)刑法(答・杖・徒・流・死)等の制度を確立せられたるをいふ。

大日本史 徳川光圀が神武天皇より後小松天皇までの歴史を編述したるものにして本書の一貫せる主義は光圀の精神に則し即ち大義名分を明かにするに在りて有名だ明治維新の尊王論は之等の國史に啓發せられたる所が多かつた。

大納言 昔、太政官に屬した官で、大臣と共に政に興り、又天皇と下々の間の連絡を司どつた。天智天皇の御代に始めて置かれ明治四年に廢された。

大老 桃山時代以後の武家の職名で、豊臣氏の頃には、政に興る最高の職として五奉行の上に之を置き、徳川家康以下五人の大老があつた。江戸時代には、幕府最高の職で、老中の上に位し、十萬石以上の譜代大名が之に選ばれたるし常置せられたものではない。

太平記 書名。四〇卷。花園天皇の御代から後村上天皇の

御代に至る約五〇年間の歴史、主に諸所の合戦、忠臣・勇士の物語を書いたもので軍記物語の中に秀れたものの一つとして昔から有名である。

竹取物語 假名書の小説の中最も古いもの一つで、内容は竹取の爺さんが、或日竹の中から一人の女の子を得て歸り、その美しさは驚くほどだったので、赫耶姫と名づけて可愛がつてゐた。すると、多くの若い男等が何とかしてお嫁に貰ひたいといつて來るので、姫は種種の難題を持出してそれに應じなかつたが、その中に帝の御召があつたのを姫はそれさへも斷つて、遂に月の宮に歸り去つたといふ話

大政奉還 土佐の前藩主山内豊信は、薩摩・長門の兩藩が聯合して密に倒幕を謀つてゐると聞き、事を平和に解決しようとして、家臣後藤象二郎に命じ、將軍徳川慶喜に政權を朝廷に還し奉ることを勸説したので、將軍慶喜は深く内外の情勢を察して慶應三年(一五二七年)天皇に奏して大政を奉還した。茲に武家政治は亡びて王政は古に復したのである。

田原坂の戦 明治十年三月、薩摩軍(西郷隆盛軍)は熊本市の北西田原坂に據つて大いに官軍を悩ましたので、官軍は

悪戦苦闘の結果、十七日目に始めて此所を撃破することが出来た。

第一次世界大戦の我國に及ぼせる影響 西曆一九一四年

(大正三年)より後五年に亘つて歐洲を兵火の巷と化し戦死約一千萬負傷者約二千萬、戦費約四千億圓と稱せらるる前古未曾有の大戦争であつた。従つてその結果は物質的にも精神的にも大影響ありしは勿論にして即ち政體の變改、新國家の成立、領土の増減、産業、思想の動搖等總ての部門に波及したることは言までもなき所で、之を我國つきて見ると1 經濟上に於ては我國は戦禍より遠く離れて居た關係上兵火の害を蒙ることなく。却つて交戦國に盛に物資の供給をなし輸出貿易の激増と共に國內工場の勃興従つて好景氣の發生、物價騰貴の襲來、國家財政膨脹、戦後の諸工業の萎微・不景氣再來・失業・生活不安、勞働爭議等社會問題の續出、思想運動の擡頭等となつて現る。2 國際關係に於ては膠州灣租借地の讓受け、南洋群島の獲得等軍事上産業に好結果をもたらすと共に英・米と共に世界三大強國の實力を獲得講和會議、國際聯盟、ワシントン會議等の平和運動に重要役割を演じたるも結核物資の有無植民地の均衡を

缺き日支事變第二次歐洲大戦へと進展するに至つた。

高杉晋作 江戸幕末の志士。長州藩士で、吉田松陰の門に學び、大いに尊王攘夷の論を唱へ江戸御殿山の英國公使館を燒、又藩に奇兵隊を組織した。次いで下關事件が起ると進んで自ら和を講じたが、幕府が長州征伐の軍を起した時藩内の俗論黨を倒して藩論を統一し、奇兵隊を率ゐて幕府の軍を迎へ撃つて之を破つた。有名なる志士である。

高山彦九郎 (寛政の三奇人参照)

堀保己一 武藏の人、七歳にして失明したるも記憶力よく江戸に出で、國書、神道、の研究をなし、群書類從を編纂し又幕府の保護の下に和學講談所を設け國學の普及に力を盡した。文政四年、七十七歳で歿した。

チ之部

チムール アジヤの大英雄。タメルランともいひ、自ら成吉思汗の遠い子孫と稱し、世界を統一しようとして、先づベルシヤ附近を平定し、都をサマカンドに定め、次いで中央アジヤを討ち、印度を侵し、更に鋒先を西に轉じて小アジヤに進み、オスマン、トルコを破つて、アジヤに大帝

國を建てたが後亡びた。

チエンバーレン 現英國首相で前蔵相で例の英國空前の大恐慌に直面して之を五ヶ年間に克服し今日の如き財政を強化したる手腕家で、冷徹、打算、所信の人である。一九三九年七十二歳。

チアノ伯 イタリアの外務大臣でムツソリーニ首相の女婿で、ローマ大學に法律を學び、新聞界に入り數社の社長となり、一九三五年宣傳相同三六年より外相となつた人。

ツ之部

徒然草 書名。室町時代に兼好法師の隨筆を今川了俊が集めて編纂したもので、二卷よりなつてゐる。文章が優美で古來枕草子と並び稱せられ、隨筆中最も秀れたるものと謂れてゐる。

テ之部

天孫降臨 高天ヶ原に於て天照大神は皇孫瓊々杵尊に（豊葦原瑞穗國は我子孫の君たるべき地なり、汝皇孫ゆいて治めよ、天日嗣の隆えまさんこと天壤と共に窮まりなかるべ

し）との勅語を賜ると共に三種の神器を授けられ給へり。斯くて皇孫は諸神を率ひ給ひて、日向の高千穂峯に天降り給ひて笠狭碕に宮室を營みて天位を定め給へり、茲に於て萬世動きなき我が國の基ひ定りたるをいふ。
貞永式目 御成敗式目ともいふ。鎌倉幕府が訴訟、裁判の法を一定する爲、貞永元年（二八九二年）に執權北條泰時が三善康連等と策つて定めたもので五十一ヶ條にも及び、初めは専ら幕府の御家人に適用せられてゐたが後一般に適用せられるようになった。之武家制度の基となつたもので有名である。

ト之部

徳川幕府の鎖國政策の理由 鎖國政策を行つた最大の理由は天主教禁止を徹底せしめんとするにあつた、即ち天主教基督教は天文十八年（二二〇九年）始めて傳來一時織田信長の保護を受けたるも豊臣秀吉は宗教を利用し領土を侵略せんとするものなりとし之を禁じ徳川家康亦之を禁じたるも貿易を奨励せし爲め、其の趣旨徹底せず爲に信者絶へず故に徳川家光將軍となるや之を徹底せしめんとして宗門改をしも參勤交代等を規定し經濟上・戰略上の掣制をなすと共に政略結婚を結ばさしめる方針をとる等の諸政策を施行し幕府の基礎を安泰ならしめたものといひ得る。

行ひ（二二九八年）所謂切支丹宗を嚴禁する爲め洋書の輸入を禁じ踏繪・海外渡航の禁止等外國貿易を犠牲として天主教の彈壓を行つた故に寛永十四年（二二九七年）島原の亂として信徒叛亂を惹起したるを以て益々天主教を恐れ（所謂寛永の鎖國令）となり天主教の圖書の焼き捨・信者の嚴重なる調査並に洋書の輸入嚴禁和蘭支那以外の諸國との貿易の嚴禁となり然も長崎一港に限定するに至つたものである、故對内的には施政上容易となりたるが進歩は遅れた。
徳川幕府の大名政策 二百六十餘年に亙り其の政權を維持し得た所以は其の大名政策の宜敷を得たところにある。即ち（親藩）として尾張・紀伊・水戸・三分家に家康の子孫を大名として置き將軍を輔佐すると同時に宗家に嗣子なき時は之に代つて將軍を嗣ぐ事とし（譜代大名）として徳川の支族又は祖先以來の大臣を封土は少くとも要職に當らしめ（外様大名）は封土は大なるものありしも一切幕政に與らしめず僻地に封じる等其の大名の配置も重要地には親藩・譜代を配し、親疎・大小相交へて配置し互に掣肘せしめた。又武家法度を定め之を嚴守せしめた、即ち一切支丹宗浪人の取締り居城修補の届出及び新築の嚴禁、私に婚姻を禁止

徳川時代の幕王論勃興の原因 源頼朝が武家政治を開きて以來久しく武門に政權を掌握せられてゐたが徳川時代となり人心漸く安定し學問の復興を見るに及んで漢學に於ては朱子學勃興しその大義名分論は當時の人心を刺戟する一方國學國史研究盛んとなり従つて我が建國の由來・皇室の尊嚴を認識するもの多を加へるに至れり即ち水戸光圀の（大日本史）頼山陽の（日本外史）等の國史を初め國學研究發達により賀茂眞淵・本居宣長・平田篤胤・塙保己一等の國學者輩出し、之等朱子學の大義名分論といひ國史の研究といひ・國學の勃興といつて總て求極に於て我が國に於ては尊王論に到達し皇政復古に合流せざるを得ない結論となるを以て、山崎闇齋、竹内式部、高山彦九郎、蒲生君平、頼山陽等を輩出ししむるに至り之等の志を繼ぎ明治維新へと進展したるものといふべし。

徳川綱吉 徳川綱吉は五代將軍にして始め堀田正俊を大老とし政に勵み、善政を行ひ又學問を奨励し忠孝尊王を鼓吹

せるが後ち柳澤吉保を寵愛し之に權を委ね己れは日夜宴樂に耽り生類憐み令を下し犬を極端に保護し又財政困難となるや悪貨を作り物價騰貴を來す等弊政多かりしものである

徳川幕府の滅亡とその結果 慶應二年(二五二六年)慶喜將軍となりたるも時既に幕府の威信全くなき、此の機に乗じ薩・長・藝・等の諸藩と朝臣相提携密かに討幕を策し王政復古を企圖するや、土佐藩主山内豊信の臣後藤象次郎をして慶喜に大政奉還を勸告する等あり將軍慶喜は斷然意を決し、慶應三年(二五二七年)十月十四日大政奉還を奏請、翌十五日明治天皇之を許し給ひしなり。茲に於て王政復古の大業完成し、源頼朝が鎌倉に幕府を開き政權武門に移りてより凡そ六百八十年、徳川家康が江戸に幕府を開きしより二百六十五年にして武家政治は茲に滅び、政治は正道に還れり。而して明治二年薩・長・土・肥、を始めとして各藩共版籍の奉還あり、明治四年廢藩置縣となり着々今日の聖代の基礎を確立せられたるものである。

徳川時代の國史國文の發達と尊王論の勃興 (尊王論の勃興参照)

十返舎一九 江戸時代の中頃の小説家。本名を重田貞一と

いひ、駿府に生れ、寛政年間江戸に出て、専ら滑稽小説を作つて名を揚げた。その作(膝栗毛)は名高い。天保二年歿年六七。

東學黨 明治二十七年朝鮮に起つた民間の宗教團體で基督教を排し儒教、佛教、道教の三教の説を合せた一種の宗教團によつて暴動を起し、我國と清國は共同にて之を鎮定したが、此の時の約束が原因となつて日清戦争が起るに至つたのである。

土佐日記 書名。紀貫之が書いた日記で、貫之が土佐守の任期を終へ、土佐國(今の高知縣)を出立して京都に歸るまでの海路の有様を假名書にしたもの。假名文では最古のもので、後世國文の模範といはれてゐる。

道中膝栗毛 江戸時代に十返舎一九が作つた滑稽小説。彌次郎兵衛・喜多八の兩人が、東海道を上り、伊勢參宮をしてから、京都を見物して大阪に入るまでの滑稽な出來事を綴つた道中記で、之を(東海道中膝栗毛)と題し、續いて(木曾街道中膝栗毛)その他を出したが、その中で(東海道中)が最も廣く讀まれてゐる。

東京奠都 明治天皇は、明治元年七月十七日江戸を東京と

改められ給ひ、同年十月東京宮城に行幸同年十二月一日京都に還幸あらせられ、翌二年三月再び東京宮城に行幸せられ、以後永く皇居の地と定め給ひしをいふ。

常磐御前 源義經の母で、初め近衛天皇の皇后に仕へ後源義朝の妻となつたが、平治の亂に義朝、敗れ殺されたので今若、乙若、牛若(義經)の三子と共に逃れて大和に隠生してゐたが、平清盛に捕へられたので母子の命を助ける爲め自から清盛に仕へた人で我が子の爲に心身を捨てた有名な女性である。

蜀山人 本名を太田覃といふ人。號を蜀山人・南畝・四方赤良・といつた。江戸の人で、有名な狂歌・狂文に秀で(世の中に蚊「斯」ほどうるさきものはなし、ぶんぶ「文武」といふて夜も寝られず)とて寛政の治をひにくつた有名な文である、文政七年、七十五歳で歿した。

トルストイ 世界的文豪の名。ロシアが生んだ最大の藝術家で、有名な(復活)(戦争と平和)その他多數の傑作がある。一八二八年ロシア伯爵家に生れ青年時代は軍隊生活をした人である。

トロッキ ロシア革命の元勳、レーニンと協力十月革命

の大事業を達成せしめ當時は外務及び軍務の首班となつてソ聯建國の基礎を築いた有名な人あつたが、レーニンの死後スターリンと意見合はず共産黨から除名追放され國外に亡命して居る人でソ聯陰謀事件の背後には常に此人が居ると言はれてゐる。

ナ之部

南畫 支那畫の一派で、南宗畫とも文人畫ともいふ。その畫風は氣高い趣を有し、墨繪で山水・蘭・竹等の自然物を多く畫がく。起原は(唐)時代で(宋)以後支那で盛に行はれ、我が國には江戸時代の中葉に傳はり、池大雅・與謝蕪村等の大家が出た。

生麥事件 文久二年(二五二二年)八月薩摩藩主島津久光が勅使大原重徳を護衛し江戸(東京)より京都に歸る途中、生麥(横濱市鶴見區)附近に於て英國人四人が騎馬のまゝ行列を横切つたので久光の従者は怒つてその一人を殺し二人に重傷を負はした事件。

名和長年 建武中興の忠臣、伯耆の人、元弘の亂の際、後醍醐天皇の隱岐を脱し給ふを迎へ奉り船上山に行宮を造り

賊軍を撃退しついで京都を回復した。其後尊氏の叛するに及び之と戦つて戦死した人。

二之部

日本國史は何を教へる 一言を以つて之を表現すれば萬邦無比の國家にして上古より列聖は仁政を布き給ひ國民を愛撫し給ふこと子の如く國民は陛下の赤子の一人として各々が祖國の爲には身命を抛つて忠君愛國の誠を至した。即ち我國は萬世一系の皇統を戴き天照大神の下し給へる天孫降臨の神勅の精神、神武天皇の御即位の際に下し給へる詔に於ける八紘一字の大精神は今日に至るまで炳として一貫し國民亦御聖旨を奉體しよく一致團結盡忠報國の精神に富み、國家は一大家族の如く君臣の關係は父子の如きを示せるもので、之等建國の大精神と國民祖先の忠節を如實に示すものにして之大精神を把握することこそ國史の眞髓で、この精神を把握體得するには或る程度の事實を知るの要あるは言ふまでもないところである。

日本歴史の年代表と顯著なる事柄 一、上古(神代—一三〇五年)開闢より蘇我氏の滅亡までをいふ此の間の主要事

項左の如し。

1 天孫高天原より日向の高千穂峯に降臨し給ふ。2 神武天皇大和地方を御平定橿原宮に即位の大禮を擧げ給ふ此の時を紀元元年とす。3 神功皇后(八六〇年)新羅を征伐し給ふ。4 聖德太子(一一二四年)憲法十七條を定め給ふ。5 中大兄皇子中臣鎌足と共に蘇我氏を滅ぼし給ふ。

二、中古(一三〇五年—一八四五)大化の改新より平家の滅亡までをいふ、此間の顯著なる事柄左の如し。

1 孝德天皇大化の改新(一三〇六年)を宣し給ふ。2 文武天皇(一三六年)大寶律令を制定し給ふ。3 奈良寛都(一三七〇年) 4 和氣清麻呂僧道鏡の非望を挫き大隅に流さる(一四二九年) 5 平安寛都(一四五四年) 6 前九年の役終る(一七二二年) 7 後三年の役終る(一七四七年) 8 保元の亂(一八一六年) 9 平治の亂(一八一九年) 10 屋島の戦で平家滅亡(一八四五年)

三、近古(一八四五—一二六三年)鎌倉幕府の始めより豊臣時代までをいふ此間の主なるもの左の如し。

1 源頼朝鎌倉幕府を開く(一八四五年) 2 承久の亂(一八八一年) 3 元寇(一九三四年) 文永の役。4 元寇(一九四

一年)弘安の役5 建武の中興(一九九四年) 6 足利尊氏幕府を開く(一九九八年) 7 應仁の亂起る(一一二七—一二三七年) 8 本能寺の變(一二四二年) 9 朝鮮征伐(一二五二年) 文祿の役(一二五七年)慶長の役10 關ヶ原の戦(一二六〇年)

四、近世(一二六三—二五二七年)江戸幕府の創立より滅亡までをいふ。

1 大阪夏の陣(一二七五年) 2 米國と和親條約を締結(安政元年、二五一四年) 3 米國其他の諸國と通商條約を締結(安政五年、二五一八年) 4 徳川慶喜大政を奉還(慶應三年二五二七年)

五、現代(二五二七—二五九八年)明治維新より現代までをいふ。

1 西南の役(明治十年、二五三七年) 2 憲法發布(明治十二年、二五四九年) 3 國會開設・教育勅語御下賜(明治二十三年、二五五〇年) 4 日清戦争(明治二十七年・八年) 5 日露戦争(明治三十七・八年) 6 韓併合(明治四十三年) 7 獨逸と宣戦(大正三年) 8 滿洲事變(昭和六年) 9 上海事變(昭和七年) 10 支那事變始まる(昭和十二年)

日本書記 元正天皇の御代(二三八〇年)勅を奉じて一品舍人親王と太安麻呂とに撰修せしめられ、養老四年に完成したる國史で、古事記に次いで古いもので、神代より持統天皇までのことが記されてある漢文を以つて書かれ、國史上重要な文獻として有名である。

日本府 朝鮮辨韓の一部たる大伽羅、新羅に侵されて我に援を求むるや、崇神天皇は之を鎮め(六〇四年)その地に日本府を置き給へり、次で垂仁天皇の朝、大伽羅に任那の國號を賜ひ、その後約百年間半島に於ける我が根據地たりしが、欽明天皇の御代(一二二二年)日本府は廢止せられた。

日本最初の年號 孝德天皇の元年六月十九日に(大化)といふ年等を御定になつたのが最初の年號で當時支那の文化が輸入せられてゐた時代で之に倣つたものと云はれてゐる。

日本神話 我が國の神話は、(古事記)(日本書紀)等の書物に多く見えてゐるが、其の特色は、第一は政治的色彩があり、つまり神話が政治上の必要からそれに依つて作りなされたやうな所がある。第二に現世的で明るみが多い。天岩戸の話や國引の話(新羅の岬を綱で出雲國に引寄せた

話等はこの例である。第三には無邪氣で滑稽味が多い(天
細女命)と(猿田彦命)との話(建御雷命)と(建御名方命)
とが力競をされた話(大國主命)が白兔を助けた話等はそ
の代表的例である、其中に眞理がある。

日本樂府 日本外史の著者頼山陽の著したもので、神武天
皇から豊臣秀吉に至るまでの史傳中六十六頂を選んで韻文
を作り、之に自ら注釋を施し、治亂を記したるもの。

日本外史 頼山陽の著はしたる國史にして文化九年(二四
七二年)に完成したるものにして十餘年に亙り研究編纂さ
れたるもので武門の横暴を憤り勤王の志氣を鼓舞し時の人
心に感動を與へ明治維新の尊王論に及したる影響大なるも
のがあつた。有名な書で現代にても之が研究は盛んである
日本歴史上の三大改新と其の概要 日本の三大改新とは大
化の改新・建武の中興及明治維新を指すもので左に其の大
要を記せん。

1 大化の改新、孝徳天皇の(一三〇五)大化年間に命によ
り、中大兄皇子、中臣鎌足等にて從來皇族・臣・國造・縣
主等の私有せし土地人民が次第に増加し種々の弊割を生じ
居たるを以て之を悉く朝廷に回收し之を公地公民とし、國

造・縣主を廢し新に國司郡司を設け、住民の人口を調べ戸
籍を作り班田收授の法を定め、人毎に口分田を與へ租、庸
調の三税をし課、中央政府の官制を改め八省・百官を置き
從來の世襲を廢し人材登用の途を拓き、地方要地には驛傳
・傳馬を設け、各地方關塞、防人等を警備に任せしめ、其
の他風俗を矯正し官位を定る等各般の改革を行ひ、從來の
政治、社會組織を改め氏族制度を廢止し中央集權の實績大
いにあがれるを云ふ。

2 建武の中興、後醍醐天皇の御世(一九九四年)幕府を廢
し朝廷に記録所を設けられ萬機を親から聽き給ひ、關白・
太政大臣を廢し雜訴決斷所を設けて訴訟を處理せしめられ
武者所を置き軍備を統轄し、諸國に國司・守護を置き地方
政治を整へ給へる等天皇政治の復古をいふ。

3 明治維新、慶應三年(二五二七年)慶喜大政を奉還し王
政復古となり天皇御親政に復し、翌年三月には明治天皇は
文武官を率ひさせられ紫宸殿に出御、明治維新の大方針た
る五箇條御誓文を天神地祇に誓はせられ、之を國民に御示
になり從來の制度を一新せられ、即ち版籍奉還・廢藩置縣
等、此の大方針により明治二年には階級制度の撤廢五年に

は學制の發布、六年には徴兵令の制定同八年には元老院・
地方官會議を開き、次いで十四年には二十三年を期して國
會を開くべき旨の告諭あり二十一年には天皇最高の諮詢府
たる樞密院を創設せられ、遂に二十二年二月十一日には欽
定憲法の發布を見、翌二十三年十一月第一回帝國議會の召
集せらるゝありて立憲政體の確立となり今日の聖代を見る
の基礎を開き給ふたのである。

白韓合併の由來 日清・日露の戰爭は東洋の友邦たりし韓
國を保護し以て東洋の平和を確保せん爲になされたもの
とも言ひ得る。而して日露戰爭の結果明治三十八年九月ポ
ーツマス條約の結成と共に韓國の保護條約締結となり、同
年十二月統監府を設置し韓國の統治・外交等に協力しつゝ
ありしも充分なる安寧を保持する能はず、更に其の統治制
度を改革するにあらざれば公共の秩序民衆の利益を増進す
る能はざりしかば、時の統監寺内正毅は命を奉じて韓國當
局者と協議併合方針を確立し、明治四十三年八月韓國皇帝
は一切の統治權を讓渡せられ茲に日韓併合を見るに至つた
ものである。

日英同盟の略記 日英同盟の成立原因は露國の滿洲南下所

謂東亞政策に對し極東平和・清韓の領土保全を企圖するに

意を同じくする日英が同盟を締結したのであつた。第一次
同盟は明治三十五年より五ヶ年で極東に於ける平和維持・
清韓の領土保全・極東の日英の特殊權益擁護・一時に二箇
國より侵略を受けたるときは同盟にて戦ふこと等。第二次
は明治三十八年より十ヶ年の期限で、東亞及び印度の平和
確保・清國の領土保全・機會均等の確保・東亞印度に於け
る特殊利益保護、以上を防護の爲には兩國共同戰線又は媾
和をなすこと、英國は韓國に於ける日本の優越權を承認す
ること等。第三次は明治四十四年又改訂せられ攻守同盟の
内容に制限を加へ從來よりは薄弱となつたが大正三年日獨
戰爭は此の同盟の結果により行はれたるものである。同盟
の廢棄は大正十一年ワシントン會議の際、日英米佛の四箇
國協約成立と同時に日英同盟は廢棄せられたのである。

日露戰役の原因結果 露國は久しく滿洲・朝鮮に野心を有
し其の機を伺ひ居りたる所、宛も明治三十三年に北清事變
勃發を好機として、名を東清鐵道(露國有)守備に藉り出
兵し滿洲を占領した、故に我が國は清國の領土保全と東洋
平和を念とする英國と防禦同盟を結び、露國に對し撤兵を

要求し之が撤兵を約し第一回は實行したるに明治三十六年四月に至つて俄に態度を改め、旅順の要塞築造・陸兵増強・海軍兵力の派遣等をなし、遂に朝鮮に手を伸さんとしその獨立を危くせんとするに及びたるを以て、我が國は平和裡に之等解決を圖んと露國に交渉を重ねたるも誠意を以つて之に應ぜず、益々軍備を充實し我をも威壓せんとすに至つた故に、明治三十七年二月六日國交を斷絶し同日宣戰布告となり日露大戦となつた。戦争は我が國の連戦連勝に終始し三十八年三月十日は奉天の會戰に勝を制し、同年五月二十七八兩日は日本海の大戦に敵海軍を全滅せしめた。茲に於て米國大統領ルーズベルトは同年六月九日兩國に平和勸告となり、之に應じ同年九月五日媾和條件として1韓國に於ける我が國の政治・軍事・經濟上の優越性を認める2旅順・大連及び附近の租借權を我に讓與する3長春(新京)以南の鐵道と其沿線の炭坑を讓渡すること4樺太の北緯五十度以南を割讓すること5沿海州に於ける漁業權を與へる事等を約して媾和條約の決定を見たのである。

ノ之部

野見宿彌 出雲の人、勇力を以て聞へたる人にして天皇その勇を賞され任へしめらる、垂仁天皇の御代(六五九年)殉死を禁じ給ふに及び埴輪を以て人馬に代へんことを建議し御嘉納あらせられた。菅原氏はその後裔であるといふ。
新田義貞 建武中興の忠臣、上野に義兵を擧げ頻りに北條氏の軍を破り遂に高時自殺し北條氏亡び中興の業成るや、播磨・越後・上野を賜つた。後ち足利尊氏叛するや勅命を奉じ北國に赴き越前金ヶ崎城・杣山城に據つて戦つたが遂に藤島に戦死した。今福井市にある藤島神社は義貞を祀つた所である。
野津道貫 幼年七次、鎮雄の弟なり。天保十二年十一月三日鹿兒島に生る。二十二歳にして洋式兵學者、松平氏の門に入る。鳥羽伏見の戰、奥羽征伐共に功あり、明治四年七月少佐に任ず。西南戰あるや、第二旅團參謀長となり出征す。其の後、官位共に進み日清日露の兩役に出征す。廿八年三月大將に陞る。殊に日露役に於ては第四軍司令官として偉勳あり。卅九年一月凱旋し元帥府に列せられ、元帥の稱號を受く。侯爵を賜ひ、大勳位菊花章を授けられ、正二位に叙せらる。

四十一年十月十八日、年六十八歳を以て卒す。

ハ之部

蛤御門の戰 江戸幕府の末頃、長州藩は最も激しい攘夷論者であつたが、その後朝議が一變して、攘夷の議が取止めとなり、その結果、朝廷警護の役を免ぜられ、藩士の在京を禁ぜられた。よつて家老福原元們等は、藩主及び七卿の爲に無實の罪を訴へようとし、元治元年(二五二四年)兵を率ゐて京都に入り、宮門に迫つたが敗れた。

班田收授の法 大化の改新の際設けられたる制度で、即ち天下の公民(男女)に口分田として一定の土地を班(ワカ)ち與へる(班田)一度授けた土地は一定の年限に達すれば之を朝廷に收めしめ、生死を調査し再び授ける(收授)法。大寶令によれば班田は六歳以上の男には二段、女にはその三分の二を授けることとなつてゐる。

八幡船(倭寇)が乗つてゐた船をいふ。その船には普通(八幡大菩薩)と大書した旗が立つてゐたので、明人が之を八幡船と稱したといはれる。

廢藩置縣 明治二年の版籍奉還により全國の土地人民は悉

く朝廷に歸したるも舊藩主が知藩事として舊領地の行政に當る以上、依然として封建的色彩強く、中央政府の威令からず障害を來す等あり、且つ全國は府・縣・藩に分れその行政區劃等も大小廣狹複雑を極め、行政上種々なる困難ありし爲め明治四年七月全國の知藩事を東京に召集し廢藩置縣の旨を諭し罷免し、同年十一月全國を三府七十二縣に區劃し、新たに府知事・縣令(後に知事)を任命し之を統治せしめた。是に於て府縣制の確立を見中央集權制の軌道に乗つたと言ひ得る、尙ほ縣の廢合は其の後屢々行はれ明治二十二年三府四十三縣となりてより今日に至りたるものとす。

隼人 熊襲の後名と稱せられ、日向・大隅・薩摩等の諸地方に跋扈してゐたといはれ、允恭天皇の御代(一〇七五年頃)この隼人を征伐せられたことあり、其の後は融和されたものであるが、その勇悍な氣風は尙ほ存し後代に傳へられ現在にても(薩摩隼人)等稱られて勇悍さを稱されてゐる。

橋本左内 越前國福井の藩士、醫術を學び、蘭學を修めた人で、後ち主命により江戸に出で一橋慶喜を將軍に推さん

と奔走し、安政五年(安政の大獄)に際し捕へられ、江戸小塚原で斬られた。時二十六歳。

林子平 寛政の三奇人の一人で名を友直といひ、仙臺藩の人で海防の研究なし、長崎に行きオランダ人から海外の事情等を聞き益々海防の必要を感じ(三國通覽)(海國兵談)を著し海防の急務を説いた、又蝦夷の地がロシア人に侵されるを警告する等なしたるも幕府は妄に人心を惑すものとして書を焼棄て、子平を禁錮に處したこともあつた。

ハリス 江戸時代の米國の外交官で、初め東洋貿易に従事し東洋の事情に明かなりしを以て安政三年(二五二三年)米國總領事として伊豆の下田に來り、次で江戸に入つて將軍徳川家定に謁し、國書を呈して世界の大勢を説き、鎖國政策の非を論し通商を求めた。そこで幕府は通商條案を作り勅許を仰いだ但未だ御許のない中に安政五年大老井伊直弼は條約に調印した之(安政の假條約)とす。

ヒ之部

稗田阿禮 (ヒエダノアレ) 語記力に名高い人で、古來の傳聞・古事を語記してゐた故に推古天皇の御代聖德太子が撰

修せられた國史は蘇我氏滅亡と共に焼失せるを天武天皇阿禮に命じ彼の記憶する古事・傳聞を口誦せしめ以て國史の編纂に着手せられ天明天皇また太安麻呂に命じて阿禮と共に之を記録せしめられた。之が即ち古事記である。

平田篤胤 秋田の生れにて幼にして江戸に出て苦學を以て國學を研究し平田篤穩の養子となつた。特に宣長の著書を見るに及んで宣長に私淑し盛んに古道を唱道し其著古史成文等數部を光格天皇仁孝天皇に奉つて觀感にあづかつた。後佐竹候に招かれ藩政に參畫した。天保十三年六十八歳で歿した。

ビクトリヤ女帝 凡そ百年前頃のイギリスの女王。即位後インド皇帝をも兼ね、聰明で、よく名臣を用ひ、在位六四年の間にイギリスの立憲政治を確立し、ヨーロッパ列強の間に國威を輝かしイギリス近代の名君と讃へられた。西曆一九〇一年崩御、年八三。

フ之部

武士道の起源 我が國民は古來より傳統的に歴史的に忠孝君臣の義・敬神等の精神は固有せることは勿論であるが、

安徳天皇の御代(一八四〇年)源頼朝鎌倉に侍所を開くに及びて、過去の興亡に鑑み、簡易にして力ある政治を行はんとし常に文弱を戒め武藝を特に奨勵し、質實剛健なる武士氣象の涵養及び振興に努め其の後も鎌倉幕府はこの方針を承け政治を行ひ、力を極めて士風の振作に努力した、こゝに於て當時の武士は平素修養に力め武藝を鍊磨し一朝有事の際に本領の發揮を心掛けた。即ち武士の遊技は、笠懸・流鏑馬・犬追物等流行し衣食住は質素をこゝとし、一方當時勃興せる禪宗により精神的修養に重を置き爲に精神も鍊磨され所謂(鎌倉武士)として典型的武士を生ずるに至つた。當時の武士は嚴正なる主従關係を重んじ絶對服従を念とし而して主従は義により結ばれ主の爲には身を捧げて盡すといふ(忠義)が重ぜられ、大義名分が貴ばれ、即ち君臣の大義に基く行動が武士道の本義である所以を強調し之を武士の本分となし、我が國民固有の忠義の精神を一層發揮したるを起源と見るべきであらう。されば頼朝の子實朝はこの精神を(山はさけ海はあせなん世なりとも君に二心我あらめやも)と詠し忠勇義烈を高揚したり。

武士發生の原因 桓武天皇平安尊都(一四四四年)以來久

しく天下泰平にして朝臣いつしか奢侈遊惰に流れ公務を怠り一方地方政治は次第に紊亂し、各地の豪族は莊園を守り之を擴張する爲め實力を養ふ必要上家の子・家人・郎黨と稱し私兵を養ひ、常に武を練り自衛を講じた。斯くて大賣令兵制は廢れ、兵農は分離され、専ら兵士とし訓練し戰場に出で働く職業たる武士階級の出現を見るに至つた。即ち領主は其の勢力を強化する爲め益々多くの武士を養ふと共に土地を益々併合する等、其の主たる原因を列擧すれば1 中央政權の威信を失ひ大賣令兵制の廢れたること2 政令行はれざる爲め地方政治紊亂したること3 莊園の支配者として武士の必要即ち自衛權の確立上4 藤原氏の專横により多くの名門地方に分散したること5 藤原氏勢力保持の爲め武士を利用したること等を擧げ得る。

佛教傳來と其の影響 1 佛教の傳來は印度の釋迦牟尼の創めた佛教で漢代に支那に傳はり、次いで東晋の頃朝鮮に入り、而して我が國に傳來したるものにして、即ち繼體天皇御代(一一八二)支那人司馬達佛像を携へ來たが信奉するものなかりし次いで欽明天皇の十三年(一一二二年)百濟より佛像經文を獻し之が信奉を勵めた故天皇は之の可否を

群臣に御諮問あらせられたる所蘇我氏は拜佛を唱へ、物部中臣氏等は排佛を主張せるを以つて、天皇は佛像其の他を蘇我氏に賜ひ試にこれを禮拜せしめられた所、宛かも當時疫病流行した故物部氏等は神の怒なりとし、寺を焼き佛像を難波の堀に投じた等ありて、爾來排佛派と拜佛派との對立なり相争相續きたる所用明天皇の御代(一二四七)物部氏等亡び、遂に信佛派の勝利となり、尙推古天皇の御代(一二五二)聖德太子が深く佛教を尊信せられ之が保護せられたるを以つて非常に隆盛となつた。

2 佛教の影響は政治的には物部、蘇我兩氏の衝突を惹起し、寺塔の建築・彫刻・繪畫等美術が進歩した。佛教の興隆と共に支那の文物制度が輸入せられ大化の改新を見るに至つた。漢文學が盛かんとり文學上の進歩を見た。佛教の因果應報説により思想方面に國民性を緩和する等の影響を及ぼした。

佛教の民衆化 平安時代に盛んなりし天台・眞言の二宗は教義高遠にして、當時尙ほ教養低き武士民衆の俗耳には入り難く、且つ僧徒の横暴は上下の信仰を害し一般士民は新宗教の出現を仰望し居りたる所平安朝末期より鎌倉時代に

亘り民衆佛教の興隆を見るに至つた。即ち平安末期(淨土宗)高倉天皇の御代(一八三五年)僧源空(法然上人)によつて唱へられ平易に之を説けり。(淨土眞宗)鎌倉時代、後堀河天皇の御代(一八八四年)法然の弟子範宴(親鸞上人)の唱へしもので、眞宗又は一向宗ともいひ淨土宗より更に一步を進め肉食帶妻をも許したれば廣く上下の信仰を得たり。(日蓮宗)御深草天皇の御代(一九一三年)僧日蓮が創立せるものにして佛教の改革を高唱し他宗を攻撃し二度も流された。(禪宗)後鳥羽天皇の御代(一八五一年)僧榮西は臨濟宗を傳へ、後堀河天皇の御代(一八八七年)僧道元は曹洞宗を傳へ何れも武家の間に尊信を得たり。斯の如くして鎌倉時代を中心として佛教は大衆化したのが最初である。

富士の巻狩 其の初めは源頼朝が建久四年(一八五三年)の夏に富士の裾野に多勢の武士を集めて行つた、この狩は頼朝が天下の武士の統領として征夷大將軍に任ぜられた翌年で、兵馬の訓練と武士道獎勵の爲に行つたもので、今の大演習に當るものといふべきである。

風土記 元明天皇の御代に、諸國に命じてその國の地勢・

風土、地名の起り、産物・傳説等を記して朝廷に差出さしめた一種の地理書。今傳はつてゐるのは、出雲・播磨・豊後・肥前・常陸の五國の風土記だけである。

封建制度の由來 封建制度とは郡縣制度に對立する社會組織にして上下を一貫せる主従關係と封土を根幹とする制度である。即ち保元・平治の亂(一八一六・一八一九年)を経て武士たる平氏が天下の實權を握り次いで源頼朝鎌倉に幕府を開き(一一八四〇年)國毎に守護・地頭を設けた之等が漸次勢力を増大し室町時代には其の土地を支配し私領の如く人民に對しても專斷にて租稅勞役を強制する等私有の如するに至り次いで戰國・實力時代となり中央政權威信を失ひ群雄割據し全く地方分權となり之を織田・豊臣は組織化し徳川に至つて確立を見たのである。即ち徳川氏自ら一大領主にて且つ將軍として諸大小名を支配し、天領・親藩・譜代・外様の大小親疎を交錯牽制せしめ、鎖國によつて外的刺戟を除き、全國の諸侯を臣従せしむると共に諸侯はその土地人民を占有しその臣下も亦この關係に立ち、上下一貫主従關係と封土關係を根幹とする武士中心封建社會制度を確立したのである。

踏繪 徳川時代に基督教を禁じ信者絶滅を期する爲めに、信者なるや否やを區別するに、キリストの像を踏しめたるものを謂ふ。基督信者に對して轉宗を命じたるも密かに之を奉ずる者ありて、寛永六年に初めて踏繪を行つたものである。最初は、紙に畫き後には繪板・銅板等にして永く用ひた、像はキリストの十字架に懸けられたるものゝ外、數種あつた。

藤原鎌足 初め中臣鎌足と稱し中大兄皇子を輔けて蘇我氏を亡ぼし、孝徳天皇の御時内臣に任ぜられ、皇太子中大兄皇子を輔け大化改新の大業を興し、夫智天皇の御代には近江令の制定に參與する等功勞大なるものあり藤原姓を賜ふ。大和多武峯談山神社に祀らる。

藤原不比等 (フヒト) 鎌足の子、文武天皇の御時大寶律令を撰定し、次いで、元正天皇の御時更に之を修正し養老律令を作つた。その功により大政大臣正一位を賜り、その女子は聖武天皇の皇后に立せられた。尙男子は夫々重く用ひられ一門大いに榮へるに至つた。

藤原藤房 建武中興の忠臣、後醍醐天皇を奉じて笠置に行幸し、後ち常陸に流されたが、元弘の亂平ぐや京都に還り

建武中興の議に與つて力があつた忠臣。
藤田東湖 文化三年水戸藩に生る。名を彪、通稱誠之進、東湖は號である。天保元年郡奉行となり、後諸職を経て將軍齊昭に愛され機密に參與し、弘道館を建て、兵器・軍艦を造り文武を兼備したり。米艦浦賀に來りたる時は尊王攘夷を高唱天下の耳目を引き、諸藩の俊才集り來り、國事を論じ教を請ふもの多かりき。安政二年十月二日の江戸大震災に遭ひ没す、時五十歳。明治二十三年正三位を贈らる。
フーヴァー 北米合衆國の政治家で前大統領をなした人である。

へ之部

ヘーゲル ドイツの哲學者。其の特徴をなすものは其辯證法である。哲學とは自然及び全經驗界をば如實に知り、そこに存在する理性を會得するにある。事物は總て意義を有つて居り、其の過程は合理的である。實在は其根柢に於て合理的であつて、思惟の必然的過程即ち論理的過程であるから、専ら思惟に依つてのみ知ることが出来る。故に哲學の機能は理性の作用する法則、即ち必然の形式を理解する

にあるのだ、故に、論理學と形而上學とは同一である。だが社會は靜的のものではなくて動的である。思惟即ち理性も其通りであつて、眞の概念は動的過程であり、進化の過程である。其れは最初無差別平等にして抽象的であつたものが、次第に進化發達して異類、差別反對、矛盾の形式を取り、竟に具體的の簡體化したものとなるのであると主張する。

ホ之部

方丈記 鎌倉時代の初に（鴨長明）の著した書。長明が出家して京都附近の大原山に籠つてゐた頃書いたもので、世の無常を悲しみ、又は人の命のもろさを歎いた等のやうな事柄に満ちたもので、源平時代の大戦亂のあつたその頃の思想を現してゐるものとして有名である。
北畫 支那畫の一派で、北宗畫ともいふ。線が太くて筆使に勢があり、且壯重な感じの表れてゐるのが特徴である。唐時代に始り、我が國には東山時代雪舟が宋から之を傳へたのに始まる。

戊申詔書 明治天皇が明治四十年十月十三日國民に賜りた

る詔勅にして、當時我國は日露戦勝後にして諸産業興隆著しく爲に物質文明を促進し一方奢侈輕佻の風潮甚だしきものありしを以つて大帝には之を戒め勤儉貯蓄の美風を説き給ひ人民に諭し給ひしものにて、恰も戊申の年に當るを以つてかく申上ぐるなり。

ポーツマス條約 明治三十七八年戦役の結果、日本とロシアとの間に結ばれた條約。明治三十八年六月、日露兩國は米國大統領ルーズベルトの勸に従ひ、我が國から小村壽太郎、高平小五郎を、ロシアはウイッテ・ローゼンを各全權として英國のポーツマスに遣はして媾和會議を開き、同年九月九日になつて媾和條約が成立したをいふ。

北條泰時 後堀河天皇の元仁元年（一八八四年）執權職を襲いだ、義時の子で、建設的才能を有し政治施設に於ても政府に評定衆を置き會議制となし、武家法制たる有名なる五十一箇條なる所謂貞永式目を定める等大いに善政を施し當代に於ける勝れたる政治家として今日に尙其の名をたゞへられてゐる。

北條時頼 北條泰時の孫にして、執權（一九〇六年）となるや、後嵯峨天皇の皇子宗尊親王を將軍に（親王將軍の始

なりとす）迎へ奉り、又心を民政に注ぎ自ら質素儉約を實行し又尙武を奨励し、執權をやめ最明寺に入りて後、諸國を行脚して民情を視察し困窮者を救ふ等善政を爲したる人である。

マ之部

萬葉集 歌集の名。我が國で最も古い歌集で仁徳天皇の頃から奈良時代の末頃までの歌凡そ四千五百首を集めたものである。長歌もあるが、短歌が大部分で、すべて（萬葉假名）で書かれてあつて古代人の心持が力強く現れて居て、古文學として有名である。

間宮林藏 常陸の人、名を倫宗といひ、數理に長じ天文・地理を究め文化二年（二四六五年）松平忠明に仕へ同五年忠明幕府の命を受け樺太探險の爲め林藏と松田傳十郎とを遣したが後には單身にて土人を雇ひ樺太北端近くまで探險し樺太が離れ島であることを確めた故に間宮海峡の名が之にある。更にシベリヤに渡り日本人としては初めて黒龍江下流地方を探險して歸つたものである。弘化二年に歿した。

ミ之部

水戸學 江戸時代に水戸藩に起つた學派を謂ふ。徳川光圀（水戸光圀と通稱）の尊王愛國の精神を基礎の下に儒學を横とし、之に神道や國史を併せ、我が國體の尊嚴を強調した特色を持つもので江戸幕末には尊王攘夷の精神を鼓吹する等多の志士を出した、其内でも有名なのは、藤田東湖・安積澹泊・青山拙齋等の學者を出して居り、今日にても之の學派の研究が多數ある。

ム之部

室町幕府 足利幕府ともいひ、京都の室町に幕府があつたので斯くいふ、その組織は略鎌倉幕府に倣つたもので、後に所謂（三管領）（四職）等が出来て、將軍を輔け政治・軍務を掌つた。この外に評定衆があり、地方には九州探題・奥羽探題等を設置したが之末期には暴政多く爲に戰國時代を生み所謂下剋上時代を現出した。

メ之部

の由來参照

明治大正昭和各時代の日支關係 一明治時代―明治四年兩國間に交通・通商條約締結せられた。明治七年には先きに明治四年琉球人が臺灣にて殺害せられたるを以て之を征伐し償金を取る。明治十七年には天津條約即ち兩國は韓國より撤兵すること・將來出兵の必要あるときは互に通知すべきことを約す。明治二十七年には朝鮮に起りたる東學黨に原因日清戰爭となり翌年八年下關條約にて講和。明治三十三年には義和團起り北清事變となる。明治三十七・八年は清國領土滿洲保全の爲め露國と戦ひ露軍を滿洲より驅逐する。

一大正時代―大正三年世界戰爭起るや帝國は獨逸の租借地を占領之を支那に還付すると共に關東州租借權を延長、滿蒙及山東省に於ける我が特殊權益を認む
一、昭和時代―滿洲事變昭和六年九月十六日支那正規兵の抑條溝の滿鐵線の爆破に端を發し全滿より支那軍驅逐。上海事變昭和七年上海に邦人五人殺傷され又陸戰隊が正規兵の攻撃を受けるに及び我軍は立つて上海より支那軍を驅逐。支那事變昭和十二年七月支那軍蘆溝橋に於て不法射撃に端

明治維新の由來 明治維新は（日本歴史上の三大改新と其の概要参照）今日の聖代をなす基礎をなすもので其の由來するところは、封權制度に對する弊害、學問の復興により國史・國學の研究より我が國體を認識するや尊王論となり海外との交通等諸狀勢は政治・社會組織の變革を必至とする事に反し幕府は内憂外患に對し全く實力を失ひ、之に反し益々尊王論は擡頭し王政復古を必至ならしむに至つたものである。

明治維新の大方針と政治 明治天皇は明治元年三月文武官を率ひて紫宸殿に出御明治維新の大綱たる五箇條御誓文を天神地祇に誓はせられ、之を國民に御示しになつて日本の進むべき道を明かにせられ、これによつて明治二年には階級制度撤廢、五年には學制の發布六年には徴兵令の御制定、同二十一年には樞密院の御創設二十二年には欽定憲法、議院法・貴族院令・衆議院議員選舉法等の御發布あり翌二十三年には第一回の帝國議會が召集される等着々五箇條の御誓文の大方針に基き政治機構を整備せられ立憲政體の確立を見、今日の聖代への基礎を定められたるものである。

明治維新の概要（日本歴史上の三大改新と概要及明治維新

を發し現在の事變に至る。

モ之部

桃山時代 豊臣秀吉が天下を治めてゐた時代即ち天正十年（二二四三年）六月（本能寺の變）の後より慶長五年（關原の戰）までの約二十年間にして、この時代には秀吉の氣象の豪壯なるものが建築、藝術の上に表れ、伏見城、大阪城、聚樂第等の建築、狩野永徳・同山樂等の畫家左甚五郎の刻等又茶の湯が盛に行はれた。

本居宣長 伊勢松坂の生れで、徳川家治、家齊の頃に出でたる有名なる國學者で、初め醫を業とし傍ら國學の研究に志し賀茂眞淵の門に入り遂に國學を大成せる偉人である、古史古典に通じ常に儒佛學者の本末顛倒を慨き、敬神尊王の大義を説けり、古事記傳、玉勝間等の著書あり、享和元年七十二歳で歿した。宣長の門よりは多の尊王家を出して居る。左に名高き和歌あり。
さしいづるこの日の本のひかりより高麗もろこしも春をしるらん
敷島の和心を人とはば朝日に匂ふ山櫻花

毛澤東 支那共産黨、共産軍の最高首領。
モロトフ リトヴィノフ氏に代りソ聯外務人民委員(外相)となつた人、現に人民委員會議長(他國の首相に當る)の要職にあり、獨裁者スターリンの片腕と稱されてゐる、一九三九年四十九歳にして生え抜の共産黨員である。モロトフの外相により從來のソ聯の對外政策に當然轉換を來たす事も豫想される即ち最近に於ける獨ソの條約等も其の現れの一と云べきであらう。

ヤ之部

日本武尊 景行天皇の皇子小碓尊である。君命を奉じて九州に下つて熊襲を征し給ふ(七五七年)て歸來再び東國平定の命を受けさせられ遠く蝦夷を討ち歸路伊勢に薨じ給ふた。(七七三年)蝦夷征伐に當つては有名な野火の難に遭はせられたが、神劍の加護により却て賊を平定あらせられ斯くして日本全土の統一に御盡しあらせられたことは有名なるところである。

山鹿素行 初め林羅山の門に入りて儒學を修め、博識を以て著はる。赤穂城主淺野長直に仕へ寵遇を受く、後に江戸

に歸り兵學を教へ世に山鹿流と稱せらるるに至つた。彼の赤穂義士を始め幕末の志士中には素行の感化を受けし者頗る多し。
山岡鐵太郎 江戸幕府の臣で、鐵舟と號し、劍道の達人で明治元年、朝廷が討幕の軍を起した時、幕府の命によつて駿府に馳せつけ、官軍の參謀西郷隆盛に會ひ、慶喜の謹慎の有様を述べ江戸攻撃の中止を願つて中止せしめた。後、侍従となり明治二十年子爵を賜り翌年歿した。年五十三歳
山田長政 駿河の生れ、通稱仁左衛門武道に長じ、暹羅(現在の泰國)に渡り武勇を發揮し國王に重く用られ王女娶り王の死後を託されしが、奸臣の爲め毒殺された。

ヨ之部

陽明學 支那の昔明の大儒王守仁(陽明)が、陸九淵の説に據つて創設せるものにして程朱の學(朱子學、宋學ともいふ)の註疏空理を難じ、良知良能・知行合一を説きたる學にして我が國に於ては中江藤樹、熊澤蕃山等はこの流を受けたるものとす。而して徳川時代には朱子學を以つて官學としてたるを以つて一時禁壓せられたることがあつた。

楊貴妃 支那の唐時代の玄宗皇帝の妃。非常な美人で、玄宗の寵愛を受けたが、後國が亂れて玄宗が都落をした時、將士の爲にその兄と共に殺された。故に美人の形容詞に用ひらる。

ラ之部

頼山陽 安藝の人、名は襄、史論、文章、漢詩を以て著名なり、日本外史、日本政記等の著書あり、尊王の志厚く大いに人心を動かしたる徳川時代の尊王家として有名なり。

リ之部

立正安國論 僧、日蓮が、北條時頼に獻じた書名で、天災がつゞき、國難が起るの、悪い宗教がはびこる爲であるとして日蓮宗以外の宗旨の弊害を説き併せて世を治むる道を説いたものをいふ。

林森 (國民政府主席)福建省閩侯縣の人一八六二年生。前清時代永くアメリカにあつて孫文の革命運動を援けてゐた。一九三一年廣東政府が南京に合流するや國民政府の主席に擧げられ、一九三五年再選された。蒋介石政府の表面

的代表者である。

リーブクネヒト ドイツの共産主義者。一八七一年ライプチヒに生る。年若くして運動に身を投ず。一九〇六年「軍國主義と反軍國主義」なる著書のため十八ヶ月の禁錮に處せらる。一五年軍隊に入れられたが、一六年のメーデーに反戦演説をして四ヶ年の禁錮に處せらる。革命的情勢の切迫と共に一八年釋放されて後は、ルクセンブルグと共に革命運動を指導、一八年暮より一九年初頭に於ける革命に際し、社會民主黨の軍隊のために撲殺(一月十五日)さるカールリーブクネヒトの生涯は正に反軍國主義の里程標ともいふべきであらう。

レ之部

梁鴻志 (維新政府行政院長兼交通部長)福建省長樂の人、一八八二年生。前清京師大學堂卒業。北京政府法政局參事京師衛戍司令部秘書長、肅政吏などを經て一九一八年參議院議員兼秘書長に任ぜられ、一九二〇年安福派失脚後日本公使館に遁れた。一九二四年東方文化事業總委員會委員にあげられた。一九二七年安國軍政治討論會員となつたこと

がある。
レゼツプス フランスの人。外交家であつたが、(スエズ運河)の開鑿を志し、西暦一八六〇年その工事に着手し、あらゆる困難と戦つて、一八六九年遂に之を開通させることが出来た。ポートサイドの埠頭には、彼の銅像が永くその偉勳を物語つてゐる。

ロ之部

老中 徳川將軍に直屬して、政務を總轄せし職名である。以前は年寄奉行、老衆等と呼ばれたもの、定員は四名にて月番を以て執務することになつてゐた。譜代大名中二萬五千石以上の城主を以て充てた。重要事項は合議制をとつてゐた。

六波羅探題 承久の亂(一八八一年)後北條泰時、同時房は京都に止り、泰時は北六波羅第に時房は南六波羅第に在りて京都を警備すると共に近畿西國の政治を行つた之六波羅探題の始にして、表面は内裏警備にあるも、内面は朝廷の動靜を探り將來に備へるにあつた、其後北條氏の一族が之に任した。

我國建國以來の外征の概略 一、三韓征伐神功皇后は熊襲の叛の背後に新羅あるを知り給ひ(八六〇年)武内宿禰と謀り親から大擧し新羅を征し次で百濟高麗も服し毎年朝貢を奉ることになつた。

二、朝鮮征伐豊臣秀吉は夙に外征を志し、明を討たんとし先づ朝鮮を文祿元年(二二五二年)及慶長(二二五七年)の二回に互り之を討ち大に國威を發揚せり。

三、日清戦役明治二十七年朝鮮の東學黨の亂に端を發し清國の不信行爲に對し同年八月戰爭となり之をして屈服せしめ下關條約(馬關條約)となり臺灣・遼東半島を得て東洋に於ける我國の地位を確立せり。

四、北清事變 明治三十三年支那の義和團なる排外暴徒起り之に官兵も加はり列國の公館を包圍せしを以つて列國聯合軍の中堅となり之等暴徒を鎮壓し大いに武名を現はす。

五、日露戰爭 明治三十七年二月、露國は北清事變を好機とし大兵を滿洲に送り徵兵せず更に韓國をも危くせんとするに及び宣戰となり我軍の大捷を得ポーツマス條約により

ワ之部

樺太南半其の他利權を獲世界有数の國家に列するに至つた
六、世界大戰 日英同盟及東洋平和維持の爲め大正三年八月獨逸と宣戰し巴里講和會議の結果世界三大國の一となるに至つた。
七、滿洲事變 昭和六年九月支那の排日侮日の不法行爲の益々盛となると共に滿蒙權益擁護の爲め自衛權を行使し滿洲より支那軍を一掃し滿洲國の獨立を見るに至つた。
八、上海事變 滿洲事變以來益々排日侮日は悪化し昭和七年一月上海の我が陸戦隊を猛撃したるを以つて水陸空より之を撃破せり。

九、支那事變 昭和十二年七月支那軍の不法射撃により蘆溝橋に端を發し我が方の不擴大方針にもかゝらず蔣政權は國共合作、海外依存主義をとり我に抗せしを以つて今日の大戦となれり。

我が國體の萬邦無比なる所以 天照大神の御神勅により萬世一系の皇統は連綿として絶えることなく、古來より、國民は何れも、天皇の赤子として義は君臣の分が定つてゐるが情は父子で全國民は、さながら皇室を中心として一大家族の如にして、全く諸外國とは趣を異にしてゐる、されば

時代の進運に伴ひ政治上の種々なる變革が行はれたりと雖諸外國の如く帝王に對する不満、或は王朝を亡さんとするが如きことにあらず、常に天皇、皇室を中心とて、皇室に對す忠誠の念に基くものである、例へば大化の改新、建武中興、明治維新の如き皆な如からざるはない、而して外國に於ては政治上の改革は多く流血の慘事を伴なつてゐるが古來我が國では一度大詔が渙發されると之を畏んで奉じ平和裡に改革が行はれ、總べて皇室を中心として舉國一致國運の隆盛を來してゐる斯の如き國體は我が日本を於て外國に求めることの出来ない國體である、故に萬邦無比と云ふ所以なりとす。

倭寇 吉野朝頃より足利時代に互りて我國の邊民相黨してしばしば支那朝鮮の沿海を掠めたり、彼の國人これを倭寇と呼ぶ。

我が國の條約改正 江戸幕府が歐米諸國と結んだ通商條約は不備、不公平且つ不利益なる點多を以て之が改正を圖からんとし明治四年頃より各外相は努力したるも效なく二十七年陸奥宗光外相のとき英國と商議とみの改正調印されたのが初にて、其後日ならずして日清戰爭となり之に大

勝したるを以つて漸く我が實力を世界が認め明治三十年に至り列國共悉く改正調印するに至り尙關稅權の一部は明治四十四年改正せられ歐米各國と對等の地位を占むるに至つたものである。

我が國の海外移民の今昔 明治時代最初の移民はハワイの甘蔗栽培園にして百十三名なり、爾來逐年増加し、次いで北米更にブラジルと南北米に發展しつゝありしも明治末期より北米より排斥を受け、更に昭和九年にはブラジルよりも制限を受ける等次第に其の進出を阻止せらるに至り今日に於ては滿洲國北支及南洋方面に自由の天地を有するのみとなれり。而して現在の移民總數は約九十萬人に及び其の地域は滿洲・支那・南洋及び南北アメリカ等なりとす。

王仁 元、百濟人で、應神天皇の御代（九四五年）阿直岐の推薦で來朝、論語十卷、千字文一卷を天皇に献上、且つ皇太子稚郎子殿下に學問を教へ奉つた、我國に文字が傳はつたのは之が始めであるといはれる、後ち我國に歸化し、その子孫は代々朝廷へ仕へ記録のことを掌つたといふ。

和氣清麻呂 備前の人にて、四十八代稱徳天皇の御代、僧道鏡は厚き御親任により政を恣にし、遂には皇位を覬覦せ

んとするに至つた、依つて天皇は清麿を宇佐八幡に遣はせられ神託を受けしめられたが（我が國は開闢以來君臣の分定まれり、天日嗣は必ず皇儲を立てよ、無道の者は速に除くべしと）との神託を奏上した。（一四二九年）斯くて我が國體は安き得たのであるが、道鏡の怒を買つて、大隅に流れたが、四十九代光仁天皇の御代（一四三〇年）召されて官に復し桓武天皇にも奉仕した忠臣である。今は京都の護國神社に祀られてゐる。

王兆銘 字は精衛、廣東省番禺縣の人、一八八五年生。日本法政大學を卒業した。我が國に留學中孫文の門に入つて中國同盟會員となり、はじめて革命運動に携つた。一九一一年清朝の攝政王載灃の暗殺をはかつて失敗し、捕へられ死刑の宣告を受けたが、肅親王にその才を惜まれ死一等を減ぜられ命拾ひをしたことがある。第一革命後釋放され一九三〇年閩錫山、馮玉祥等と結んで北京に國民政府を樹立したが瓦解したので一九三一年香港に去つた。後蔣介石との妥協が成つて南京に入り、一九三二年行政院長に就任したが、刺客のため重傷し次で下野しドイツに學び、一九三七年一月歸國し、一九三八年四月國民黨副總裁になつた

が國共合作に反對し支那事變以來親日派として壓迫を受つゝあつたが昭和十四年重慶を脱出し近衛聲明に應じ日支提携防共を高唱し新支那建設に奔走近く其の成立を見るべく其の暁は新支那政權の首班となる人物である。

王克敏（中華民國臨時政府行政委員會委員長）浙江省杭縣の人、一八七三年。前清光緒年間留日學生監督となり、公使館書記官に轉じ、一九一三年官を辭してフランスに遊び歸國後中佛實業銀行重役、中國銀行總裁となり、一九二三年張紹曾内閣の財政部長となり、孫寶琦、顧維鈞、顏惠慶の各内閣に在任したが、後銀行界に關係し張學良の下に北平財政整理委員會副委員長となり次で冀察政務委員となり臨時政府の成立と同時に今日の位置に就いた。

歴史常識終

處世訓

幼學綱要

孝行第一 天地の間、父母なきの人無し。其の初め胎を受けて生誕するより、成長の後に至り、其の恩愛教養の深き、父母に若く者莫し。よく其の恩を思ひ、其の身を慎み其の力を竭して、以て之に事へ、其の愛敬を盡すは子たるの道なり。故に孝行を以て人倫の最大義とす。

忠節第二 宇内萬國、國體各々異なりと雖も、主宰あらざるの民なし。凡そ人民たるもの、其の君を敬し、其の國を愛し、其の職を勤め、其の分を盡し、以て其の恩義に報ずるを以て常道とす。況や、萬世一系の君を戴き、千古不易の臣民たるものに於てや。故に、臣の忠節を子の孝行に竝べて、人倫の最大義とす。

和順第三 人に男女あり。故に必ず夫婦あり。夫婦あり。然る後父子あり。兄弟あり。以て一家を成す。

立志第七 凡そ人、徳を崇くし、業を建てんと欲せば、當に先づ其の志を立つべし。志を立つること、堅固にして變ぜず、強めて息まざれば、期する所遠大と雖も、暢達せざる者鮮し。若し其の志浮泛にして、徒らに成る有らむことを求むるは、猶播種せずして、收穫を望むが如し。豈得べきの理あらんや。故に志を立つるは徳を崇くし業を建つるの大本なり。

誠實第八 誠實は人心の本根、百行皆茲より出づ。苟も偽詐虚妄に涉るときは、才智ありと雖も、恃むに足らず。故に一言一行、内に省みて疚しからず。而して後、身を保ち事を濟すべし。此れ誠實の須臾も離る可からざる所以なり。

仁慈第九 天地は生物を以て心とす。人其の理を受けて生る。故に亦天地の心を以て心とす。所謂人に忍びざるの心是なり。此の心を擴充して事物に及ぼすを仁慈の道とす。人苟も此の心を失はば理に背き道に違ひ、以て自ら立つこと無し。誠に能く仁慈にして後、以て人と爲すべし。故に曰く、仁は人な

夫は其の外を治め、婦は其の内を修むる者なり。夫婦和順なれば、一家齊整す。所謂人倫は夫婦に始るなり。之を忠孝に並べて人倫の大義とす。

友愛第四 兄弟は一體一支なり。長少の序、惠順の別あり、と雖も、相友愛するの情理に至ては、則ち異なること無し。故に其の理を念ひ、其の情を盡し終身相善くして、以て其恩義を全くするを、兄弟の道とし、夫婦の和順に亞で、人倫の大義とす。

信義第五 人の身を立て道を行ふ、必ず朋友の輔を須つ。故に一たび相友とすれば、互に腹心を開き、忠告善導、患難相濟ひ、得喪を以て其の交を渝へず、終始一の如きを、朋友の信義とし、五倫中の一要義にして、亦汎く人に交るの道なり。

勤學第六 人皆天賦の徳性あり。然れども學ばずして能く道を知る者無し。必ず當に先覺に就て學習し、道を明め、行を修め、以て其の徳を成すべし。苟も師とする所無く才を恃みて自ら用ゐるときは、徳を傷ひ事を償ふ。小技末藝と雖も、終に成すこと能はず。故に勤學は、己を成し物を成すの根柢なり。

禮讓第十 禮は天理の節文、人事の儀則、讓は則ち禮の實なり。禮讓有り、而して後、天理全く、人事順にして、家齊ひ國治まる。一日之を去れば、則ち人、人欲を縦にして争鬪犯亂、至らざる所なし。其の禽獸を去ること幾何ぜや。必ず當に恭敬謙遜を主とし、進退動止、須臾も禮讓に離れざるべし。則ち萬物の靈たるに愧ぢざるなり。

儉素第十一 人各々貴賤貧富の分あり。故に其の分に隨ひて財用を節し儉素を守るは、天道を敬し人福を享くる所以なり。苟も意を肆にして奢侈に趨けば、必ず殃咎を致す。甚しきは則ち身を喪ひ家を亡すに至る。慎まざるべけんや。若し夫れ、徒に財利を愛し、當に散すべくして散ぜざるは吝なり。儉に非ず。儉吝の別、亦當に審にすべき所なり。

忍耐十二 人志ありと雖も、忍ぶことあらざるものは事中道にして廢す。唯よく忍ぶこと有りて、垢を含み、恥を蒙り、艱苦を甘んじ、危患を踐む者、乃ち其の志を成すことを得ん。之を泉水の深山に出で

江海に達するに譬ふ。其のよく然る所以の者は、巖石のために盈進を廢せざればなり。忍耐の效、亦大ならずや。

貞操第十三 女子父母の家に在る時は、幽閑靜淑、敢て非禮に従はず、嫁して人の妻と爲るときは、又終身他靡く、事變に遭ひて其の守を易へず。是を之れ貞操と謂ふ。婦徳の尤も大なるものなり。故に柔順惠和、要訓に非ざるなしと雖も、特に此れを以て先とす。婦女其れ之を體せざるべけんや。

廉潔第十四 凡そ人義を立て道を行はんと欲せば、廉潔ならざるべからず。よく廉潔自ら持して榮利に誘はれず、而して後、義以て立つべし。道以て行ふべし。苟も貪汗の心有て、爲すべからざることを爲し、取るべからざるものを取るときは則ち義を傷り、道を害ふ。人の子に在ては不幸なり。人の臣に在ては不忠なり。事功有りと雖も復多とするに足らず。此れ廉潔の當に務むべき所以なり。

敏智第十五 智の人に於ける其の用誠に大なり然れども貴ぶ所は、事理に敏にして機宜に中るに在り。

を大にし、小利を視ず、近功を計らざるべし。則ち胸中自ら寛裕にして、成就する所必ず宏遠なり。
識斷第十九 識明かなれば善く斷ず。明識善斷は大謀を決し、大事を定むる所以にして、天下復處し難きものなし。是れ亦理を窮め意を誠にするの至りなり。

勉職第二十 人の天地の間に生るゝ、上天子より下庶人に至るまで、職有らざるはなし。既に職有り、一日之を怠れば罪を天地に獲。焉ぞ之を勉めざるを得んや。人々其の職の當に爲すべき所を勉めて、其の外を願はざるときは、邦國治安にして、上下共に景福を受く。豈美ならずや。

格言・警句

家 庭

父は子のために隠し、子は父のために隠す直きこと
その中に在り(孔子)
身體髮膚父母に之を受け、敢て毀損せざるは孝の始めなり、身を立て道を行ひ名を後世に揚げて以て父

若し徒に捷給にはせ、利巧に趨るときは、其の害亦甚し。故に忠信を以て本と爲し、道理を以て砥礪と爲し、研磨して己まざれば、則ち觸る所敏達洞徹、天下の事に於て亨らざることなし。

剛勇第十六 人よく剛勇なれば、事に當りて奮進し、屈せず撓まず、以て其の道を盡すことを得。苟も怯懦なれば、道理を知ると雖も或は利害に移されて自ら持すること能はず。故に必ず當に義を集め、氣を養ひ、以て其の心を持すべし。則ち柔者も必ず剛、怯者も必ず勇なり。

公平第十七 夫れ鑑の照す所、人其の美醜を争はず。公なればなり。衡の稱る所、人其の輕重を議せず。平なればなり。故に大公至平以て國家に臨まば、何ぞ其の治らざるを患へんや。苟も偏私有るときは則ち人服せずして衆従はず。小なるは怨讒を取り大なるは叛亂を致す。治亂の機、慎まざる可けんや。

度量第十八 寛裕にして容ること有る、之を度量と謂ふ。度量は善を聚め衆を得る所以にして、盛徳大業、此に資て以て成る。故に人當に務めて其の規模

母を安んずるは孝の終りなり(孔子)
父母は數多の子女を一視平等に愛するを以て最緊要とす(ブラツキー)
借りるべからず、借りれば夜間の支配と晝間の恥辱とを招かん(印度)
良馬蹉跌せず良妻は決して不平を鳴らさず
(ポルトガル)
姑はその且て嫁たりし時を記憶せず(イスパニヤ)
父の恩は山よりも高く、母の恩は海よりも深し
(日本)
親は數子の出生を喜ばず寧ろ一子の死亡を悲しむ
(イギリス)

兄弟は兩手の如し(日本)
子を持ちて知る親の恩(日本)
兄弟も金錢上は他人なり(トルコ)
親戚とは飲食を共にすべきも事業を共にすべからず
(ギリシヤ)

衣服に準じて羽織をこしらへよ(オランダ)
節儉貯蓄を旨とせよ、朝の太陽は終日照らず

(イギリス)

金を貸せば金と友とを失ふ(イギリス)

胡馬北風により、越鳥南枝に巢ふ(文選)

無用のものはびた一文にても高價なり(セネカ)

金錢は肥料の如し撒布せざれば殆ど用をなさず

(セネカ)

妻は少年の戀人、中年の頼伴、老年の養護者なり

(ベーコン)

急に結婚すれば徐ろに悔ゆることあるべし

(コンダグリーブ)

家貧にして良妻を思ひ、國亂れて良相を思ふ(史記)

人その子の悪を知ること能はず(大學)

珍客も長座に過ぐれば厭はる(アンデルセン)

何人もその所得に於て生計を立つべし(オウキツド)

子故の闇に迷ふ(日本)

可愛い子には旅をさせ(日本)

なすときの閻魔顔(日本)

老ては子に従ふ(日本)

人生・時

人生は勞力を費さざる人には一物をも與へず

(ホレース)

人生は戰爭なり(ヤング)

生命は黄金を積むも之を買ふを得ず(ホーマー)

尺の璧を貴はず寸の陰を貴ぶ(文中子)

過去に慮り現在に働き未來に樂しむ

(ピーコンスフィールド)

人の齡は草の如く其の榮は野の花の如し(舊約全書)

既往は咎めず(孔子)

日月逝く歳我れと與ならず(陽貨)

己れを決して許すべからず他人は大いに之を許せ

(ドイツ)

事業は人生の鹽なり(イギリス)

泣き面に蜂(日本)

希望・苦樂・勤勉・忍耐

陽氣の發する所金石も亦透る、精神一到何事か成ら

ざらん(程尹川)

予は予が信頼する唯一の朋友なり(テレンス)

希望あらざれば勉力なし(ジョンソン)

人は眞摯に我が無識を自白せざるべからず

(ブラツキー)

及ばぬ希望は狼が月を食まんとするに似たり

(イギリス)

大望は大人を作る(イギリス)

星に向つて跳べば泥中に落つ(イギリス)

潮流に従がつて航海を遂げよ(ホープ)

機會は發見する毎に之を捕へざるべからず

(ベーコン)

機會は躊躇すれば多く之を失ふ(サイラス)

人事には潮汐あり、其満潮に乗ずれば幸運に達す

(シエクスピア)

既往を顧みて慨歎すべからず、將來を想ふて失望す

(フロレー)

不幸なる人にして始めて慈善心の價値を知る

(ルーソー)

他人の失錯を見てわが失錯を防げ(テレンス)

(ホーマー)

多く艱難を嘗めたる人は知ること亦多し

人間萬事塞翁が馬(蘇東坡)

富貴も顯達も吾人を幸福ならしむること能はず

(ラ・フォンテーヌ)

幸福の秘訣は知識なり(キングスレー)

愉快なる心は利益を與ふること藥石の如し(聖書)

歡樂極りて哀情多し(漢武帝)

運命に對して争ふも益なし(マツシンジャー)

天性と職業との相符合する者は幸福なり

(ベーコン)

成功の秘訣は己に克ち他人に克つの法を知るにあり

(イギリス)

最も大なる危險の後に最も大なる快樂あり

(イギリス)

心配多ければ頭を白くす(ギリシヤ)

用心は憶病にせよ(日本)

勉強は成功の母なり(クキゾー)

鶏鳴に起きざれば日暮に悔あり(楠公)

勉強は老後に食物を得べき無上の保險なり(ラテン)

座して食へば大山も空し(日本)

早起きは三文の徳あり(日本)
堪忍は無事長久の基(家康)
失望は痴人の斷案なり(ビーコンスフキールド)
克己は勝利の最大なるものなり(ブレト)
短氣は損氣(日本)

果斷・天禀

障碍に勝ち主要の目的を達するは只細心聰明機巧に由る(ナポレオン)
直進直行せよ(エリオット)
猶豫は危険なる最後を有す(シエクスピア)
人遠慮なければ必ず近憂あり(孔子)
明日爲すべき事は今日之を爲せ(フランクリン)
心中の智慧は掌中の金に勝れり(シンゲールス)
智慧は運命の征服者なり(ジュヴェナール)
徐ろに熟して速に行へ(イギリス)
手を働かしむる前に頭を働かしめよ(イギリス)
誠實と勉強とを不易の友となせ(フランクリン)
熱心に働かざる人は食ふべからず(イギリス)
辛く働き甘く眠れ(デンマーク)

アダムは耕し、イブは織れり、而して凡ての貴族は皆此の源より來れるなり(デンマーク)

德行・名譽

德行とは最も美麗に最も愛すべき二人の天女なり(ベーコン)
不朽の名譽は獨り徳に存す(ペトラーク)
徳は香氣の如し、之を碎けば益々香し(ベーコン)
仁者は敵なし(孟子)
人に善事を施し報を思ふな(楠公)
己の欲せざる所は人に施すこと勿れ(孔子)
智者は惑はず、仁者は憂へず、勇者は惑はず(孔子)
過れば則改むるに憚ること勿れ(孔子)
良薬口に苦くして病に利あり、忠言耳に逆ふて行ひに利あり(孔子)
不義にして富み且つ尊きは我に於て浮雲の如し(孔子)
孝は徳の本なり(孔子)
積善の家に餘慶あり(周熹)
義を見てせざるは勇なきなり(孔子)

棺を蓋ふて事始めて定まる(ソロン)
物品と共に本心を賣るなかれ(イギリス)
他人の落度を詮索する者は己れの落度を知らず(インド)

常に恐るゝよりは一たび危険を冒せ(イギリス)
せつなきときの神のみ(日本)
開ける戸は名僧知識を誘惑す(イギリス)
好事門を出でず、悪事千里を行く(北歐俚言)
嶄然として頭角を見はす(韓退之)
深切は決して損耗とならず(イギリス)

沈黙

沈黙は無意義の言語に優れり(ピサゴラス)
沈黙は眞理の母なり(ビーコンフキールド)
思慮なき人は常に談ず(ホーマー)
舌は禍福の門なり(老子)
言ふ人は行ふ人に非ず(シエクスピア)
駟も舌に及ばず(孟子)
能はずといふ語は予の字典中には非ず(ナポレオン)
知るものは言はず、言ふ者は知らず(老子)

巧言令色鮮し仁(孔子)
深き河は黙して動くも淺き河は喧し(イギリス)
言語と投げたる石は呼び返すこと能はず(ドイツ)

眞實・愛情・慾望

眞實の語は簡單なり(セネカ)
一個の虚言を吐く者は之を維持せんが爲めに更に二十の虚言を案出せざるを得ず(ポーブ)
人の噂も七十五日(日本)
愛情は善き生活の最大基礎なり(エリオット)
汝の敵を愛せよ(キリスト)
愛は萬事を生む(ペトラーク)
戀ふことゝ賢きこととは兩立せず(ベーコン)
石とならば磁石となれ、草とならば知羞草となれ、人とならば戀とならん(ユーゴー)
眞の戀は人を恐るること能はず(セネカ)
人生愛なくば如何(バインズ)
凡て人間は我を愛する人を愛す(エマートン)
婦女子は初戀に於ては情人を戀ひ、其他に於ては戀を戀ふ(バイロン)

詔ふは賞むるよりも易し(リツチャイ)
 戀に上下の差別なし(日本)
 回復なき愛戀は返答なき疑問の如し(イギリス)
 父母の愛は諸徳の基なり(イギリス)
 戀人の怒は短し(イタリー)
 貪慾は百惡の親なり(クロロヂアンス)
 多くを貪る人は多くを缺く(ホレース)
 我田引水(日本)
 貪慾は七情中の最も卑しく最も手前勝手なるものなり(イギリス)
 守銭奴の倅は概して遊治郎なり(ラテン)

教育・宗教

完全なる教育を子女に遺すは遺産中の最良なる者なり(トマス・スコット)
 實例は原理を心に銘せしむ(ピーコンスフキールド)
 國家の基礎は其の少年を教育するに在り
 (ギイオゼエス)
 信向なき人に教ふるは石に物を種うるが如し
 (萩生徂徠)

人心の同じからざるは其の面の如し(子産)
 兒童は父母の行爲を映照する鏡なり(スペインサー)
 教育は紳士を創造し、讀書は良友を創造し、而して
 反省力は完璧の人を造る(ロツク)
 惡模範は傳染病の如し(イギリス)
 教育は貧者の天なり(ラテン)
 蛙の子は蛙(日本)
 水は方圓の器に従ひ人は善惡の友による(日本)
 子供が死したる後に井戸に蓋をなすとも既に遅し
 (デンマーク・ドイツ)
 少年と白紙は如何なる者をも印記せらる(イギリス)
 舌は劍よりも人を殺す(イスパニヤ)
 口八丁、手八丁(日本)
 神意に背きては一事をも爲すこと能はず
 (ハンニバル)

一國の力は宗教に在り(ベン・ジョンソン)
 上帝に對して信心を失ふものは人間に對して信用を失ふ(シセロ)
 宗教は人生の法則たらざるべからず、其の偶然の附

屬物たるべきに非ず(ピーコンスフキールド)

宗教は人生の眞正なる快樂に冷淡ならず

(バツクミンスター)

天は凡ての受造物に對して其の運命の帳簿を隠す

(ホープ)

天上天下唯我獨尊(釋迦)

心だに眞の道に稱ひなば祈らずとも神や守らん

(菅原道實)

天は決して勞働せざる人を助けず(ソクラクルス)

天は自ら助くる人を助く(スマイルス)

天は正理を保護す(ホーマー)

誠は天の道なり、之を誠にするは人の道なり(孔子)

天を怨まず、人を咎めず(孔子)

天に克ち天に従へ(ミル)

君子に三つの畏れあり、天命を畏れ、大人を畏れ、

聖人の言を畏る、小人は天命を知らずして畏れず、

大人に狎れ聖人の言を侮る(孔子)

坊主憎くければ袈裟まで憎し(日本)

正直の首に神宿る(日本)

神は現金に拂はず然れども最後に拂ふ(オランダ)

知らぬが佛(日本)

鰯の頭も信心から(日本)

佛作りて魂入れず(日本)

佛の顔も二度三度(日本)

神は早く起きる人を助く(イスパニヤ)

宗教なき人は手綱なき馬の如し(ラテン)

健康

健康を保つは一つの義務なり(スペインサー)

病を知るは治療の始めなり(ドン・クキゾー)

良薬口に苦し(孔子)

健康は快樂を生じ、快樂は健康を生ず

(スペクテーター)

健康と相兩立するは節制のみ(ホープ)

鯨飲は蠱惑する所の惡魔なり、愉快なる害毒なり、

甘美なる罪障なり(アウガスチン)

飲食を節せよ然らば汝は健康なるべし

(フランクリン)

恬淡虚無なれば眞氣之に従ひ、精神内に守る病何に

よりて來らん(素問)
肉眼の閉づるに及びて心眼始めて見るを得(ローマ)
理髮師は若からざるべからず、醫師は老ひざる可からず(ドイツ)

生るゝは死するの始めなり(イギリス・ドイツ)
人生最大の事業は死に備ふるに在り(イギリス)
死を療する藥なし(イギリス)
命あつての物種子(日本)
只一皿を食ふ者は決して醫者を要せず(イギリス)

社 會 ・ 雜

瓜田に履を納れず、李下に冠を正さず(文選)
智者は疑ひ且つ慎む(ホーマー)
命を知る者は巖牆の下に立たず(孟子)
君子は口を愛し、虎豹は爪を愛す(說苑)
人は用ひ方によりて物の用に立つべきものなり(徳川吉宗)
人は決してその非なりし事を告白するを恥づべからず(ポーブ)
愚者は黙すること能はず(デヤラタス)

有徳なる婦人は良人の命に維れ従ひて却て良人を左右す(パブリウス・サイラス)
只女子と小人とは養ひ難しと爲す、之を近づければ則ち不遜、之を遠ざくれば則ち怨む孔子顔は精神の門にしにその肖像なり(シセロ)

婦人の美德は謙遜に在り(リットルトン)
酒と女とは苦難の原因なり(マーシャル)
楽しみ且つ笑ふて以て老を追ふべし(シエクスピア)
幼時に沈靜に、壯年に及び公正に、老年に及んで深慮なれ(ソクラテス)
少年は失錯の年なり、壯年は競争の年なり、老等は後悔の年なり(ピーコンルフキールド)
盛年重ねて來らず一日再び晨なり難し、時に及で勉勵すべし歲月は人を待たず(陶淵明)
少年の時は生涯只一回あるのみ(ロングフロエー)
始めは處女の如く後は脱兔の如し(司馬遷)
恒産なくんば恒心なし(孟子)
滿は損を招き、謙は益を受く(周易)
富はたゞ吾人に衣食と火とを與ふるのみ(ポーブ)

富貴なれば則ち親戚之を畏懼し、貧賤なれば則ち之を輕易す(蘇秦)

人貧しければ知短く、馬疲るれば毛長し(朝野僉載)
友あり遠方より來る亦樂しからずや(孔子)
眞正の友誼は不朽なり(ピサゴラス)
二心ある朋友は最も危険なる讐敵なり(フキールデング)

私かに汝の友を諫めて公に之を譽めよ(パブリウス・サイラス)
艱難に逢ふて始めて眞友を知る(シセロ)
朋友の良否は利害の分かるゝ所なり(グレイ)

最も舊友は最良友なり(ブロータス)
同病相憐み、同愛相救ふ(吳越春秋)
眞友なき人は憐むべき孤獨の境涯に在る人と謂ふべし、眞友なくんば世界はあだかも荒野の如くなるべければなり(ベーコン)
友誼は血縁より強し(パブリウス・サイラス)
人生交友の快樂より貴重なる快樂はあらず(ジョンソン)

幸運に向へば友誼盛んに、惡運に向へば友誼衰ふ(ア・ロン・ヒル)

野獸は人間よりも人間の親切を感じる事深し(ベルソー)
友誼は風の如し(ピーコンスフキールド)
人面獸心(日本)

三人よれば文珠の智恵(日本)
容易く約束を爲す人は容易く之を忘る(イギリス)
龜の甲より年の效(日本)

人のふり見てわがふり直せ(日本)
人は一代名は末代(日本)
麒麟も老ゆれば驚馬に劣る(日本)

負ふた子に教へられて淺瀬を渡る(日本)
酒と女と運命とは依頼すべからず(イギリス)
盈つれば欠くる(日本)

口に蜜、腹に劍(日本)
武士は食はねど高楊子(日本)
稼ぐに追付く貧乏なし(日本)
人間七顛八起き(日本)

野人は絹製の枕に睡るも猶野人なり（イギリス）
 無くも七癖、有りて四十八癖（日本）
 智者も千慮に一失あり（日本）
 人を見たら盗賊と思へ（日本）
 弘法にも筆の誤り（日本）
 壁に耳あり（日本）
 金言は國民の明斷を簡約せるものなり（マツキーントン）
 俚諺は多年の經驗より認めたる短文章なり（セルヴァンテス）
 油と水と女、秘密は互に相容れざる性を有す（バルワー）
 殷鑒遠からず夏后の世にあり（詩經）
 過ぎたるは猶及ばざるが如し（孔子）
 格言は真相を寫す鏡なり（ブルターヌ）
 去る者は日々に疎し（日本）
 日暮れて道遠し（日本）

處世訓終

社會常識通論終

昭和十五年三月三日印刷
 昭和十五年三月六日發行

（社會警察常識通論）奥附

〔定價金貳圓五拾錢〕

發著 東京市牛込區原町二ノ五七
 行作 重 松 鴻 衛
 人兼

印刷 東京市牛込區榎町七
 者 安 達 信 雄

印刷 東京市牛込區榎町七
 所 大日本印刷株式會社
 榎町工場

不 許
 複 製

發行所

東京市牛込區原町二ノ五七

日本警察社

振替東京五一〇三番

398
64

終